

自然史研究

VOL. 4, No. 5
28-II-2022

大阪市立自然史博物館

SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History

大阪府外来生物目録

長谷川匡弘^{1*}・石田 惣¹・松井彰子¹・松本吏樹郎¹・長田庸平¹・初宿成彦¹・植村修二²・和田 岳¹

List of non-native species in Osaka Prefecture

Masahiro HASEGAWA¹, So ISHIDA¹, Shoko MATSUI¹, Rikio MATSUMOTO¹,
Yohei OSADA¹, Shigehiko SHIYAKE¹, Syuji UYEMURA² and Takeshi WADA¹

Abstract This list shows non-native species that are thought to have been introduced mainly after the Meiji era and were recorded in Osaka Prefecture. As a result, the following species were listed, Mammals: 11 species, birds: 12 species, reptiles: 3 species, amphibians: 2 species, fish: 45 species, insects and spiders: 196 species, other invertebrates: 68 species, mosses: 3 species, vascular plant species: 800 species.

抄録：大阪府下から記録されている哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫類、その他無脊椎動物、コケ類、維管束植物について、主に明治時代以降に持ち込まれたと考えられる外来種を整理し目録を作成した。結果として哺乳類 11 種、鳥類 12 種、爬虫類 3 種、両生類 2 種、魚類 45 種、昆虫類・クモ類 196 種、その他無脊椎動物 68 種、コケ類 3 種、維管束植物種 800 種がリストアップされた。

Key Words : alien species; introduced species; invasive species; Osaka Prefecture

本目録ではとくに明記していない限り、原則として明治時代以降（植物では、江戸時代中期以降を含む）に持ち込まれた種を扱った。ただし、明治時代以前に持ち込まれていた種であっても、明治時代以降にも持ち込まれているのが確実な場合はこのリストに含めた。判断できる場合は、外来亜種、国内外来生物、同種内の外来系統・飼育品種由来系統も扱った。

原産地は、家畜や家禽などは「(飼育品種)」、全世界的に分布している等の場合を「不明」とした。大阪府で最初の確認年は、定着の有無に関わらず確認された年を分かる範囲で示した（ただし、鳥類は最初の繁殖確認年

を示している）。法律・機関等での指定状況は、2021年11月時点のもので次のように略記する。特定：特定外来生物（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）、生態系：生態系被害防止外来種リスト（環境省：<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>）、世100：世界の侵略的外来種ワースト100（国際自然保護連合：<http://www.issg.org/>で公開されている）、日100：日本の侵略的外来種ワースト100（日本生態学会（編）外来種ハンドブック，地人書館，2002）。

大阪市立自然史博物館業績 第498号（2022年2月7日受理）

1: 大阪市立自然史博物館（Osaka Museum of Natural History）

2: 近畿植物同好会（Kinki Botany Association）

*: 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館(Osaka Museum of Natural History, Nagai Park 1-23, Higashi-sumiyoshi, Osaka, 546-0034, Japan)

e-mail: hasegawa@mus.nh.city.osaka.jp

I. 哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類

和田岳（大阪市立自然史博物館）

1. 哺乳類（表1）

哺乳類は、大阪府で繁殖定着していると考えられるものを挙げた。定着はしていないが記録のあるものとして、タイワンザル、フェレット、シマリス、タイリクモモンガ、カイウサギなどがある。

【文献】

- 今泉忠明（1986）イタチとテン 森を駆けめぐる万能選手。自由国民社，東京。
- 浦野信孝・西川喜朗・藤田俊児・松尾淳一（2000）大阪府北部でハクビシンを発見。Nature Study 46(11)：10。
- 大阪府（2000）大阪府野生生物目録。大阪府環境農林水産部緑の環境整備室，大阪。
- 大阪府外来生物目録（鳥類・哺乳類）作成検討部会（2008）大阪府の外来生物＜哺乳類・鳥類編＞ 外来生物って知っていますか？ 大阪府，大阪。
- 田中光彦（1980）ナチュラリストレポート タイワンの生態。都市と自然 49：4-5。

2. 鳥類（表2）

鳥類は、大阪府で繁殖記録のあるもののみを挙げた。近年、観察されているが繁殖記録がないものとして、コウライキジ、バリケン、コウノトリ、セキセイインコ、カササギ、ホウオウジャクなどがある。

シロガシラは、2017年に高槻市の淀川河川敷で繁殖が確認された。当初は外来生物と考えられていたが、近年九州、鳥取県、和歌山県など西日本各地で記録されていることから自然分布の可能性も指摘されている。そのため、ここでは外来生物リストから外した。

【文献】

- 日本野鳥の会大阪支部（2017）大阪府鳥類目録 2016。日本野鳥の会大阪支部，大阪。
- 大阪府（2000）大阪府野生生物目録。大阪府環境農林水産部緑の環境整備室，大阪。
- 大阪府水産林務課林政係（1973）大阪の野鳥。大阪府農林部水産林務課，大阪。
- 大阪府外来生物目録（鳥類・哺乳類）作成検討部会（2008）大阪府の外来生物＜哺乳類・鳥類編＞ 外来生物って知っていますか？ 大阪府，大阪。

3. 爬虫類（表3）

爬虫類は、原則として大阪府で繁殖記録があるものを挙げた。ただし、確実な繁殖記録ではないが、孵化直後と思われる個体が見つまっているカミツキガメは含めた。クサガメは、在来個体群がいる可能性があるのでリストに挙げなかった。

近年、ワニガメやリパークターなど、さまざまな外来カメ類が大阪府で確認されているが、いずれも繁殖が確認されていないためリストには含めなかった。

【文献】

- 大阪府（2000）大阪府野生生物目録。大阪府環境農林水産部緑の環境整備室，大阪。

4. 両生類（表4）

両生類は、大阪府で繁殖記録があるものを挙げた。確実な記録がないため含めなかったが、淀川上流の京都府ではチュウゴクオオサンショウウオ（及び在来のオオサンショウウオとの交雑個体）が生息しており、大阪府にも分布している可能性がある。

【文献】

- 大阪府（2000）大阪府野生生物目録。大阪府環境農林水産部緑の環境整備室，大阪。
- 堺市環境局環境保全部環境共生課（2021）堺市の生物多様性保全上考慮すべき野生生物-堺市レッドリスト 2021・堺市外来種アラートリスト 2021-。堺市環境局環境保全部環境共生課，堺。

表1 大阪府産外来哺乳類

目	科	和名	学名	移入元(原産地)	移入経路	法律・機関等での指定状況(2021年11月現在)	推定される影響	大阪府での最初の確認年	大阪府での生息状況	備考
食肉目	イヌ科	イヌ	<i>Canis familiaris</i>	(家畜)	飼育個体の逸出・放棄	生態系	在来生物を捕食、野生動物への病気の感染源	不明	一部の山林や河川敷のみ	
	アライグマ科	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	北アメリカ	飼育個体の逸出・放棄	特定・生態系・日100	在来生物を捕食、農業被害、家畜への侵入	2000年頃	山地から丘陵地に広く多数生息し、市街地にも通出	
	ジャコウネコ科	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	台湾	毛皮目的の飼育個体が逸出?	生態系	果樹の被害	2000年	北摂の山地を中心に広く生息し、市街地周辺にも出現	在来生物されることもある
	イタチ科	チョウセンイタチ	<i>Mustela sibirica</i>	ユーラシア大陸	毛皮目的の飼育個体が逸出	生態系・日100	在来生物を捕食	1935年頃	市街地周辺を中心に広く生息	
	ネコ科	イエネコ	<i>Felis catus</i>	(家畜)	飼育個体の逸出・放棄	生態系・世100・日100	在来生物を捕食、野生動物への病気の感染源	不明	市街地に広く生息	
齧歯目	リス科	タイワンリス	<i>Callosciurus erythraeus</i>	台湾	観光目的で放逐、飼育個体の逸出・放棄	特定・生態系	在来リスとの競合、農業被害、家畜への侵入	1973年	近年の確実な記録は、2007年に枚方市東部、2004年頃に吹田市	最初の記録は大阪城公園に放されたもので、1990年代までは生息していた。
	ネズミ科	ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>	不明	荷物に紛れて	生態系	家畜への侵入、人間の病気の感染源	不明	市街地に広く生息	在来系統もいる可能性あり
		クマネズミ	<i>Rattus rattus</i>	不明	荷物に紛れて	生態系・世100	家畜への侵入、人間の病気の感染源	不明	市街地に広く生息	
		ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>	不明	荷物に紛れて	生態系・世100	家畜への侵入、人間の病気の感染源	不明	市街地や河川敷、農耕地等に広く生息	
	ヌートリア科	ヌートリア	<i>Myocastor coypus</i>	南アメリカ	毛皮目的の飼育個体が逸出・放逐	特定・生態系・世100・日100	在来水草植物を食害、農業被害	2001年	淀川水系に広く生息。近年、大和川水系にも通出。	
偶蹄目	イノシシ科	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	(家畜)	飼育個体の逸出・放棄	生態系	在来のイノシシとの交雑	昭和50年代	生駒山地等に生息するとされる	イノシシとの区別は困難

表2 大阪府産外来鳥類

目	科	和名	学名	移入元(原産地)	移入経路	法律・機関等での指定状況(2021年11月現在)	推定される影響	大阪府での最初の繁殖確認年	大阪府での生息状況	備考
キジ目	キジ科	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	中国南部	狩猟用に放鳥	-	-	1920年代?	山林に広く生息	
カモ目	カモ科	コバクハチョウ	<i>Cygnus olor</i>	ユーラシア大陸	観賞用に放鳥	生態系	水辺環境の改変、希少水生植物の捕食	1970年代~1980年代	公園などの池	
		アイガモ・アヒル	<i>Anas platyrhynchos</i> var. <i>domesticus</i>	(家畜)	飼育個体の逸出・放棄	生態系	カルガモとの交雑	不明	公園などの池	
ハト目	ハト科	ドバト	<i>Columba livia</i>	(家畜)	飼育個体の逸出・放棄、イベントでの放鳥	日100	フン害	不明	市街地に広く多数生息	
チドリ目	セイタカシギ科	クロエリセイタカシギ	<i>Himantopus himantopus mexicanus</i>	南北アメリカ大陸	飼育個体の放鳥	生態系	在来のセイタカシギとの交雑	2003年	堺市の池で繁殖記録	
スズメ目	チメドリ科	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	中国南部~東南アジア	飼育個体の逸出・放棄	特定・生態系・日100	ウグイス等との競合	2000年	山地に広く生息。	
	ムクドリ科	ハツカチョウ	<i>Acridotheres cristatellus</i>	中国中南部~東南アジア	飼育個体の逸出・放棄	生態系	ムクドリ等との競合	1983年	市街地に広く点在。	
	カエデチョウ科	ベニスズメ	<i>Amandava amandava</i>	南アジア	飼育個体の逸出・放棄	-	-	1973年以前	かつては河川敷等の草地に生息	
		ギンバラ	<i>Lonchura malacca</i>	南アジア	飼育個体の逸出・放棄	-	-	1965年	羽曳野市で1例の繁殖記録のみ	
		キンバラ	<i>Lonchura atricapilla</i>	南アジア~東南アジア	飼育個体の逸出・放棄	-	-	1973年以前	かつては河川敷等の草地に生息	
		ブンチョウ	<i>Lonchura oryzivora</i>	インドネシア	飼育個体の逸出・放棄	-	-	1973年頃	1970年代に東大阪市の住宅地で繁殖	
	ホオジロ科	コウカンチョウ	<i>Paroaria coronata</i>	南アメリカ	飼育個体の逸出・放棄	-	-	1980年代	1980年代に長居公園(大阪市)や大泉緑地(堺市)で繁殖	

表3 大阪府産外来爬虫類

目	科	和名	学名	移入元(原産地)	移入経路	法律・機関等での指定状況(2021年11月現在)	推定される影響	大阪府での最初の確認年	大阪府での生息状況	備考
カメ目	イシガメ科	ミナミイシガメ	<i>Mauremys mutica</i>	中国、台湾、八重山諸島	飼育個体の逸出・放棄?	生態系	-	不明	北摂で記録あり	
	ヌマガメ科	アカミガメ	<i>Trachemys scripta</i>	北・南アメリカ	飼育個体の逸出・放棄	生態系・世100・日100(重種ミンシッピアカミガメ)	在来水生生物を捕食、在来カメ類との競合	1970年代以前	平野部のため池・河川等に広く分布	
	カミツキガメ科	カミツキガメ	<i>Cheyletra serpentina</i>	北・中部アメリカ	飼育個体の逸出・放棄	特定・生態系・日100	在来水生生物を捕食	2000年代	平野部のため池・河川等に広く分布	野化直後と思われる小型個体が見つかった

表4 大阪府産外来両生類

目	科	和名	学名	移入元(原産地)	移入経路	法律・機関等での指定状況(2021年11月現在)	推定される影響	大阪府での最初の確認年	大阪府での生息状況	備考
無尾目	ヒバ科	アフリカツガエル	<i>Xenopus laevis</i>	アフリカ中南部	飼育個体の逸出・放棄	生態系	在来水生生物を捕食	2019年	堺市の1ヶ所でのみ確認	
	アカガエル科	ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i>	北アメリカ	食用目的の放逐、飼育個体の逸出	特定・生態系・世100・日100	在来水生生物を捕食	不明	平野部のため池等に広く分布	

II. 魚類

松井彰子（大阪市立自然史博物館）

淡水魚を対象とし、定着・未定着にかかわらず、大阪府の野外で記録のある全ての外来魚をあげた（表 5）。なお、リストの内容は、大阪市立自然史博物館で把握している範囲の文献記録または標本記録にもとづいている。リストの文献欄に、各種について大阪府での最初の確認年および繁殖・定着状況等に関する主要な文献および標本記録を掲載した。

【謝辞】

外来魚リストの作成にあたり、柏尾 翔氏（きしわだ自然資料館）、花崎勝司氏（高槻市立自然博物館）、山田浩二氏（貝塚市立自然遊学館）、山本義彦氏（地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 生物多様性センター）には、文献や標本等の情報提供にご協力いただき、リストについて貴重なご意見を賜りました。また、奥川陽平氏（大阪府立富田林高等学校）、川瀬成吾氏（琵琶湖博物館）、京都府立嵯峨野高等学校、および国土交通省淀川河川事務所淀川資料館には、貴重な文献をご提供いただきました。厚く御礼申し上げます。

【文献】

- 東 光治（1949）淀川の魚。大阪博物学会会誌（創立 25 周年記念号）：26-31。
- 市岡高校生物部魚班（1971）自然破壊への挑戦—淀川の淡水魚の研究から—。Nature Study 17(7)：7-11。
- 伊東大樹・松井彰子（2021）国外外来魚カワイワシ属の淀川水系における初記録。Nature Study 67(12)：6-7。
- 上田 収・香月利明・河田航路・北坂正晃・田丸八郎・林 美正・増田修平（2017）大阪府におけるメダカの生息と遺伝子型分布の実態に関する検討—第四次メダカ調査結果報告（第 4 報）—。シニア自然大学校，大阪。
- 小穴快音・中村奏夫（2021）大阪府でイワナの繁殖を初確認。足もとの自然史 Jr ジャーナル 4：69-72。
- 大阪市環境局環境管理部環境管理課水環境保全グループ(a)。平成 3 年度の市内河川魚類生息状況調査結果。<https://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/cmsfiles/contents/0000445/445202/H3kekka.pdf>（2019 年 12 月 10 日参照）
- 大阪市環境局環境管理部環境管理課水環境保全グループ(b)。平成 23 年度の市内河川魚類生息状況調査結果。<https://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/cmsfiles/contents/0000445/445202/H23kekka02.pdf>（2019 年 12 月 10 日参照）
- 大阪市立自然史博物館（2020）第 50 回特別展「知るか

らはじめる外来生物」解説書「知るからはじめる外来生物～未来へつなぐ地域の自然～」。大阪市立自然史博物館，大阪。

- 大阪府（1979）第 2 回自然環境保全基礎調査 河川調査報告書。大阪府。
- 大阪府（2000）大阪府野生生物目録。大阪府環境農林水産部 緑の環境整備室，大阪。
- 大阪府環境審議会水質部会（2016）河川水質環境基準に係る類型指定について（水質部会報告）。
- 大阪府環境農林水産部水産課（2013）大阪府内の川と魚（河川漁業権漁場実態調査報告書 2012 年調査）。大阪府立環境農林水産総合研究所，寝屋川。
- 大阪府水産林務課（1974）大阪府下の川と魚。大阪府水産林務課。
- 大阪府淡水魚試験場（1972）昭和 46 年度大阪府淡水魚試験場業務報告。大阪府淡水魚試験場，寝屋川。
- 大阪府淡水魚試験場（1973）淀川改修工事による魚類への影響予察調査の概要。大阪府淡水魚試験場，寝屋川。
- 大阪府淡水魚試験場（1975）淀川の魚類及び環境と改修工事による影響について。大阪府淡水魚試験場研究報告(3)：1-111。
- 大阪府淡水魚試験場（1976）昭和 50 年度 大阪府淡水魚試験場業務報告。大阪府淡水魚試験場，寝屋川。
- 大阪府淡水魚試験場（1986）昭和 59 年度大阪府淡水魚試験場業務報告。大阪府淡水魚試験場，寝屋川。
- 大阪府立環境農林水産総合研究所。淡水魚図鑑（在来種）アマゴ http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/zukan/zukan_database/tansui/2550b2c26477834/8450b579b0cc50e.html（最終閲覧日：2021 年 12 月 16 日）
- 岡本鼓都里・近藤流有（2019）琵琶湖系アユが滝畑ダム湖に定着できた理由～最上流域での特異な生活史～。足もとの自然史 Jr ジャーナル 2：2-6。
- 貝塚市立自然遊学館（1999）近木川流域の動植物。第 23 回全国育樹祭大阪府実行委員会・大阪府・貝塚市立自然遊学館，貝塚市。
- 貝塚市立自然遊学館（2002）寄贈資料。貝塚の自然—貝塚市立自然遊学館活動報告—（4）：56。
- 貝塚市立自然遊学館（2009）寄贈資料。貝塚の自然—貝塚市立自然遊学館活動報告—（11）：198。
- 河合典彦（1987）淀川にブラックバスにつづく侵入者—カダヤシの発見—。淡水魚 13：129。
- 川瀬成吾・石橋 亮・内藤 馨・山本義彦・鶴田哲也・田中和大・木村亮太・小西雅樹・上原一彦（2017）

- 淀川流域における外来魚類の生息状況. 保全生態学研究 22 : 199-212.
- 川瀬成吾・小西雅樹・上原一彦 (2018) 淀川流域に導入された外来魚類とその現状. 農業および園芸 93(9) : 808-822.
- 環境庁 (1987) 第3回自然環境保全基礎調査 河川調査報告書 近畿版(滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県). 環境庁自然保護局.
- 北野大輔・小林慧人 (2019) 淀川水系木津川における特定外来生物チャネルキャットフィッシュ若魚の採集記録. 地域自然史と保全 41(1) : 57-60.
- 紀平 肇 (1983a) 環境の変化と魚相の変遷—用水路の魚類—. 淡水魚 9 : 58-59.
- 紀平 肇 (1983b) 淀川における 58 番目の侵入者. 淡水魚 9 : 141.
- 紀平 肇 (1997) 淀川大堰魚道の魚類. 魚類自然史研究会会報誌 ボテジャコ 1 : 1-4.
- 紀平 肇・長田芳和 (1974) 魚類および貝類. 淀川河川敷生態調査団, 鉄川 精編, 淀川の河川敷における生態調査報告書. 近畿建設協会, 大阪, pp. 202-251.
- 紀平 肇・長田芳和・鉄川 精 (1977) 魚貝類. 淀川河川敷生態調査団, 鉄川 精編, 淀川河川敷生態調査報告書. 近畿建設協会, 大阪, pp. 75-111.
- 国土交通省. 河川水辺の国勢調査 河川環境データベースシステム.
<http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/> (最終閲覧日: 2021 年 12 月 16 日)
- 瀬口雄一・山本義彦・竹門康弘・源 利文 (2021) 淀川大堰湛水域における琵琶湖産アユの河川残留個体の存在. 魚類学雑誌 68(2):163-172
- Takeshima, H., K. Iguchi & M. Nishida (2009) Ayu (*Plecoglossus altivelis*) in a contact zone between amphidromous and landlocked forms: genetic analyses of populations in the Yodo River system. *Zoological Science* 26 : 536-542.
- 谷 壽一 (2020) 淀川三川合流域でのチャネルキャットフィッシュの記録. *Nature Study* 66(1) : 2-4, 12.
- 鉄川 精・紀平 肇・長田芳和 (1975) 魚類. 淀川河川敷生態調査団, 鉄川 精編, 淀川河川敷生態調査報告書. 近畿建設協会, 大阪, pp. 56-64.
- 内藤 馨・石橋 亮・金丸善紀・宮下敏夫 (2014) 淀川淡水域における魚類相の現状. 地域自然史と保全 36 : 41-52.
- 内藤 馨・石橋 亮・金丸善紀・宮下敏夫. 淀川淡水域魚類相調査 (2012).
http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00060622/yodo-hokoku2012.pdf (最終閲覧日: 2021 年 12 月 25 日)
- 内藤 馨・平松和也. 淀川淡水域魚類相調査 (2004).
http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00060615/yodo-hokoku2004.pdf (最終閲覧日: 2021 年 12 月 25 日)
- 長井勇樹・岩井広樹・岡本鼓都里 (2018) 滝畑ダム湖のアユの由来についての考察 ~特異な環境に陸封されたアユの生態から~. 足もとの自然史 Jr ジャーナル 1 : 2-8.
- 中島 歩 (2021) 近木川・男里川でウグイ採集. 自然遊学館だより 100 : 13-14.
- 長田芳和 (1975) 淀川の魚. 淡水魚 1 : 7-15.
- 成田清章 (1969) 淀川水系の魚類について. 近畿地方建設局淀川工事事務所, 枚方.
- 野地貴弘・綾 史郎・白石知之・紀平 肇 (2009) 城北公園内大池の生息環境に関する研究. 土木学会年次学術講演会講演概要集 64(2) : 545-546.
- 波戸岡清峰 (2013) 長居公園の池の魚. *Nature Study* 59(12) : 10-11.
- 波戸岡清峰・金山 敦 (2007) 城北ワンドで採集された外来魚コウタイと大阪府におけるタイワンドジョウ科魚類の現状. *Nature Study* 53(12) : 2-5.
- 花崎勝司 (2014) 芥川水系 (大阪府高槻市) から 2009 年~2013 年に記録された魚類. 地域自然誌と保全 36(2) : 135-146.
- 花崎勝司・豊田正樹 (2017) 芥川 (淀川水系・大阪府高槻市) において記録されたコクチバス. 南紀生物 59(2) : 166-167.
- 花崎勝司・三宅壽一・金尾滋史・小北智之 (2011) 津田川上流域 (大阪府岸和田市) で採集されたハリヨ. きしわだ自然資料館研究報告 3 : 1-4.
- 林 博之 (2015) 琵琶湖下流域におけるヌマチチブの生息場所の拡大. 京都府立嵯峨野高等学校研究紀要 16 : 43-48.
- 林 博之・井上和樹・鎌田知希・田中佑季 (2015) 淀川水系におけるヌマチチブの mtDNA の比較. 京都府立嵯峨野高等学校研究紀要 16 : 49-56.
- Hirai, N., Y. Torii, H. Matsuoka & M. Ishii (2017) Genetic diversity and intrusion of alien populations of *Oryzias latipes* in Osaka Prefecture, central Japan. *Japanese Journal of Environmental Entomology and Zoology* 28 : 47-54.
- 牧 岩男 (1998) 和泉葛城山系を水源とする諸河川の最上流域に生息する魚類. 関西自然保護機構会報 20(1): 17-24.
- 松井彰子・中島 淳 (2020) 大阪府におけるドジョウの在来および外来系統の分布と形態的特徴にもとづく系統判別法の検討. 大阪市立自然史博物館研究報告 74 (印刷中)
- 松岡 悠・植野敏郎・柏尾 翔 (2016) 大阪府津田川水系のため池におけるハリヨの繁殖と成長. きしわ

- だ自然資料館研究報告 (4) : 31-35.
- Mabuchi, K., H. Senou & M. Nishida (2008) Mitochondrial DNA analysis reveals cryptic large-scale invasion of non-native genotypes of common carp (*Cyprinus carpio*) in Japan. *Molecular Ecology* 17 : 796-809.
- 馬淵浩司・松崎慎一郎 (2017) 日本の自然水域のコイ : 在来コイの現状と導入コイの脅威. *魚類学雑誌*, 64(2) : 213-218.
- 水野信彦 (1968) 大阪府の川と魚の生態 ー大阪府下における河川漁業権漁場の実態調査報告書ー. 大阪府水産林務課.
- 水野信彦・宮城正義 (1964) 大阪府・石川における魚類の生息状態. *関西自然科学*(16) : 15-18.
- 宮地伝三郎 (1935) 京都府の魚 (京都府編) 京都府史蹟名勝天然記念物調査報告, 京都.
- 向井貴彦・西田 睦 (2005) スマチチブ非在来個体群におけるミトコンドリア DNA の地理的変異. *魚類学雑誌* 52(2) : 133-140.
- 矢田敏晃・加藤喜久也 (1987) 淀川の魚類相と生息状況. 大阪府淡水魚試験場研究報告(9) : 1-125.
- 山田浩二・岩崎 拓 (2003) 近木川周辺の水生動物. 貝塚の自然ー貝塚市立自然遊学館活動報告ー (5) : 54-57.
- 山田浩二・岩崎 拓 (2004) 近木川および津田川の水生动物. 貝塚の自然ー貝塚市立自然遊学館活動報告ー (6) : 26-29.
- 山田浩二・岩崎 拓 (2005) 近木川の水生动物. 貝塚の自然ー貝塚市立自然遊学館活動報告ー (7) : 27-30.
- 山本義彦 (2021) 城北ワンドでプレコを発見. *Nature Study* 67(12) : 10,16.
- 吉田 誠・馬淵浩司・佐藤克文 (2020) 琵琶湖における外来魚アメリカナマズの捕獲情報収集および遊泳能力計測に基づく分布拡大予測. 自然保護助成基金助成成果報告書 29 : 150-161.
- 吉村元貴・大門 聖・中野修一・石田真隆・升方拓郎・柳本春樹・吉村知康・仲村華人・川村 圭・吉村圭介 (2014) 大阪府南河内地域における魚類相〜石川流域を中心として〜. *地域自然誌と保全* 36(2):125-134.
- 【標本記録】**
- 標本記録 1 : ポリプテルス属, 2016 年 11 月 12 日, 大阪府高槻市中川町 芥川 (阪急京都線鉄橋の下手). 高槻市立自然博物館所蔵 (AQP-F3408)
- 標本記録 2 : S-net サイト
(<http://science-net.kahaku.go.jp/>). アリゲーターガー (きしわだ自然資料館提供).
<http://science-net.kahaku.go.jp/specimen/2142837>
(最終閲覧日 : 2021 年 12 月 16 日)
- 標本記録 3 : レビソステウス属, 1989 年 9 月 5 日, 大阪府泉大津市 地先. 大阪市立自然史博物館所蔵 (OMNH-P41474)
- 標本記録 4 : レビソステウス属, 2018 年 3 月 4 日, 大阪府池田市五月丘 4 丁目 寺池. 大阪市立自然史博物館所蔵 (OMNH-P47580)
- 標本記録 5 : アジアアロワナ, 2010 年 8 月 25 日, 大阪府大阪市東住吉区長居公園 長居植物園前の噴水池. 大阪市立自然史博物館所蔵 (OMNH-P39280)
- 標本記録 6 : S-net サイト
(<http://science-net.kahaku.go.jp/>). タイリクバラタナゴ (大阪市立自然史博物館提供).
<http://science-net.kahaku.go.jp/specimen/3746175>
(最終閲覧日 : 2021 年 12 月 16 日)
- 標本記録 7 : S-net サイト
(<http://science-net.kahaku.go.jp/>). ロリカリア科の一種 (きしわだ自然資料館提供).
<http://science-net.kahaku.go.jp/specimen/2142317>
(最終閲覧日 : 2021 年 12 月 17 日)
- 標本記録 8 : S-net サイト
(<http://science-net.kahaku.go.jp/>). ワカサギ (大阪府立自然史博物館提供).
<http://science-net.kahaku.go.jp/specimen/3746796>
(最終閲覧日 : 2021 年 12 月 16 日)
- 標本記録 9 : S-net サイト
(<http://science-net.kahaku.go.jp/>). タウナギ (きしわだ自然資料館提供).
<http://science-net.kahaku.go.jp/specimen/2144606>
(最終閲覧日 : 2021 年 12 月 16 日)
- 標本記録 10 : S-net サイト
(<http://science-net.kahaku.go.jp/>). カダヤシ (高槻市立自然博物館提供).
<http://science-net.kahaku.go.jp/specimen/1788361>
(最終閲覧日 : 2021 年 12 月 16 日)
- 標本記録 11 : サザンブラティフィッシュ, 2003 年 9 月 20 日, 大阪府枚方市釈尊寺町・交野市松塚 天野川. 大阪市立自然史博物館所蔵 (OMNH-P28546)
- 標本記録 12 : エンゼルフイッシュ属, 2008 年 7 月 7 日, 大阪府柏原市古町 大和川柏原堰堤下流. 大阪市立自然史博物館所蔵 (OMNH-P49371)
- 標本記録 13 : ウグイ, 2018 年 10 月 25 日, 大阪府泉南郡岬町多奈川 東川 谷川橋付近. 大阪市立自然史博物館所蔵 (OMNH-P47339)

表5 大阪府産外来魚類

No.	目	科	和名	学名	原産地	大阪府で最初の確認年	法律・機関等での指定状況	大阪府での定着状況	備考	文献
1	ポリプテルス目	ポリプテルス科	ポリプテルス属	<i>Polypterus</i> sp.	アフリカ	2016年		未定着	観賞魚の遺棄・逸走	標本記録1
2	ガー目	ガー科	アリゲーターガー	<i>Atractosteus spatula</i>	北米大陸南東部	2009年	特定・生態系	未定着 繁殖記録はないが、淀川水系で成熟した雌雄が確認されており、動向を注視する必要あり	観賞魚の遺棄・逸走	標本記録2; 川瀬ほか(2017); 国土交通省
3			レピソステウス属	<i>Lepisosteus</i> spp.	北米、中米	2011年	特定・生態系	未定着	観賞魚の遺棄・逸走	大阪市環境局環境管理部環境管理課水環境保全グループ(b); 標本記録3; 標本記録4
4	オステオグロッサ目	オステオグロッサ科	アジアアロワナ	<i>Scleropages</i> sp.	東南アジア	2010年		未定着	観賞魚の遺棄	標本記録5
5	コイ目	コイ科	コイ(飼育型・飼育品種)「ヤマトコイ」、「錦鯉」など	<i>Cyprinus carpio</i>	(飼育品種)	不明(琵琶湖では1891年に導入)	世100	定着	一部はユーラシア大陸の養殖系統由来の可能性が高い	東(1949); 水野・宮城(1964); 水野(1968); 紀平・長田(1974); 長田(1975); 内藤・平松(2004); Mabuchi et al. (2008); 内藤ほか(2012; 2014); 大阪府環境農林水産部水産課(2013); 馬瀬ほか(2017)
6			ゲンゴロウブナ(飼育品種)「カワチブナ(ヘラブナ)」	<i>Carassius cuvieri</i>	(飼育品種)	不明		定着	ゲンゴロウブナは琵琶湖・淀川水系に自然分布	山田・岩崎(2003; 2004; 2005); 大阪府環境農林水産部水産課(2013)
7			フナ属(飼育品種)「金魚」など	<i>Carassius auratus</i>	(飼育品種)	1963年		定着は確認されていないが、定着や在来フナ属との交雑の可能性あり	一部は在来フナ属の色彩変異個体の可能性あり	水野(1968); 大阪府水産林務課(1974); 紀平・長田(1974); 大阪府(1979); 大阪府淡水魚試験場(1986); 大阪府環境農林水産部水産課(2013); 国土交通省
8			タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>	朝鮮半島、中国、台湾	1965年	生態系・日100	定着	ニッポンバラタナゴ及び交雑個体の記録との混同の可能性あり	標本記録6; 市岡高校生物部魚班(1971); 大阪府水産林務課(1974); 紀平・長田(1974); 長田(1975); 大阪府(1979); 紀平(1983a); 大阪府淡水魚試験場(1986); 環境庁(1987); 内藤・平松(2004); 内藤ほか(2012; 2014); 波戸岡(2013); 大阪府環境農林水産部水産課(2013); 吉村ほか(2014); 川瀬ほか(2017)
9			ハクレン	<i>Hypophthalmichthys molitrix</i>	ロシア、中国、東南アジア	1964年	生態系	未定着	1964年～1969年に淀川水系において水産放流。2010年以降の観察例もあるが、過去に放流された個体の生き残りである可能性が高い	成田(1969); 市岡高校生物部魚班(1971); 大阪府淡水魚試験場(1972; 1975); 大阪府淡水魚試験場(1973); 紀平・長田(1974); 大阪府水産林務課(1974); 長田(1975); 大阪府(1979)
10			コクレン	<i>Hypophthalmichthys nobilis</i>	中国南部～東南アジア	1974年以前	生態系	未定着	水産放流	鉄川ほか(1975); 長田(1975); 紀平ほか(1977)
11			カワイワシ属	<i>Hemiculter</i> sp.	朝鮮半島、中国、ベトナム、ロシア極東域、台湾	2020年		未定着だが、岡山県で定着している状況から、動向を注視する必要あり	観賞魚または釣り用の生餌の遺棄・逸走	伊東・松井(2021)
12			ハス	<i>Opsarichthys uncirostris uncirostris</i>	日本の他地域(琵琶湖・淀川水系)	1962～1982年		未定着	水産放流に混入	水野・宮城(1964); 大阪市環境局環境管理部環境管理課水環境保全グループ(a); 大阪府環境農林水産部水産課(2013)
13			ソウギョ	<i>Ctenopharyngodon idella</i>	ロシア、中国	1964年	生態系・日100	未定着	1964年～1969年に淀川水系において水産放流。2010年以降の観察例もあるが、過去に放流された個体の生き残りである可能性が高い	成田(1969); 市岡高校生物部魚班(1971); 大阪府淡水魚試験場(1972; 1975); 長田(1975); 紀平ほか(1977)
14			ウグイ	<i>Pseudaspius hakonensis</i>	日本の他地域	2018年		不明	2018年以降、泉州の複数河川の下流域において記録	標本記録13; 中島(2021)
15		ドジョウ科	ドジョウ(中国大陸系統)	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	中国大陸	2001年頃		定着	在来系統との厳密な判別は形態からだけでは難しい	松井・中島(2020)

No.	目	科	和名	学名	原産地	大阪府で最初の確認年	法律・機関等での指定状況	大阪府での定着状況	備考	文献
16			カラドジョウ	<i>Misgurnus dabryanus</i>	朝鮮半島、中国大陸中南部～ベトナム北部、台湾	2012年	生態系	未定着だが、国内各地で定着している状況から、動向を注視する必要あり	野外での記録は淀川の城北ワンドでの1個体のみだが、釣り餌として大阪府内で販売	川瀬ほか(2017); 松井・中島(2020)
17	カラシン目	セルラサルムス科	ピラニア類	<i>Serrasalminae</i> sp.	南米	2008年		未定着	観賞魚の遺棄	野地ほか(2009)
18		カラシン科	カージナルテトラ	<i>Parachetrodon axelrodi</i>	南米	2009～2013年		未定着	観賞魚の遺棄・逸走	吉村ほか(2014)
19	ナマズ目	アメリカナマズ科	チャネルキャットフィッシュ	<i>Ictalurus punctatus</i>	北米	2012年	特定・生態系	定着	淀川で広く成魚が確認され、三川合流域で多数の稚魚が確認されている	川瀬ほか(2017, 2018); 北野・小林(2019); 谷(2020); 吉田ほか(2020)
20		ロリカリア科	マダラロリカリア属	<i>Pterygoplichthys</i> sp.	南米	2021年	生態系(マダラロリカリア)	未定着	観賞魚の遺棄・逸走	山本(2021)
21		ロリカリア科		<i>Loricariidae</i> spp.	中米、南米	1996年		未定着	観賞魚の遺棄・逸走	標本記録7; 大阪市立自然史博物館(2020)
22		ビメロドゥス科	タイガーシヨベルノーズキャットフィッシュ	<i>Pseudoplatystoma fasciatum</i>	南米	2000年		未定着	観賞魚の遺棄・逸走	貝塚市立自然遊学館(2002)
23	サケ目	キュウリウオ科	ワカサギ	<i>Hypomesus nipponensis</i>	日本の他地域	1977年		定着	淀川で断続的に記録されているが、定着は不明	標本記録8; 内藤・平松(2004); 内藤ほか(2012, 2014); 川瀬ほか(2017); 国土交通省
24		アユ科	アユ(他地域産)	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	日本の他地域(琵琶湖や各地の養殖場)	不明		定着	淀川水系や大和川水系で放流が長年続いているが、淀川での定着は不明。大和川水系の石川上流域で定着	Takeshima et al. (2009); 長井ほか(2018); 岡本・近藤(2019); 瀬口ほか(2021)
25		サケ科	ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i>	カムチャッカ半島、アラスカ～メキシコ北部の太平洋沿岸	1963年以前	生態系・世100・日100	未定着		水野・宮城(1964); 水野(1968); 紀平・長田(1974); 大阪府淡水魚試験場(1976); 大阪府環境農林水産部水産課(2013)
26			ニッコウイワナ	<i>Salvelinus leucomaenis pluvius</i>	日本の他地域	不明		定着		大阪府環境審議会水質部会(2016); 小穴・中村(2021)
27			サツキマス・アマゴ	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>	日本の他地域	1967年以前		定着	放流によって府内各地の山間部で繁殖	水野(1968); 牧(1998); 大阪府環境農林水産部水産課(2013); 貝塚市立自然遊学館(2009); 大阪府立環境農林水産総合研究所
28	タウナギ目	タウナギ科	タウナギ	<i>Monopterus albus</i>	朝鮮半島～中国、台湾、東南アジア、南アジア、琉球列島?	1960年		定着		標本記録9; 成田(1969); 市岡高校生物部魚班(1971); 紀平(1983a); 貝塚市立自然遊学館(1999); 内藤・平松(2004); 内藤ほか(2012, 2014); 吉村ほか(2014); 川瀬ほか(2017); 大阪市立自然史博物館(2020); 国土交通省
29	トゲウオ目	トゲウオ科	ハリヨ	<i>Gasterosteus aculeatus</i> subsp.	日本の他地域(岐阜県南西部)	2010年		定着	津田川水系のため池で繁殖	花崎ほか(2011); 松岡ほか(2016)
30	カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	<i>Gambusia affinis</i>	北米	1977年	特定・生態系・世100・日100	定着		標本記録10; 河合(1987); 内藤・平松(2004); 内藤ほか(2012, 2014); 吉村ほか(2014); 上田ほか(2017); 川瀬ほか(2017, 2018); 大阪市立自然史博物館(2020); 国土交通省
31			グッピー	<i>Poecilia reticulata</i>	南米	2000年	生態系	定着	工場や下水処理施設の温排水などで、冬でも温暖な水域に定着	大阪市立自然史博物館(2020); 国土交通省
32			サザンブラティフィッシュ	<i>Xiphophorus maculatus</i>	北米、中米	2003年		未定着	観賞魚の遺棄・逸走	標本記録11
33	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ(他地域産・飼育品種)	<i>Oryzias latipes</i>	日本の他地域、(飼育品種)	2000年以前		定着	外見で分かる飼育品種の他に、他地域産やヒメダカの遺伝子型が広く検出されている	Hirai et al. (2017); 上田ほか(2017)

No.	目	科	和名	学名	原産地	大阪府で最初の確認年	法律・機関等での指定状況	大阪府での定着状況	備考	文献
34	スズキ目	ケツギョ科	オヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i>	日本の他地域	2002年		定着	淀川水系の一部の支流で連続的に記録	大阪府環境農林水産部水産課(2013)
35		サンフィッシュ科	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus macrochirus</i>	北米大陸中東部～南東部	1969年	特定・生態系・日100	定着		市岡高校生物部魚班(1971);大阪府淡水魚試験場(1973);大阪府水産林務課(1974);紀平・長田(1974);紀平ほか(1977);大阪府淡水魚試験場(1986);内藤・平松(2004);内藤ほか(2012,2014);大阪府環境農林水産部水産課(2013);吉村ほか(2014);上田ほか(2017);川瀬ほか(2017,2018);大阪市立自然史博物館(2020);国土交通省
36			オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>	北米大陸中東部～南東部	1979年	特定・生態系・世100・日100	定着		大阪府(1979);紀平(1983b);大阪府淡水魚試験場(1986);環境庁(1987);紀平(1997);内藤・平松(2004);内藤ほか(2012,2014);大阪府環境農林水産部水産課(2013);吉村ほか(2014);上田ほか(2017);川瀬ほか(2017,2018);大阪市立自然史博物館(2020);国土交通省
37			コクチバス	<i>Micropterus dolomieu dolomieu</i>	北米大陸中東部～南東部	2012年	特定・生態系・日100	定着	淀川やその支流で様々なサイズの個体が確認されている	内藤ほか(2012,2014);川瀬ほか(2017);花崎・豊田(2017)
38	カワスズメ科	ナイルティラピア	<i>Oreochromis niloticus</i>	アフリカ、イスラエル	1985年?	生態系		定着	工場や下水処理施設の温排水などで、冬でも温暖な水域に定着。1985年の記録は「ティラピア」であるため、ナイルティラピアであるかどうか定かでない	環境庁(1987);内藤・平松(2004);川瀬ほか(2017);大阪市立自然史博物館(2020)
39			ジルティラピア	<i>Tilapia zillii</i>	アフリカ北部、西アジア	不明	生態系	未定着	観賞魚の遺棄・逸走	大阪府(2000)
40			パロットファイヤー・シクリッド	<i>Amphilophus citrinellus x Vieja synspila</i>	(飼育品種)	2010年		未定着	観賞魚の遺棄・逸走	国土交通省
41			エンゼルフィッシュ属	<i>Pterophyllum</i> sp.	南米	2008年		未定着	観賞魚の遺棄・逸走	標本記録12
42	ハゼ科		ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>	日本の他地域(福井県以北の日本海側、及び宮城県以北の太平洋側)	淀川水系で1989年		定着	淀川のチチブの記録は1950年以前からあるが、その一部はヌマチチブと混同されていた可能性有。淀川水系以外の在来性は不明。	東(1949);市岡高校生物部魚班(1971);向井・西田(2005);内藤・平松(2004);内藤ほか(2012,2014);林(2015);林ほか(2015);川瀬ほか(2017);国土交通省
43	タイワンドジョウ科	タイワンドジョウ	<i>Channa maculata</i>	中国南部～東南アジア	1916年～1924年			定着	記録の一部は、カムルチーと混同されている可能性あり	宮地(1935);東(1949);水野(1968);成田(1969);長田(1975);矢田・加藤(1987);花崎(2014);川瀬ほか(2017)
44			カムルチー	<i>Channa argus</i>	アムール川流域～長江の中国、及び朝鮮半島	1962年		定着	記録の一部はタイワンドジョウと混同されている可能性あり	水野・宮城(1964);水野(1968);成田(1969);市岡高校生物部魚班(1971);大阪府淡水魚試験場(1973);紀平・長田(1974);長田(1975);紀平ほか(1977);大阪府(1979);紀平(1983a);大阪府淡水魚試験場(1986);内藤・平松(2004);内藤ほか(2012,2014);大阪府環境農林水産部水産課(2013);川瀬ほか(2017);大阪市立自然史博物館(2020);国土交通省
45			コウタイ	<i>Channa asiatica</i>	中国～東南アジア、台湾	2007年		未定着	観賞魚の遺棄・逸走	波戸岡・金山(2007);川瀬(2017)

III. 昆虫類・クモ類

松本吏樹郎・長田庸平・初宿成彦（大阪市立自然史博物館）

1. 昆虫綱（表6）

基本的に府内に定着しているものをあげた。定着していないものであっても、ヒアリ、アカカミアリなど人の生活に影響の大きいもの、シタバニハゴロモやアシビロヘリカメムシなど農業害虫化する可能性があり、今後注目されるものは含めている。大阪での初記録は可能な範囲で明らかになったものを採録した。特に戦前に移入したと考えられるものに関しては、正確な侵入時期がわからないものが多い。リストはコウチュウ目を初宿がチョウ目を長田が分担し、それ以外を松本が担当してとりまとめを行った。市川顕彦氏には各種生息状況と文献をご教示頂いた。記してお礼申し上げます。

【文献】

青木 卓・渡辺登喜郎・永田健二・松村武男（1981）*Btatta lateralis*の国内生息. 衛生動物 32(2): 160.
市川顕彦（1986）ミスジキイロテントウを大阪市で採集. Nature Study 32(11): 11.
市川顕彦（2008）大阪府堺市で採集されたツマグロツユムシの一種について. ぱったりぎす 143: 30-32.
市川顕彦（2014）こんなサシガメが見つかっています. かめむしニュース（44）: 5.
市川顕彦（2015）ハリエンジュハバチ（新称）を大阪府、奈良県、兵庫県、滋賀県で採集. 月刊むし 538: 22.
市川顕彦・細井孝昭・宮武頼夫（1998）ブタクサハムシ, 大阪に出現. Nature Study, 44(3): 8.
市川顕彦・西元大作・三宅規子・河合正人（2018）タケトゲハムシを大阪府池田市東山町と京都市山科区西野山で採集. Nature Study 64(12): 6.
岩崎 拓（2004）寄贈標本の紹介 高野晴一郎君が採集したキマダラカメムシ. 自然遊学館だより 2004 夏号（32）: 9.
岩崎拓・黒子浩（2006）信太山に日本未記録のカレハガ出現. Nature Study 52（11）: 19-20.
大阪昆虫同好会（2005）大阪府の蝶. 256 pp. 大阪昆虫同好会, 神戸.
大阪府環境農林水産部（2012）病虫害発生予察特殊報第1号
大阪府環境農林水産部（2019）病虫害発生予察特殊報第3号
大阪府病虫害防除所（2005）病虫害発生予察特殊報第1号.
長田庸平（2021）近畿地方における外来種アカボシゴマダラの分布の現状. Nature Study 67（9）: 2-3.
長田庸平・桂孝次郎・吉安裕（2021）大阪府でアメリカピンクノメイガを採集. 誘蛾燈（245）: 132-133.
川邊透（2016）生駒山地でオオシラホシハゴロモを発見. Nature study 42(5): 2-3.
環境省（2017a）大阪府内において確認されたアカカミアリについて. 環境省報道発表資料. <https://www.env.go.jp/press/104249.html>（2021年12月28日閲覧）
環境省（2017b）大阪港におけるヒアリの確認につい

て（女王アリの確認）. 環境省報道発表資料.

<https://www.env.go.jp/press/104286.html>（2021年12月28日閲覧）

岸本年郎・鈴木俊・砂村栄力（2008）大阪市内でアルゼンチンアリの定着を確認. 蟻（31）: 41-45.
越野誠一郎・宇根崎博信（1992）大阪府南部の注目すべき蛾類Ⅰ. 蛾類通信（166）: 278-281.
齋藤琢巳（2019）大阪府下におけるフェモラータオオモモトハムシの記録. 月刊むし, 586: 9-10.
齋藤琢巳・春沢圭太郎・初宿成彦（2016）大阪府下における *Synona* 属テントウムシの記録. 月刊むし（539）: 46-47.
Sakuratani Y.（1994）New record of *Adalia bipunctata* (Linnaeus) (Coleoptera, Coccinellidae) from Japan. Japanese Journal of Entomology, 62: 627-628.
重藤裕彬・末長晴輝・南雅之・渡部晃平（2020）ヨツモンカメノコハムシの分布記録および日本国内、特に琉球列島における分布の現状. ホシザキグリーン財団研究報告 第23号: 227・243.
柴尾 学・那須 義次・砂池 利浩・林兵弥・小野本徳人・小林彰一・田中寛（2000）チュウゴクオナガコバチによるクリタマバチの防除. 大阪府立農林技術センター研究報告 36: 23-26.
初宿成彦（2014）大阪市24区の甲虫あれこれ. Nature Study 60(9): 2-6.
初宿成彦・安井通宏・市川顕彦・桂 孝次郎・河合正人・中谷憲一・山崎一夫・大阪市立自然史博物館「都市の自然」調査グループ甲虫班,（2020）. 大阪市の甲虫相とその変遷. 自然史研究 4(3): 41-104.
砂村栄力・奥田彩子・寺山守（2012）アギトアリの営巣を本州で発見. 月刊むし. 494: 1-2
高橋 徹（2012）ゴミムシ類 -Part C-. 初宿成彦（編）, 大阪市立自然史博物館 所蔵甲虫類目録（2）: 57-170.
田中 寛・吉川 和伸・杉本 毅・高浦 裕司・柴尾 学（2000）マメハモグリバエ蛹の致死温度および太陽熱による防除法の有効時期. 44(4): 225-228.
寺西 暢（1927）大阪天王寺植物園附属温室の蟻類. 昆虫, 2(1): 51-53.
寺西 暢（1930）イヘヒメアリ大阪に発見さる. 関西昆虫学会会報. 1: 77-78.
戸沢信義（1932）箕面山昆虫目録. 大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告書第二輯
友国雅章・斉藤寿久（1998）大阪府池田市で発見された新しい侵入種と思われるグンバイムシ, *Dulinius conchatus* Distant. Rostria, (47): 23-28.
中川宗次郎（1955）アメリカジガバチの大阪市新分布. 新昆虫 8(4): 52.
中谷憲一・今結禁靖夫・金沢至・河合正人（2003）トガリアメンボの発見と生息環境. Nature Study, 49(2): 3-5.
中谷 至伸・安永 智秀・山田 量崇（2017）日本から確

- 認されたクサビウンカの外来種. *Rostria* 61: 45-50.
 日本鞘翅目学会 (1984) 日本産カミキリ大図鑑. 565 pp.
 講談社
- 根来淳代・植田義輔 (2014) マツヘリカメムシの大阪府枚方市からの記録. *きべりはむし*, 37 (1): 41.
- 林 長 閑 (1979) 日本における始原亜目 Micromalthidae の発見: その生態と形態について. *甲虫ニュース*, (44): 1-4.
- 林正美・宮武頼夫 (2017) 日本から確認されたクサビウンカの外来種. *Rostria* 61: 9-11.
- 松野茂富 (2020) 北上するヤシオオオサゾウムシ. *自然博物館だより* 38(3): 4.
- 松本吏樹郎 (2017) 大阪市内で発見されたシタバニハゴロモ. *Nature Study* 63(9): 4, 12.
- 松本吏樹郎・西元大作 (2020) 大阪府のタケクマバチ. *Nature Study* 66 (8): 2-3, 16.
- Matsumoto R., Hasegawa M. & Ichikawa A. (2019) *Scolia watanabei*, an adventive wasp newly discovered in Japan (Hymenoptera, Scoliidae, Scoliinae) *Bulletin of the Osaka Museum of Natural History* 73 1-5.
- Matsumoto R., Miyake H., Yamazaki K., Aono T, & Shimizu A. (2018) Discovery of a New, Adventive, Spider Wasp, *Lissoctenemys brevipennis*, in Japan (Hymenoptera: Pompilidae: Ctenocerinae). *Japanese Journal of Systematic Entomology* 24(1) 95-98.
- 宮武頼夫・山崎一夫. (2006). 侵入昆虫プラタナスグンバイの大阪からの初記録. *Rostria*, (52): 25-26.
- 安永智秀・穆怡然・長島聖大・山田量崇・高井幹夫 (2016) 最近日本に侵入した外来カスミカメムシ: *Mansoniella cinnamomi*. *Rostria*, 60: 17-20.
- 山崎一夫 (1986a) 大阪市南部の蛾類. *Nature Study* 32(5): 9-11.
- 山崎一夫 (1986b) 大阪市南部の蛾類(3). *Nature Study* 32(9): 9-11.
- 山崎一夫 (2001) 都市昆虫のダイナミクス. *昆虫と自然* 36 (8): 8-12.
- 山崎 一夫 (2016) 大阪港湾部におけるアカハネオンブバッタの侵入時期について. *環動昆* 27: 17-20.
- 山本博子・金沢至 (2006) 大阪周辺におけるオオミノガの減少. *昆虫と自然*. 41 (2), 12-14.
- 山本義丸 (1996) 箕面山蛾類目録. *誘蛾燈 Supplement* 5
- 山本優一・石川陽介 (2018) 大阪府におけるクビアカツヤカミキリの発生状況について. *関西病虫研報* (60):17-21.
- 湯川 閑・宮武頼夫 (2008). 新しい侵入昆虫? トラキメラ属の1種 (ハムシ科) の大阪府寝屋川市での記録. *Nature Study* 54 (7) : 5, 12.
- Yoshida T. & R. Matsumoto (2014) A revision of the genus *Chlorocryptus* Cameron (Hymenoptera, Ichneumonidae), with the first record of the genus from Japan. *Deutsche Entomologische Zeitschrift* 62(1): 81-99.

2. クモガタ綱 (表 7)

クモガタ綱は、確実に移入種と思われるもののみをあげた。セアカゴケグモとハイイロゴケグモなどの人に有害な種では、分布がよく調べられている。

【文献】

- 八木沼健夫 (1974) 日本の真正蜘蛛類相 (IV). *追手門学院大学文学部紀要*, 8: 169-173.
- 西川喜朗 (1995) 毒グモに注意! セアカゴケグモが大阪に上陸. *Nature Study* 41(12): 11-12.
- 西川喜朗・桂孝次郎 (1995) ハイイロゴケグモも大阪に上陸. *Nature Study* 42(1): 19.
- Yamasaki, T. & Suguro, T. (2018) Taxonomic note on *Salticus latidentatus* (Araneae: Salticidae) - a spider species new to the fauna. *Acta Arachnologica*, 67: 81-85.

表6 大阪府産外来昆虫類

目	科	和名	学名	原産地	移入経路	法律・機関等での指定状況(2021年11月現在)	推定される影響	大阪府での初記録年	大阪府での生息状況	備考
1	シミ目	シミ科	セイヨウシミ	<i>Lepisma saccharina</i>	ヨーロッパ	貨物に混入?	屋内害虫	不明		
2			マダラシミ	<i>Thermobia domestica</i>	不明	貨物に混入?	不明	不明		
3			セスジシミ	<i>Ctenolepisma lineata pilifera</i>	南ヨーロッパ	貨物に混入?	不明	不明		
4	ハツタ目	ヒバリモドキ科	ウスグモスズ	<i>Metiochodes genji</i>	中国?	貨物に混入?		1990年代		
5	マツムシ科	アオマツムシ	<i>Trujalia hibionis</i>	東~東南アジア	輸入植物に付着?			1937年頃	近年やや個体数が少なくなっているとの報告。	1970年台に急増
6	コオロギ科	カマドコオロギ	<i>Grylodes sigillatus</i>	南西諸島、東南アジア	貨物に混入?			不明		
7	オンブバッタ科	アカハネオンブバッタ	<i>Atractomorpha sinensis</i>	中国	貨物に混入?		競合?	2008	平野部ほぼ全域に拡がった。	山崎 (2016)
8	ツユムシ科	ツマグロツユムシ	<i>Defflorita apicalis</i>	中国大陸?	貨物に混入			2008	墓地周辺で散発的に見つかった。	市川 (2008)
9	カマキリ目	カマキリ科	ムネアカハラビロカマキリ	<i>Hierodula sp.</i>	中国	竹製品に付着	捕食、競争	不明	市販の竹ぼうきに付いている卵のうが見つかると。未定着。	竹藪に付着した卵のうが見られる。定着が危惧される。
10	ゴキブリ目	チャバネゴキブリ科	チャバネゴキブリ	<i>Blattella germanica</i>	アフリカ?	貨物に混入?	日100	屋内害虫	不明	都市部屋内に広く分布
11		ゴキブリ科	チュウトウゴキブリ	<i>Blatta lateralis</i>	東北アフリカ~中央アジア	貨物に混入、ペット用餌の逸出	衛生害虫	1979	大阪市内を中心とした市街地に分布	青木ほか (1981)
12			ワモンゴキブリ	<i>Periplaneta americana</i>	アフリカ?	貨物に混入	衛生害虫	不明	大阪市内を中心とした市街地に分布	
13			コワモンゴキブリ	<i>Periplaneta australasiae</i>	アフリカ?	貨物に混入	衛生害虫	不明	大阪市内を中心とした市街地に分布	
14			クロゴキブリ	<i>Periplaneta fuliginosa</i>	中国南部?	貨物に混入	屋内害虫	不明		
15			トビイロゴキブリ	<i>Periplaneta brunnea</i>	アフリカ?	貨物に混入	屋内害虫	不明		
16	シロアリ目	ミゾガシラシロアリ科	イェシロアリ	<i>Coptotermes formosanus</i>	中国~台湾	木材、梱包材に混入?	世100、日100	木造建築の食害	不明	
17		レイシロアリ科	アメカシロアリ	<i>Incisitermes minor</i>	メキシコ~北アメリカ	木材、梱包材に混入?		木造建築の食害	1970年代	泉南で発生
18	アザミウマ目	アザミウマ科	ミカンキアザミウマ	<i>Frankliniella occidentalis</i>	北アメリカ	輸入植物に付着?	日100	農業害虫	不明	
19			ミナキアザミウマ	<i>Thrips palmi</i>	東南アジア	輸入植物に付着?	日100	農業害虫	不明	
20			ネギアザミウマ	<i>Thrips tabaci</i>	不明	輸入植物に付着?		農業害虫	不明	
21	カメムシ目	アブラムシ科	ムギクビアブラムシ	<i>Rhopalosiphum padi</i>	不明	貨物に混入?		農業害虫	不明	
22			セイタカアワダチソウヒゲナアブラムシ	<i>Uroleucon nigrotuberculatum</i>	北アメリカ	貨物に混入?			1990年代?	
23	ワタフキカイガラムシ科	イセカイガラムシ	<i>Icerya purchasi</i>	オーストラリア	輸入植物に付着?		農業害虫	不明		
24			キイロワタフキカイガラムシ	<i>Icerya seychellaram</i>	不明	輸入植物に付着?		農業害虫	不明	
25	カタカイガラムシ科	ルビロームシ	<i>Ceroplastes rubens</i>	インド	輸入植物に付着?		農業害虫	不明		
26	マルカイガラムシ科	ナガクロホシカイガラムシ	<i>Parlatoria proteus</i>	不明	輸入植物に付着?		花卉害虫	不明		
27			ナシマルカイガラムシ	<i>Comstockaspis perniciosia</i>	不明	輸入植物に付着?		農業害虫	不明	
28			ヤブネカイガラムシ	<i>Unaspis yamonensis</i>	中国	輸入植物に付着?	日100	農業害虫	不明	
29			リンゴカキカイガラムシ	<i>Lepidosaphes ulmi</i>	不明	輸入植物に付着?		農業害虫	不明	
30	コナジラミ科	チャトゲコナジラミ	<i>Aleurocanthuscamelliae</i>	東アジア	輸入植物に付着?		農業害虫	不明		以前ミカントゲコナジラミと呼ばれていたものの1系統
31			シルバーリーフコナジラミ	<i>Bemisia argentifolii</i>	アメリカ	輸入植物に付着?	日100	農業害虫	不明	タバココナジラミのバイオタイプBとされていたもの
32			オンシツコナジラミ	<i>Trioletodes vaporariorum</i>	北アメリカ	輸入植物に付着?	日100	農業害虫	不明	
33	ビワハゴロモ科	シタベニハゴロモ	<i>Lycorma delicatula</i>	中国、台湾、韓国、ベトナム	貨物に混入?		農業害虫	2017	2021年に2種目が大阪市内で見られたが、継続的な発生はしていないようである。	松本 (2017)
34	マルウシカ科	ヒロズクサビウシカ	<i>Dentatusus dumosus</i>	中国	貨物に混入?			2013		林・宮武 (2017)
35	ハゴロモ科	オオシラホハゴロモ	<i>Ricania quadrimaculata</i>	台湾	貨物に混入?			2015		川邊 (2016)
36			アミガサハゴロモの1種	<i>Pochazia shantungensis</i>	中国?	貨物に混入?			2019頃	大阪市立自然史博物館(2020)において当該種名で掲載されたもの。種同定に関しては検討の余地がある。
37	カメムシ科	キマダラカメムシ	<i>Erthesina fullo</i>	台湾~東南アジア	貨物に混入?			2004		岩崎 (2004)
38	ヘリカメムシ科	アシビロヘリカメムシ	<i>Leptoglossus australis</i>	奄美大島以南	貨物に混入?		農業害虫	2016	大阪市南港にて確認	
39			マツヘリカメムシ	<i>Leptoglossus occidentalis</i>	北アメリカ西部	貨物に混入?		2014		根来・植田 (2014)
40	サンガメ科	ヨコヅナサンガメ	<i>Agriosiphodrus dohrni</i>	中国	不明		捕食、刺咬	不明		
41			アトゾナサンガメ	<i>Volinus albopustulatus</i>	中国	不明		2014		市川 (2014)
42	グンバイムシ科	ブラタナスグンバイ	<i>Corythucha ciliata</i>	北アメリカ西部	貨物に混入?			2003		宮武・山崎 (2006)
43			アワダチソウグンバイ	<i>Corythucha marmorata</i>	北アメリカ西部	貨物に混入?		2003		大阪府病害虫防除所 (2005)
44			ヘクソカズラグンバイ	<i>Dulinius conchatus</i>	インド-スリランカ	貨物に混入?		1996		友国・斎藤 (1998)
45	トコジラミ科	トコジラミ	<i>Cimex lectularis</i>	不明	人の移動に伴って		刺咬	不明	1975年頃からほとんど見られなくなったが、近年薬剤耐性をもちた個体が都市部で再び見られるようになった。	

目	科	和名	学名	原産地	移入経路	法律・機関等での指定状況(2021年11月現在)	推定される影響	大阪府での初記録年	大阪府での生息状況	備考
46	カスミカメシ科	クスベニヒラタカスミカメ	<i>Mansonella cinnamomi</i>	中国	貨物に混入?		クスの食害	2015		安永ほか(2016)
47		タイワンツヤカスミカメ	<i>Deraeocoris apicatus</i>	台湾	貨物に混入?		捕食	2005		中谷ほか(2017)
48	アメンボ科	トガリアメンボ	<i>Rhagadotarsus kraepelini</i>	東南アジア	輸入水生植物に混入?		捕食、競合	2002		中谷ほか(2003)
49	ハチ目	ハバチ科	ハリエンジュハバチ	北米	不明		不明	2015		市川(2015)
50	タマバチ科	クリタマバチ	<i>Dryocosmus kuriphilus</i>	中国	楡樹の苗木とともに持込み		農業害虫	1940年代		
51	オナガコバチ科	チュウゴクオナガコバチ	<i>Torymus sinensis</i>	中国	害虫防除のため導入		天敵として導	1991		柴尾ほか(2000)
52	ヒメバチ科	ルリトガリヒメバチ	<i>Chlorocryptus purpuratus</i>	東~東南アジア	貨物に付着			2010		Yoshida & Matsumoto(2014)
53	ツチバチ科	ワタナベツチバチ	<i>Scolia watanabei</i>	東~東南アジア	不明			2018		Matsumoto et al.(2019)
54	クモバチ科	クモバチの1種	<i>Lissocnemis brevipes</i>	東~東南アジア	不明			2016		Matsumoto et al.(2018)
55		ツマアカクモバチ	<i>Tachypompilus analis</i>	東~東南アジア	貨物に混入?			不明		
56	アリガタバチ科	シバンムシアリガタバチ	<i>Cephalonomia gallicola</i>	汎世界	貨物に混入?		刺咬	1970年代	平野部を中心に広く屋内で確認される	
57	アリ科	アルゼンチンアリ	<i>Linepithema humile</i>	南アメリカ	貨物に混入?	特定、世100、日100	競争	2007		岸本ほか(2008)
58		アカカミアリ	<i>Salenopsis geminata</i>	北米南部~南米北部	コンテナやパレットに付着	特定	捕食、競争、	2017	未定着。発見された果は駆除されているが、定着が危惧される。	環境省(2017a)
59		ヒアリ	<i>Solenopsis invicta</i>	南アメリカ	コンテナやパレットに付着	特定、世100	捕食、競争、	2017	未定着。アメリカ合衆国、中国、台湾、オーストラリアなどに移入・定着している。日本には主に中国経由の貨物で見つかっている。発見された果は駆除されているが、定着が危惧される。	環境省(2017b)
60		ケブカアメイロアリ	<i>Nylanderia amia</i>	南西諸島、台湾	貨物に混入?		競争	不明	市街地を中心に定着	国内外来
61		アワテコヌカアリ	<i>Tapinoma melanoccephalum</i>	不明	不明			1920年代?	1920年代に天王寺動物園で記録されている	寺西(1927)
62		イエヒメアリ	<i>Monomorium pharaonis</i>	アフリカ	不明		屋内侵入	1930	大阪湾沿岸を中心に分布	寺西(1930)
63		アギトアリ	<i>Odontomachus nonticola</i>	鹿児島?	不明		捕食、競争?	2011年	箕面市で定着が確認されている	国内外来。砂村ほか(2012)
64	アナバチ科	アメリカジガバチ	<i>Sceliphron caementarium</i>	北アメリカ	貨物に混入?		競争?	1952	平野部を中心に広く定着	中川(1955)
65	ハキリバチ科	イマトツハナバチ	<i>Osmia imaii</i>	中国	花粉媒介者として導入		競争?	不明	河川敷や市街地を中心に定着	
66		スダキヌゲハキリバチ	<i>Megachile concina</i>	不明	貨物に混入?		不明	不明	市街地を中心に定着	
67	ミツバチ科	セイヨウオオマルハナバチ	<i>Bombus terrestris</i>	ヨーロッパ	花粉媒介者として導入	特定、日100	競争、交雑	2000年前後	未定着。ハウスから逸出したと考えられる個体が数地点で見つかっている	
68		タケクマバチ	<i>Xylocopa tranquebarorum</i>	中国	竹材とともに持込み?		競争?	2015		松本・西元(2020)
69	コウチュウ目	チビナガヒラタムシ科	チビナガヒラタムシ	アメリカ東部	貨物に混入?			1976		林(1979)
70	オサムシ科	コルリアトキミゴムシ	<i>Lebia (Lebia) viridis</i>	北アメリカ	貨物に混入?			2001		高橋(2012)
71	エンマムシ科	クロチビエンマムシ	<i>Carcinops pumilio</i>	不明	輸入穀物に混入?		不明	不明		
72	マルトゲムシ科	ミナメケモンマルトゲムシ	<i>Myrochaetes sp.</i>	オーストラリア	貨物に混入?			2008		初瀬ほか(2020)
73	カツオブシムシ科	マサカカツオブシムシ	<i>Thyodrius contractus</i>	ヨーロッパ?	貨物に混入?		屋内害虫	不明		
74		トビカツオブシムシ	<i>Dermestes (Dermestes) ater</i>	不明	貨物に混入?		屋内害虫	不明		
75		カドマルカツオブシムシ	<i>Dermestes (Dermestes) haemorrhoidalis</i>	不明	貨物に混入?		屋内害虫	不明		
76		アカオビカツオブシムシ	<i>Dermestes (Dermestes) vorax</i>	不明	貨物に混入?		屋内害虫	不明		
77		ハラジロカツオブシムシ	<i>Dermestes (Dermestinus) maculatus</i>	不明	貨物に混入?		屋内害虫	不明		
78		シラホシヒメカツオブシムシ	<i>Attagenus (Attagenus) pellio</i>	不明	貨物に混入?		屋内害虫	不明		
79		ヒメカツオブシムシ	<i>Attagenus (Attagenus) unicolor japonicus</i>	不明	貨物に混入?		屋内害虫	不明		
80		シロオビマルカツオブシムシ	<i>Anthrenus (Anthrenus) nipponensis</i>	不明	貨物に混入?		屋内害虫	不明		
81	ナガシクイムシ科	チビタケナガシクイ	<i>Dimoderus (Dimoderus) minutus</i>	不明	竹材とともに持込み?		屋内害虫	不明		
82		コナナガシクイ	<i>Rhyzopertha dominica</i>	不明	輸入穀物に混入?		屋内害虫	不明		
83		アフリカヒラタキクイムシ	<i>Lyctus (Xylotrogus) africanus africanus</i>	不明	木材とともに持込み?		屋内害虫	不明		
84		ヒラタキクイムシ	<i>Lyctus (Xylotrogus) brunneus</i>	不明	木材、梱包材に混入?		屋内害虫	不明		
85	ヒョウホンムシ科	ニセマルヒョウホンムシ	<i>Gibbium aequinoctiale</i>	不明	貨物に混入?		屋内害虫	不明		
86		セマルヒョウホンムシ	<i>Gibbium psylloides</i>	不明	貨物に混入?		屋内害虫	不明		
87		カバイロヒョウホンムシ	<i>Pseudoeurostus hilleri</i>	不明	貨物に混入?		屋内害虫	不明		
88		ナガヒョウホンムシ	<i>Plinus (Cypboderes) japonicus</i>	不明	貨物に混入?		屋内害虫	不明		
89		ヒメヒョウホンムシ	<i>Plinus (Plinus) latro</i>	不明	貨物に混入?		屋内害虫	不明		
90		ケブカシバンムシ	<i>Nicobium castaneum</i>	不明	木材、梱包材に混入?		屋内害虫	不明		
91		ジサンシバンムシ	<i>Stegobium panicum</i>	不明	輸入穀物に混入?		屋内害虫	不明		
92		タバコシバンムシ	<i>Lasioderma serricorne</i>	不明	輸入穀物に混入?		屋内害虫	不明		
93	コクヌスト科	コクヌスト	<i>Tenebroides mauritanicus</i>	不明	輸入飼料に混入		屋内害虫	不明		
94	サビカッコウムシ科	サビカッコウムシ	<i>Thanaosclerus buquet</i>	不明	貨物に混入?		不明	不明		
95	カッコウムシ科	アカクビシカムシ	<i>Necrobia ruficollis</i>	不明	貨物に混入?		不明	不明		
96		アカアシシカムシ	<i>Necrobia rufipes</i>	不明	貨物に混入?		不明	不明		
97		ルリシカムシ	<i>Necrobia violacea</i>	不明	貨物に混入?		不明	不明		
98		シロオビカッコウムシ	<i>Tarsositemus univittatus</i>	不明	貨物に混入?		不明	不明		

目	科	和名	学名	原産地	移入経路	法律・機関等での指定状況(2021年11月現在)	推定される影響	大阪府での初記録年	大阪府での生息状況	備考
99	ネスイムシ科	ホソムネデオネスイ	<i>Monotoma longicollis</i>	不明	貨物に混入?			不明		
100		トビイロデオネスイ	<i>Monotoma picipes</i>	不明	貨物に混入?			不明		
101	クスイムシ科	ウスハクスイ	<i>Cryptophagus cellaris</i>	不明	貨物に混入?			不明		
102	ホソヒラタムシ科	カドコホソヒラタムシ	<i>Ahasverus advena</i>	不明	貨物に混入?			不明		
103		チビセマルホソヒラタムシ	<i>Monamus (Monamus) concinnulus</i>	不明	貨物に混入?			不明		
104		フタゲホソヒラタムシ	<i>Sivamius bidentatus</i>	不明	木材、梱包材に混入?		貯穀害虫	不明		
105		ヒメフタゲホソヒラタムシ	<i>Sivamius lewisii</i>	不明	貨物に混入?		貯穀害虫	不明		
106	チビヒラタムシ科	サビカウムネチビヒラタムシ	<i>Cryptolestes ferrugineus</i>	不明	貨物に混入?		貯穀害虫	不明		
107		カウムネチビヒラタムシ	<i>Cryptolestes pusillus</i>	不明	貨物に混入?		貯穀害虫	不明		
108		トルコカウムネチビヒラタムシ	<i>Cryptolestes turcius</i>	不明	貨物に混入?		貯穀害虫	不明		
109	ケンキスイ科	クイヤケンキスイ	<i>Carpophilus (Carpophilus) hemipterus</i>	不明	輸入穀物に混入?			不明		
110		クワイロデオキスイ	<i>Carpophilus (Carpophilus) marginellus</i>	不明	輸入穀物に混入?			不明		
111		ガイマイデオキスイ	<i>Carpophilus (Myothenax) dimidiatus</i>	不明	貨物に混入?			不明		
112		ウスチャデオキスイ	<i>Carpophilus (Myothenax) nepos</i>	不明	貨物に混入?			不明		
113		コメノケンキスイ	<i>Carpophilus (Myothenax) truncatus</i>	不明	貨物に混入?			不明		初宿
114	テントウムシ科	ミスジキイロテントウ	<i>Bramoides ohtai</i>	東南アジア	貨物に混入?			1986		市川顕彦(1986)
115		ツマアカオヒメテントウ	<i>Cryptolaemus montouzieri montouzieri</i>	オーストラリア	害虫防除のため導入			不明		
116		フタモンテントウ	<i>Adalia (Adalia) bipunctata</i>	ヨーロッパまたは北米	貨物に混入?			1993		Sakuratani(1994)
117		クモガタテントウ	<i>Psyllobora (Psyllobora) vigintimaculata</i>	ヨーロッパまたは北米	貨物に混入?			不明		
118		ムネアカオウクワテントウ	<i>Symona consanguinea</i>	東南アジア・中国・台湾	貨物に混入?			2015		齋藤ほか(2016)
119		ムネハラアカクワテントウ	<i>Rhyzobius lophanthae</i>	オーストラリア	貨物に混入?			不明		
120		ベダリアテントウ	<i>Rodolia cardinalis</i>	オーストラリア	害虫防除のため導入			不明		
121		モンクチビルテントウ	<i>Phymatosternus maculatus</i>	中国、台湾、ベトナム	貨物に混入?			不明		
122	ヒメマキムシ科	ユウレイヒメマキムシ	<i>Eufaltia seminivea</i>	不明	貨物に混入?			2012		初宿(2014)
123	コキノコムシ科	チャイロキノコムシ	<i>Typhaea stercorea</i>	不明	貨物に混入?			不明		
124	ゴミムシダマシ科	ガイマイゴミムシダマシ	<i>Alphitobius diaperinus</i>	不明	輸入穀物に混入?		貯穀害虫	不明		
125		ヤマオサムシダマシ	<i>Blaps (Blaps) japonensis japonensis</i>	中国	貨物に混入?		不明	不明		在来種の可能性もある
126		コヒメコムシダマシ	<i>Palorus subdepressus</i>	不明	貨物に混入?		貯穀害虫	不明		
127		クロコムシダマシ	<i>Neatus picipes</i>	不明	貨物に混入?		不明	不明		
128		チャイロコムシダマシ	<i>Tenebrio molitor</i>	不明	輸入穀物に混入?		不明	不明		
129		コメノコムシダマシ	<i>Tenebrio obscurus</i>	不明	輸入穀物に混入?		貯穀害虫	不明		
130		コゴメコムシダマシ	<i>Latheticus oryzae</i>	不明	輸入穀物に混入?		貯穀害虫	不明		
131		コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i>	不明	輸入穀物に混入?		貯穀害虫	不明		
132		フタオビツヤゴミムシダマシ	<i>Alphitophagus bifasciatus</i>	不明	輸入飼料に混入		不明	不明		
133	カミキリモドキ科	ツマガロカミキリモドキ	<i>Nacерdes (Nacерdes) melanura</i>	不明	木材、梱包材に混入?		体液に触れると皮膚炎をおこす	不明		
134	アリモドキ科	アトグロホソアリモドキ	<i>Omonadus floralis</i>	不明	貨物に混入?			不明		
135	カミキリムシ科	クビアカツヤカミキリ	<i>Aromia bungii</i>	中国	木材、梱包材に混入?	特定	ウメ、サクラなどの食害	2015年		山本・石川(2018)
136		テツイロヒメカミキリ	<i>Ceresium sinicum</i>	中国、台湾	貨物に混入?			1931		日本鞘翅目学会(1984)
137		ウスグロトラカミキリ	<i>Chlorophorus signaticollis</i>	南西諸島以南	貨物に混入?			不明		国内外来?
138		ラミーカミキリ	<i>Paraglenea fortunei</i>	東南アジア・中国	繊維作物ナンバンカラムシの輸入			不明		
139	ハムシ科	フェモラータモプトハムシ	<i>Sagra femorata</i>	東南アジア	放虫?			2018		三重県で放虫されたものが拡散したとされる。齋藤(2019)
140		アズキマメゾウムシ	<i>Callosobruchus chinensis</i>	不明	輸入穀物に混入?		貯穀害虫	不明		
141		エンドウゾウムシ	<i>Bruchus pisorum</i>	不明	輸入穀物に混入?		農業害虫	不明		
142		ソラマメゾウムシ	<i>Bruchus rufimanus</i>	地中海沿岸	輸入穀物に混入?		農業害虫	不明		
143		ヨツマンカメノコハムシ	<i>Lacoptera (Lacopteroidea) nepalensis</i>	南西諸島以南、東南アジア	植物の移動にともなって		農業害虫	2017		国内外来? 重藤ほか(2020)
144		タテスジヒメジンガサハムシ	<i>Cassida circumdata circumdata</i>	南西諸島以南、東南アジア	植物の移動にともなって		農業害虫	2012		国内外来? 大阪府環境農林水産部(2012)
145		タケトゲハムシ	<i>Dactylispa (Platypristella) issikii</i>	九州以西	植栽とともに移動?			2018		国内外来? 市川ほか(2018)
146		ユーカリハムシ	<i>Trachymela sloanei</i>	オーストラリア	貨物に混入?		ユーカリの食害	2007		湯川・宮武(2008)
147		ブタクサハムシ	<i>Ophraella communa</i>	北アメリカ	貨物に混入?			1997		市川ほか(2018)
148		キベリハムシ	<i>Otides bowringii</i>	中国	不明			不明		

目	科	和名	学名	原産地	移入経路	法律・機関等での指定状況(2021年11月現在)	推定される影響	大阪府での初記録年	大阪府での生息状況	備考	
149	ヒゲナガゾウムシ科	ナガフトヒゲナガゾウムシ	<i>Xylina striatifrons</i>	不明	貨物に混入?			不明			
150		ワタヒゲナガゾウムシ	<i>Aracercus fasciculatus</i>	不明	貨物に混入?			不明			
151	オサゾウムシ科	ココゾウムシ	<i>Sitophilus oryzae</i>	不明	貨物に混入?		貯穀害虫	不明			
152		コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i>	不明	輸入穀物に混入?		貯穀害虫	不明			
153		シバオサゾウムシ	<i>Sphenophorus venatus vestitus</i>	不明	輸入穀物に混入?		シバの食害	不明			
154		ヤシオオサゾウムシ	<i>Rhynchophorus ferrugineus</i>	中東~東南アジア	ヤシ類とともに持込み		ヤシ類の食害	2019		松野(2020)	
155	ゾウムシ科	イネミズゾウムシ	<i>Lissorhoptrus (Lissorhoptrus) oryzophilus</i>	アメリカ南東部	輸入植物に付着?	有害、日100	農業害虫	不明			
156		オオタコゾウムシ	<i>Brachypera (Antidonus) zoilus</i>	ヨーロッパ	輸入植物に付着?		農業害虫	不明			
157		アルファルファタコゾウムシ	<i>Hypera (Hypera) postica</i>	ヨーロッパ	輸入植物に付着?	日100	農業害虫	不明			
158		ヤサイゾウムシ	<i>Listroderes castrostris</i>	ブラジル	輸入植物に付着?		農業害虫	不明			
159		ケチビコフキゾウムシ	<i>Sitona hispidulus</i>	ヨーロッパ	輸入植物に付着?			不明			
160	チョウ目	アゲハチョウ科	ホソオチョウ	<i>Sericinus montela</i>	中国大陸	人為的放虫	要注意	在来種との競合?	1994年	府内各地の河川敷で記録あり	大阪昆虫同好会(2005)
161		タテハチョウ科	アカボシゴマダラ	<i>Hestina assimilis</i>	中国大陸	人為的放虫	特定、要注意	在来種との競合?	2007年	吹田市、八尾市、東大阪市で記録あり	長田(2021)
162	イラガ科	ヒロヘリアオイラガ	<i>Parasa lepida</i>	中国大陸	樹木の移入?	日100	街路樹の食害、刺傷被害	1980年頃	都市部全域		山崎(2001)
163	ツトガ科	シバツトガ	<i>Parapediasia teterella</i>	アメリカ	芝の移入?		芝の食害	1990年代	全域		山本(1996)
164	ヒトリガ科	アメリカシロヒトリ	<i>Hyphantria cunea</i>	アメリカ	貨物に紛れて?	日100	広葉樹の食害	1981年	全域		山崎(1986b)
165	ヒロコガ科	イガ	<i>Tinea translucens</i>	台湾	不明		屋内害虫	1930年代	全域		戸沢(1932)
166		コイガ	<i>Tinea bisselliella</i>	ヨーロッパ?	不明		屋内害虫	1930年代	全域		戸沢(1932)
167		コクガ	<i>Nemapogon granella</i>	ヨーロッパ?	不明		屋内害虫	1930年代	全域		戸沢(1932)
168		ジュウタンガ	<i>Trichophaga tapetzella</i>	ヨーロッパ?	不明		屋内害虫	1930年代	現在は見られない		戸沢(1932)
169	マルハキバガ科	コクマルハキバガ	<i>Marytina xeralla</i>	中国大陸	不明		屋内害虫	1982年	都市部全域		山崎(1986a)
170	キバガ科	バクガ	<i>Sitotroga cerealella</i>	ヨーロッパ?	不明		屋内害虫	1930年代	都市部全域		戸沢(1932)
171	マダラガ科	タケノホクロバ	<i>Fuscartona martini</i>	中国大陸	不明		衛生害虫、園芸害虫	1930年代	都市部全域		戸沢(1932)
172	メイガ科	ツヅリガ	<i>Paralipsa gularis</i>	中国大陸	不明		屋内害虫	1930年代	全域		戸沢(1932)
173		コメシマメイガ	<i>Aglossa dimidiata</i>	中国大陸?	不明		屋内害虫	1930年代	全域		戸沢(1932)
174		カシノシマメイガ	<i>Pyralis farinalis</i>	ヨーロッパ?	不明		屋内害虫	1930年代	全域		戸沢(1932)
175		ノシメダラメイガ	<i>Plodia interpunctella</i>	ヨーロッパ?	不明		屋内害虫	1984年	全域		山崎(1986a)
176		スジマダラメイガ	<i>Cadra cautella</i>	ヨーロッパ?	不明		屋内害虫	1985年	全域		山崎(1986a)
177		スジコナマダラメイガ	<i>Ephestia kuehniella</i>	ヨーロッパ?	不明		屋内害虫	1930年代	全域		戸沢(1932)
178	ヤガ科	ニセタマナヤガ	<i>Peridroma saucia</i>	不明	不明		農業害虫	1988年	全域?		山本(1996)
179		ガンマキンウバ	<i>Autographa gamma</i>	ヨーロッパ?	不明		農業害虫	1987年	全域?		越野・宇根崎(1992)
180		ツマジロクサヨトウ	<i>Spodoptera frugiperda</i>	中南米	不明		農業害虫	2019年	2019年に府内で被害		大阪府環境農林水産部(2019)
181	カレハガ科	ムラクモカレハ	<i>Lebeda nobilis</i>	東~東南アジア	不明		林業害虫、衛生害虫	2003年	和泉市、堺市		岩崎・黒子(2006)
182	ツトガ科	アメリカピンクノメイガ	<i>Pyrausta inornatalis</i>	アメリカ	不明		園芸害虫	2020年	大阪市や堺市で発生		長田ほか(2021)
183	ハエ目	チョウバエ科	オオチョウバエ	<i>Clotmia albipunctatus</i>	不明	貨物に混入?	屋内害虫	不明			
184			ホシチョウバエ	<i>Tinearia alternata</i>	不明	貨物に混入?	屋内害虫	不明			
185	ニセケバエ科	クロツヤニセケバエ	<i>Scatopsenotata Linnaeus</i>	不明	不明		屋内害虫	不明			
186	チーズバエ科	チーズバエ	<i>Piophilidae casei</i>	不明	肉製品、チーズなどとともに持込み			不明			
187	ミズアブ科	アメリカミズアブ	<i>Hermetia illucens</i>	北米~中米	不明		不快害虫	不明			
188	ハモグリバエ科	トマトハモグリバエ	<i>Liriomyza sativae</i>	中~南米	苗木とともに持込み?	日100	農業被害	2000年前後			
189		マメハモグリバエ	<i>Liriomyza trifolii</i>	アメリカ(フロリダ)	苗木とともに持込み?	日100	農業被害	1993			ヨーロッパを経由して移入。田中ほか(2000)
190	ショウジョウバエ科	キイロショウジョウバエ	<i>Drosophila melanogaster</i>	アフリカ中部?	貨物に混入?		屋内害虫	不明			
191	ヤドリバエ科	オオミノガヤドリバエ	<i>Nealsomyia rufella</i>	中国?	不明		オオミノガに対する捕食寄生	1994?頃	府内に広く定着		自然分布拡大の可能性もある。山本・金沢(2006)

表7 大阪府産外来クモ類

目	科	和名	学名	原産地	移入経路	法律・機関等での指定 状況(2021年11月)	推定される 影響	大阪府での初 記録年	大阪府での生息状況	備考
1	クモ目	ウシオグモ科	クログケジグモ	<i>Badumna insignis</i>	オーストラリア	コンテナやパレットに付着	捕食	1963		八木沼(1974)
2		ヒメグモ科	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasseltii</i>	オーストラリア	コンテナやパレットに付着	特定、日100	咬傷、捕食、j1995		西川(1995)
3			ハイイロゴケグモ	<i>Latrodectus geometricus</i>	オーストラリア	コンテナやパレットに付着	特定	咬傷、捕食、j1995		西川・桂(1995)
4			マダラヒメグモ	<i>Steatoda triangulosa</i>	ユーラシア	コンテナやパレットに付着	捕食、競争? 不明		平野部の人工建造物の周辺に見られる。	
5		ハエトリグモ科	キョクトウゼブラハエトリ	<i>Salticus latidentatus</i>	東アジア	貨物に混入?	捕食、競争? 2000			Yamasaki & Suguro(2018)

IV. 昆虫・クモ以外の無脊椎動物

石田 惣 (大阪市立自然史博物館)

昆虫・クモ以外の無脊椎動物は、明治以降に移入したもので、大阪府下で原則として文献または標本記録のあるものを挙げた。内陸部の住宅街で見つかったオカヤドカリ類やヤシガニなど、明らかに定着していない(繁殖した形跡がない)と見なされるものはリストに含めていない。多足類などここでは十分に検討できなかった分類群もあることに留意されたい。

文献は、その種の府下初記録を報告したと考えられるもの、またはその種の記録を扱ったものとして重要と考えられるものを渉猟してリスト化した。標本記録は府下で最初期に採集されたもので注記に値するものを文献に準じて挙げた。

【謝辞】本リストの作成にあたっては、有山啓之、大古場 正、大谷道夫、柏尾 翔、山西良平、渡部哲也各氏より生息情報、文献・標本記録のご教示を頂いた。記してお礼申し上げる。

【文献】

- 有山啓之. 1985. 大阪湾でとれたアオガニ *Callinectes sapidus* RATHBAN について. 南紀生物 27: 52.
- 有山啓之. 1992. 大阪湾のミドリイガイ. Nature Study 38(1): 9-10, 12.
- Ariyama, H. & Otani, M. 2004. *Paracerceis sculpta* (Crustacea: Isopoda: Sphaeromatidae), a newly introduced species into Osaka Bay, Central Japan. Benthos Research 59: 53-59.
- 東 正雄. 1939. 大阪府陸産貝類目録. 博物 1(1): 57-66.
- 東 正雄・波部忠重. 1940. 大阪府陸産貝類誌 (II) “マイマイ超科”. 博物 2(1): 1-36, pls. I-III.
- 江川和文. 1985. シマメノウフネガイの分布とその伝播状況. ちりぼたん 16: 37-44.
- 藤下英也. 1964. 箕面の池でマミズクラゲを採集. Nature Study 10(10): 6.
- 藤田 卓. 1958. 関西地方のナメクジ (I) (その種類). Nature Study 4(7-8): 7.
- 風呂田利夫・古瀬浩史. 1988. 移入種イッカクモガニ *Pyromaia tuberculata* の日本沿岸における分布. 日本ベントス研究会誌 33/34: 75-78.
- 古川博二. 1949. サカマキガイに就いて. 兵庫生物 1(3): 27.
- Habe, T. 1981. A catalogue of molluscs Wakayama Prefecture, the Province of Kii. 1. Bivalvia, Scaphopoda and Cephalopoda. Editorial Committee of a Catalogue of Wakayama Prefecture. 301 pp.
- 原田英二・大谷道夫. 1985. 大阪湾で発見されたミドリイガイ. 付着生物研究 5(2): 39-40.
- 平野弥生・井島洋一・馬渡峻輔・平野義明. 2004. クロコソデウミウシとフジタウミウシの餌選択. Venus 63: 74.
- 平野義明. 1993. 本邦初記録ミノウミウシ *Cuthona perca* Marcus, 1985 について. Venus 52: 170-171.
- 日浦 勇. 1974. 町の生物・村の生物. Nature Study 20(7): 2-4.
- 堀 勝. 1958. 郷土の自然 (4) 大阪湾の二枚貝. Nature Study 4(7-8): 12-13.
- 石田 惣. 2011. 大阪府堺市の埋立地でオオクビキレガイを確認. Nature Study, 57(2): 6-7, 16.
- Ishida, S. 2020. Distribution records of apple snails (*Pomacea* spp.) in Japan collected during 2017-2019 through a citizen science project for introduced species conducted by the Osaka Museum of Natural History. Ecological Research 35: 1114-1118.
- 石田 惣. 2020. 市民科学による大阪府のオオクビキレガイの生息調査, 並びに分布の現況. Venus, 78: 105-118.
- 石田 惣・岩崎敬二・栗原康裕. 2005. ムラサキイガイの初侵入年代と分布拡大過程-古川田溝氏の標本による推断. Venus 64: 151-159.
- 石田 惣・山田浩二・山西良平・和田太一・渡部哲也. 2014. 大阪府の汽水域・砂浜域の無脊椎動物および藻類相. 自然史研究 3: 237-271.
- 岩崎敬二・池辺進一. 2010. 外来二枚貝ウスカラシオツガイの日本での初発見年と分布拡大, および九州での初記録について. ちりぼたん 41: 18-25.
- 岩崎敬二・木村妙子・木下今日子・山口寿之・西川輝昭・西柴二郎・山西良平・林 育夫・大越健嗣・小菅丈治・鈴木孝男・逸見泰久・風呂田利夫・向井 宏. 2004. 日本における海産生物の人為的移入と分散: 日本ベントス学会自然環境保全委員会によるアンケート調査の結果から. 日本ベントス学会誌 59: 22-44.
- 金田彰二・倉西良一・石綿進一・東城幸治・清水高男・平良裕之・佐竹 潔. 2007. 日本における外来種フロリダマミズゴケエビ (*Crangonyx floridanus* Bousfield) の分布の現状. 陸水学雑誌 68: 449-460.
- 柏尾 翔・濱谷 巖. 2018. 大阪湾から採集されたシロ

- タエミノウミウシ属の一種 *Tenellia adspersa* について. *Venus*, 76(1-4): A-22.
- 柏尾 翔・花崎勝司・児島 格・山田浩二・大畠麻里・大古場 正・松岡悠・大谷道夫. 2016. 岸和田市阪南2区人工干潟における魚類および貝類, 甲殻類相について(2009年度-2014年度の調査記録). きしわだ自然資料館研究報告 4: 1-13.
- 柏尾 翔・児嶋 格・大古場 正・石田 惣. 2017. 大阪府下で見つかった外来種オオクビキレガイ. *メランジエ* 16(3): 1-4.
- 柏尾 翔・田中広樹. 2021. 外来種ミノウミウシ *Trinchesia perca* (Marcus, 1958) の形態・生態学的知見, および日本国内における分布について. *ちりぼたん* 52: 30-43.
- 片山寛之. 1973. 大阪附近のカプトエビの種類と分布. *Nature Study* 19(6): 5-10.
- Kawahara, T. 1963. Invasion into Japanese waters by the European barnacle *Balanus improvisus* Darwin. *Nature* 198: 301.
- 川瀬基弘・早瀬善正・市原 俊. 2011. 愛知県豊田市に生息する陸産貝類. 豊橋市自然史博物館研究報告 21: 31-43.
- 紀平 肇・河合典彦. 1998. 淀川の河川敷でクルマヒラマキガイみつかる. *ちりぼたん* 29: 12.
- 紀平 肇・松田征也・内山りゅう. 2003. 日本産淡水貝類図鑑①琵琶湖・淀川産の淡水貝類. 159 pp. ビーシーズ, 東京.
- 児島 格・西川 猛. 1995. 海底の隆起により出現した湾奥部(堺沖)の貝類遺骸. *かいなかま* 29: 4-14.
- 児嶋 格・和田太一・山田浩二. 2020. 貝塚市の淡水貝調査. *貝塚の自然* 21: 55-61.
- Magara, Y., Matsui, Y., Goto, Y. & Yuasa, A. 2001. Invasion of the non-indigenous nuisance mussel, *Limnoperna fortunei*, into water supply facilities in Japan. *Journal of Water Supply: Research and Technology-Aqua* 50: 113-124.
- 増田 修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240 pp. ビーシーズ, 東京.
- 松隈明彦・孔 令鋒・高田良二. 2015. 外来種ホンビノスガイ *Mercenaria mercenaria* (Linnaeus, 1758) と在来種ピノスガイ "*Mercenaria stimpsoni* (Gould, 1861) の形態学的・分子生物学的特徴と属位. *西宮市貝類館研究報告* (9): 1-59.
- 松村 勲. 1997. 大阪狭山市で採集したウスイロオカチグサ. *ちりぼたん* 27: 70.
- 松村 勲. 2001. 大阪府産貝類誌. 294 pp. 近未来社, 名古屋.
- Mitsugi, M., Hisamoto, Y. & Suzuki, H. 2017. An invasive freshwater shrimp of the genus *Neocaridina* Kubo, 1938 (Decapoda: Caridea: Atyidae) collected from Boso Peninsula, Tateyama City, Chiba Prefecture, eastern Japan. *Crustacean Research* 46: 83-94.
- 三宅貞祥. 1957. 輸入種アメリカザリガニ・ウチダザリカニ(新称)2種の学名. *動物分類学会会務報告* 16: 1-2.
- 鍋島靖信. 1995. 大阪府沿岸に分布を広げるイガイダマシ. *Nature Study* 41(10): 3-6.
- 鍋島靖信・福井康雄. 1999. 大阪湾に侵入した外来種 *Charybdis (Charybdis) lucifera* (Fabricius) モンツキイシガニについて. *Nature Study* 45(7): 75-79.
- 鍋島靖信・日下部敬之・大美博昭・山下隆司. 1997. 大阪湾で見つかったチチュウカイミドリガニ. *Nature Study* 43(7): 3-6.
- 鍋島靖信・西座真二. 1996. 大阪湾におけるメナガガザミ・ケブカツノガニなどの外海生物の出現と1994年の高水温と高塩分の影響(1). *Nature Study* 42(6): 7-9.
- 中谷憲一. 1986. 淀川ワンドでプラナリアとヒドラ採集. *Nature Study* 32(9): 6.
- 西川輝昭. 2002a. マンハッタンボヤ〜塩分濃度低下や水質汚濁に強く, 河口域や港湾で繁栄. In: 外来種ハンドブック, 日本生態学会編, 村上興正・鷺谷いづみ監修, 地人書館, 東京, p. 178.
- 西川輝昭. 2002b. クロマメイタボヤ〜1991年に侵入し, 旺盛な無性生殖能力を秘める. In: 外来種ハンドブック, 日本生態学会編, 村上興正・鷺谷いづみ監修, 地人書館, 東京, p. 179.
- N. Y. 1981. アメリカザリガニと日本. *日本農芸化学会誌* 55: 887-889.
- 岡村親一郎・児島 格. 1984. 大阪湾の貝類(予報). *南紀生物* 26: 42-44.
- 岡村親一郎. 2001. ミドリイガイの群塊 新鮮な殻の群塊は鮮緑色に輝いて宝石の原石を思わせる. *かいなかま* 34(4): 51-53.
- 岡野重雄. 1975. ダンゴムシ初見の記録. *Nature Study* 21(8): 9.
- 大古場 正. 2021. 大阪府のヒロマキミズマイマイ. *ちりぼたん* 51: 87-89.
- 大古場 正・鍋島靖信・北藤真人・柏尾 翔・児嶋 格・本多俊之・大谷洋子. 2021. 大阪湾のホンビノスガイについて. *Nature Study* 67(10): 6-8, 16.
- 大野正男. 1987. 分布を中心とした日本のマミズクラゲ総説. *日本の生物* 1(1): 44-53.

- 大阪府池田師範学校日本貝類学会会員(編). 1938. 大阪府貝類目録草稿. 39 pp. 謄写版.
- 大阪府環境農林水産部農政室. 2018. 病害虫発生予察特殊報第1号(農推第1260号平成30年5月1日). <http://www.jpnp.ne.jp/osaka/H30nd/tokushu/H3005tokulookubikiregai.pdf>
- 大阪市立自然史博物館(編). 2006. 第35回特別展 大和川の自然-きたない川?にも こんなんいるで-. 73 pp. 大阪市立自然史博物館, 大阪.
- 大阪市立自然史博物館(編). 2010. 第41回特別展「みんなでつくる淀川大図鑑」展解説書. 112 pp. 大阪市立自然史博物館, 大阪.
- 大阪市立自然史博物館(編). 2014. 第45回特別展「ネコと見つける都市の自然」解説書 都市の自然 2014. 大阪市立自然史博物館, 大阪.
- 大阪湾海岸生物研究会. 1981. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相とその特徴-1980年の調査結果-. 大阪市立自然史博物館研究報告 35: 55-72.
- 大谷道夫. 1982. フジツボの見分け方(2). *Nature Study* 28(4): 3-6.
- 大谷道夫. 2002. 日本における移入付着動物の出現状況、最近の動向. *Sessile Organisms* 19(2): 69-92.
- 大谷道夫. 2004. 日本の海洋移入生物とその移入過程について. *日本ベントス学会誌* 59: 45-57.
- 大谷道夫・宮本奈保・花岡皆子・山西良平. 2004. 大阪湾における人工護岸の潮下帯付着生物相について(予報). *自然史研究* 3: 37-47.
- 大谷道夫・山西良平. 2007. 大阪湾で発見された移入種 *Rhithropanopeus harrisi* (甲殻綱: Panopeidae) と *Hydroïdes dianthus* (多毛綱: カンザシゴカイ科) について. *Sessile Organisms* 24: 161. (講演要旨)
- Otani, M. & Yamanishi, R. 2010. Distribution of the alien species *Hydroïdes dianthus* (Verrill, 1873) (Polychaeta: Serpulidae) in Osaka Bay, Japan, with comments on the factors limiting its invasion. *Plankton and Benthos Research* 5: 62-68.
- Saito, T., Do, V. T., Prozorova, L., Hirano, T., Fukuda, H. & Chiba, S. 2018. Endangered freshwater limpets in Japan are actually alien invasive species. *Conservation Genetics* 19: 947-958.
- 佐々木猛智. 2009. ヒメリンゴマイマイの移入. *ちりぼたん* 40: 59.
- Scholz, J., Nakajima, K., Nishikawa, T., Kaselowsky, J. & Mawatari, S. F. 2003. First discovery of *Bugula stolonifera* Ryland, 1960 (Phylum Bryozoa) in Japanese waters, as an alien species to the Port of Nagoya. *Bulletin of the Nagoya University Museum*, 19: 9-19.
- 品川和久. 1978. 淀川河口のカワヒバリガイ?について. *いそこじき* (34): 14.
- 高倉耕一. 2008. 大阪およびその周辺地域に優占する外来巻貝ハブタエモノアラガイ *Lymnaea columella* (Say) とその自家受精による繁殖能力. 大阪市立環境科学研究所報告 70: 43-51.
- 内田紘臣. 2017. 国外から侵入したと思われるセイタカイソギンチャク科 (Aiptasiidae) の1種の記録. *南紀生物* 59: 1-7.
- 内橋 潔. 1939. 日本群島ニ於ケルむらさきがひ (Mytilus edulis Linné) ノ新分布. 兵庫県立水産試験場試験報告 1: 5-8.
- 内海富士夫. 1966. 外国産フジツボの最近における日本への移入. *動物分類学会誌* (2): 36-39.
- 上地健琉・西山綺音・阿部晟大・大古場 正. 2020. 大阪府におけるコハクオナジマイマイの記録. *ちりぼたん* 50: 149-154.
- 植野敏郎. 1969. 日本におけるマミズクラゲの分布. *南紀生物* 11: 10-12.
- 和田太一. 2016. 淀川で見つかった大阪府における新たな陸産貝類. *Nature Study* 62(6): 9-11, 16.
- 渡部一晃. 1955. 生物クラブ誌. 12 pp. 大阪府立和泉高等学校生物部, 岸和田.
- 渡邊精一. 1997. チチュウカイミドリガニの日本への侵入と繁殖. *Cancer* 6: 37-40.
- 山口寿之. 2014. 外来種ココポーマアカフジツボの国内分布. *Sessile Organisms* 31(2): 15-23.
- 山西良平. 1979a. みなとの付着動物 1. *Nature Study* 25(4): 7-9.
- 山西良平. 1979b. みなとの付着動物 2. *Nature Study* 25(5): 4-6.
- 山西良平. 1988. 淀川汽水域の潮間帯生物相. *Nature Study* 34(1): 7-11.
- 山西良平. 1990. 淀川汽水域の潮間帯生物相(続). *Nature Study* 36(3): 5-9.
- 山西良平・内川隆一・大谷道夫・横山 寿. 1992. 道頓堀川で見つかったイガイダマシ. *Nature Study* 38(7): 8-10.
- 山西良平. 2000. ダンゴムシとワラジムシ. *Nature Study* 46(2): 1-2.
- 矢野重文・増田 修. 1999. 西日本におけるウスイロオカチグサガイの記録. *ちりぼたん* 30(1): 9-12.
- 無署名. 1987. 近畿地区における昭和61年度病害虫の発生概況. *関西病虫害研究会報* 29: 83-89.
- 無署名. 2014. 三原台で珍しいカタツムリ発見 三原台3丁の島田さん. *泉北コミュニティ*

1827(2014. 6. 19 付): 6.

標本記録 1: サカマキガイ, 大阪市天王寺区天王寺植物園, 1954年7月17日, 大阪市立自然史博物館 OMNH-Mo 39844.

標本記録 2: アメリカカブトエビ, 堺市向陽町, 1927年, 京都大学総合博物館 Ar005.

標本記録 3: アメリカザリガニ, 大阪府三島郡芝生, 1949年10月8日, きしわだ自然資料館 KSNHM-C00134.

標本記録 4: ヨーロッパフジツボ, 神戸市垂水区東垂水(打上), 1961年3月21日, 大阪市立自然史博物館, OMNH-Ar 2662.

標本記録 5: タテジマフジツボ, 大阪府泉南郡岬町長崎海岸, 1959年3月9日, 大阪市立自然史博物館, OMNH-Ar 103.

標本記録 6: アメリカフジツボ, 大阪府高石市高師の浜, 1974年11月11日, 大阪市立自然史博物館, OMNH-Ar 2677.

標本記録 7: イッカククモガニ, 大阪湾樽井沖, 1986年6月28日, 大阪市立自然史博物館, OMNH-Ar 3182.

表8 大阪府産外来無脊椎動物(昆虫・クモ類を除く)

綱	目	科	和名	学名	移入元(原産地)	移入経路	法律・機関等での指定状況(2021年11月現在)	推定される影響	大阪府での最初の確認年	大阪府での生息状況	備考	文献
ヒドロ虫綱	ヒドロ虫目	ハナガサクラゲ科	マミズクラゲ	<i>Craspedacusta sowerbii</i>	中国・長江	シスト化ポリブが物資に随伴?		不明	1959年	ため池		植野(1969)、藤下(1964)、大野(1987)
花虫綱	イソギンチャク目	セイタイソギンチャク科	シロセイタイソギンチャク	<i>Aiptasiogeton hyalinus</i>	地中海	船体付着の可能性		不明	2015年	岸和田貯木場		内田(2017)
渦虫綱	順列目	サンカクアタマウズムシ科	アメリカナミウズムシ	<i>Girardia tigrina</i>	北アメリカ	輸入観賞魚・水草に随伴?		不明	1980年代か	平野部の水路		中谷(1986)、大阪市立自然史博物館(2010)
			アメリカツノウズムシ	<i>Girardia dorotocephala</i>	北アメリカ	輸入観賞魚・水草に随伴?		不明	2000年代	淀川		大阪市立自然史博物館(2010)
			コウガイビル科	ワタリコウガイビル	<i>Bipalium kewense</i>	東南アジア(推定)	栽培土に混入して移動・拡散?		不明	2000年代		
			オオミスジコウガイビル	<i>Bipalium nobile</i>	中国南部	栽培土に混入して移動・拡散?		不明	2000年代			大阪市立自然史博物館(2014)
被口綱	掩喉目	オオマリコケムシ科	オオマリコケムシ	<i>Pectinatella magnifica</i>	北アメリカ	不明	在来淡水コケムシなどの競合	不明		淀川		
裸喉綱	唇目	Bugulidae	ブグリナ・ストロニフェラ	<i>Bugulina stolonifera</i>	不明	船体付着またはバラスト水混入の可能性		他の付着性生物の排除	不明	大阪湾沿岸		参考: Scholz et al. (2003)
腹足綱	新生腹足目	リンゴガイ科	スクミリンゴガイ	<i>Pomacea canaliculata</i>	南アメリカ・ラプラタ川流域	初期経路は養殖個体が逸出	世100、日100、生態系	在来抽水植物を食害	1980年代	豊能地域を除く全域の水路・ため池		無署名(1987)、大阪市立自然史博物館(2006)、大阪市立自然史博物館(2010)、児嶋・他(2020)、Ishida(2020)
		カワザンショウガイ科	ウスイロオカチグサ	<i>Solenomphala debilis</i>	南西諸島	土砂や植木等に随伴?		不明	1996年	箕面市、大阪府東南部(大阪狭山市など)	日本で見つかったのは中国大陸原産の別種(やはり移入種)とする意見や、南西諸島以外の国内個体群も在来とする意見がある。	松村(1997)、矢野・増田(1999)、大阪市立自然史博物館(2006)、児嶋・他(2020)
		アズキガイ科	アズキガイ	<i>Pupinella rufa</i>	国内	栽培土に混入して移動・拡散?		不明	2020年	和泉市(光明池)、豊中市(服部緑地)、寝屋川市(寝屋川公園)、他	府内では北摂や和泉山脈の山地に在来個体群が生息するが、近年平野部の複数の都市公園で見つかり、これらは他地域からの移入と推定される。	参考: 川瀬・他(2011)
		カリバガサ科	シマメノウフネガイ	<i>Crepidula onyx</i>	北アメリカ太平洋岸	船体付着またはバラスト水混入の可能性	生態系	サザエやアワビに付着して商品価値を下げる可能性	1980年	大阪湾 巻き貝の殻上		大阪湾海岸生物研究会(1981)、岡村・児嶋(1984)、江川(1985)、大谷(2002)、大谷・他(2004)、岩崎・他(2004)
	裸眼目	フジタウミウシ科	クロコソデウミウシ	<i>Polycera hedgpethi</i>	北アメリカ西海岸	船体付着の可能性		不明	2000年代	阪南2区		平野・他(2004)、柏尾・他(2016)
		Trinchesiidae	コウワンミノウミウシ	<i>Trinchesia perca</i>	ブラジル	船体付着の可能性		不明	2000年代	大阪湾沿岸		平野(1993)、石田・他(2014)、柏尾・他(2016)、柏尾・田中(2021)
			シロタエミノウミウシ属の一種	<i>Tenellia adspersa</i>	大西洋東部および地中海西部	船体付着の可能性		不明	2014年	大阪湾沿岸		柏尾・濱谷(2018)
	基眼目	モノアラガイ科	ハバタエモノアラガイ	<i>Pseudosuccinea columella</i>	北アメリカ	輸入観賞魚・水草に随伴?	生態系	不明	1980年代以降	ため池、ワンド		紀平・他(2003)、高倉(2008)、児嶋・他(2020)
			コシダカヒメモノアラガイ	<i>Galba cf. truncatula</i>	ヨーロッパ(推定)	不明		不明	不明	河川、水路、ため池		紀平・他(2003)、高倉(2008)、児嶋・他(2020)
		サカマキガイ科	サカマキガイ	<i>Physa acuta</i>	ヨーロッパまたは北米(推定)	輸入観賞魚・水草に随伴?	日100	不明	1940年代	河川、水路、ため池		標本記録1、古川(1949)、紀平・他(2003)、高倉(2008)、児嶋・他(2020)
		ヒラマキガイ科	インドヒラマキガイ	<i>Indoplanorbis exustus</i>	インド~東南アジア	観賞用に輸入されたものが逸出した可能性		在来淡水貝類との競合、水草への食害	不明(戦後)			紀平・他(2003)
			レンズヒラマキ(クルマヒラマキ)	<i>Helicorbis cf. cantori</i>	東アジア	輸入観賞魚・水草に随伴?		不明	1998年	淀川	国外産種と国内在来種の存在が指摘されるが、淀川で見つかったものは移入の可能性が高い。	紀平・河合(1998)、紀平・他(2003)
			ヒロマキミズマイマイ	<i>Memetus dilatatus</i>	北アメリカ東部	輸入観賞魚・水草に随伴?		不明	2020年	西除川水系水路		大古場(2021)
			メリケンゴザラ	<i>Ferrissia californica</i>	北アメリカ	不明		在来カワゴザラとの競合	不明	河川、水路、ため池		Saito et al. (2018)
	柄眼目	イシノシタ科	ノハラノイシノシタ	<i>Helicodiscus singleyanus inermis</i>	北アメリカ	工事用土に随伴?		不明	2016年	淀川河川敷、住之江区、貝塚市など		和田(2016)
		サナギガイ科	サナギモドキ属の一種	<i>Pupoides</i> sp.	不明	工事用土に随伴?		不明	2016年	淀川河川敷		和田(2016)

綱	目	科	和名	学名	移入元(原産地)	移入経路	法律・機関等での指定状況(2021年11月現在)	推定される影響	大阪府での最初の確認年	大阪府での生息状況	備考	文献	
		アフリカマイマイ科	トクサオカチョウジガイ	<i>Paropeas achatinaceum</i>	東南アジア	日本への初期経路は輸入物資に随伴? 現在は栽培土などに混入して移動・拡散		不明	不明(戦後)	府下平野部全域		松村(2001). 大阪市立自然史博物館(2014)	
			オオクビキレガイ	<i>Rumina decollata</i>	地中海沿岸	栽培土に混入して移動・拡散	生態系	園芸植物・農作物への食害、在来陸貝を捕食	2010年	主に泉北地域		石田(2011). 無署名(2014). 大阪市立自然史博物館(2014). 柏尾・他(2017). 大阪府環境農林水産部農政室(2018). 石田(2020)	
		コハクガイ科	ヒメコハクガイ	<i>Havaia minuscula</i>	北アメリカ	日本への初期経路は輸入物資に随伴? 現在は栽培土などに混入して移動・拡散		不明	不明	府下平野部全域		東(1939). 松村(2001).	
			コハクガイ	<i>Zonitoides arboreus</i>	北アメリカ	日本への初期経路は輸入物資に随伴? 現在は栽培土などに混入して移動・拡散		不明	不明	府下平野部全域		東(1939). 大阪府池田師範学校日本貝類学会会員(1938). 渡部(1955). 松村(2001). 大阪市立自然史博物館(2014)	
		マイマイ科	ヒメリンゴマイマイ	<i>Cantareus aspersus</i>	西ヨーロッパ	不明(園芸植物への随伴、または飼育個体の放逐?)		園芸植物・農作物への食害	2009年	門真市		佐々木(2009). 大阪市立自然史博物館(2014)	
		オナジマイマイ科	オナジマイマイ	<i>Bradybaena similaris</i>	東南アジア	日本への初期経路は輸入物資に随伴? 現在は栽培土などに混入して移動・拡散		園芸植物・農作物への食害	1930年代以前	府下平野部全域		大阪府池田師範学校日本貝類学会会員(1938). 東(1939). 東・波部(1940). 松村(2001)	
			コハクオナジマイマイ	<i>Bradybaena pellucida</i>	岡山県以西の西日本	不明(大阪には河川上流から流下とみられる)		園芸植物・農作物への食害	2018年	淀川・大和川河川敷		上地・他(2020)	
		コウラナメクジ科	キヒロナメクジ(コウラナメクジ)	<i>Limax flavus</i>	ヨーロッパ	日本への初期経路は輸入物資に随伴? 現在は栽培土などに混入して移動・拡散		園芸植物・農作物への食害	1930年代以前	府内各地、ただし現在の状況は不明。		東(1939). 大阪府池田師範学校日本貝類学会会員(1938). 渡部(1955). 藤田(1958)	
			チャコウラナメクジ	<i>Lehmannia valentiana</i>	イベリア半島	日本への初期経路は輸入物資に随伴? 現在は栽培土などに混入して移動・拡散	日100	園芸植物・農作物への食害	不明(戦後)	府下平野部全域		藤田(1958). 松村(2001). 大阪市立自然史博物館(2014)	
		ノハラナメクジ科	ノハラナメクジ	<i>Deroceras laeve</i>		日本への初期経路は輸入物資に随伴? 現在は栽培土などに混入して移動・拡散		園芸植物・農作物への食害	不明	府下平野部全域		藤田(1958)	
		アシヒダナメクジ科	アシヒダナメクジ	<i>Laevicaulis alte</i>	アフリカ(推定)	園芸植物に随伴?		園芸植物・農作物への食害	2000年代	長居植物園温室	野外での生息は大阪府では確認されていない。	大阪市立自然史博物館(2014)	
二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキイガイ	<i>Mytilus gallaprovincialis</i>	地中海・東大西洋	船体付着の可能性	世100、日100、生態系	他の付着性生物の排除、取水施設の機能阻害、大量へい死の際の水質汚濁	1930年代	大阪湾沿岸		内橋(1939). 大阪府池田師範学校日本貝類学会会員(1938). 堀(1958). 山西(1988). 山西(1990). 大谷(2002). 大谷・他(2004). 岩崎・他(2004). 石田・他(2005)	
			ミドリイガイ	<i>Perna viridis</i>	インド洋、東南アジア	船体付着またはバラスト水混入の可能性	生態系	他の付着性生物の排除	1984年	大阪湾沿岸		原田・大谷(1985). 有山(1992). 岡村(2001). 大谷(2002). 大谷・他(2004). 岩崎・他(2004). 大阪市立自然史博物館(2010)	
			コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>	オセアニア	船体付着またはバラスト水混入の可能性	日100、生態系	他の付着性生物の排除、取水施設の機能阻害、大量へい死の際の水質汚濁	1978年(大阪湾内は西宮市で1976年)	大阪湾の汽水域		品川(1978). Habe(1981). 岡村・児島(1984). 山西(1988). 山西(1990). 大谷(2002). 大谷・他(2004). 岩崎・他(2004). 大阪市立自然史博物館(2006). 大阪市立自然史博物館(2010)	
			カワヒバリガイ	<i>Limnoperna fortunei</i>	中国大陸	初期経路は輸入シジミに混入? 淀川本流には上流から流下の可能性	特定・生態系、日100	魚類腹口虫の中間宿主、在来底生・固着生物との競合、取水口への付着、大量へい死の際の水質悪化	1994年	淀川		Magara et al.(2001). 紀平・他(2003). 大阪市立自然史博物館(2010)	
		マルスダレガイ目	シジミ科	タイワンシジミ	<i>Corbicula spp.</i>	中国大陸、台湾	初期経路は輸入シジミに混入? 淀川本流には上流から流下の可能性	生態系	マシジミとの交雑による駆逐、在来底生動物食者との競合	1990年代か	淀川、府下平野部の水路	<i>Corbicula fluminea</i> とされることが多いが、複数種を含むと思われる	紀平・他(2003). 増田・内山(2004). 岩崎・他(2004). 大阪市立自然史博物館(2006). 大阪市立自然史博物館(2010)
		マルスダレガイ科	ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>	北アメリカ大西洋岸	不明	生態系	不明	2018年(大阪湾内は西宮市で2008年)	高師浜、浜寺水路、忠岡漁港		大谷(2004). 松隈・他(2015). 大古場・他(2021)	

綱	目	科	和名	学名	移入元(原産地)	移入経路	法律・機関等での指定状況(2021年11月現在)	推定される影響	大阪府での最初の確認年	大阪府での生息状況	備考	文献
		イワホリガイ科	ウスカラシオツガイ	<i>Petricola</i> sp. cf. <i>lithophaga</i>	不明	バラスト水混入の可能性		不明	1985年	大阪湾沿岸		児島・西川(1995)、大谷・他(2004)、岩崎・他(2004)、岩崎・池辺(2010)
		カワホトギスガイ科	イガイダマシ	<i>Mytilopsis sallei</i>	カリブ海、メキシコ湾、東南アジア	船体付着またはバラスト水混入の可能性、輸入木材への付着	生態系	不明	1991年	大阪湾の汽水域		山西・他(1992)、鍋島(1995)、鍋島・西座(1996)、大谷(2002)、大谷・他(2004)、岩崎・他(2004)、大阪市立自然史博物館(2010)
多毛綱	サンバゴカイ目	ゴカイ科	アシナゴカイ	<i>Neanthes succinea</i>	北大西洋(北米岸の可能性が高い)	船体付着またはバラスト水混入の可能性		不明	1987年	淀川河口		山西(1988)、大谷・他(2004)、大阪市立自然史博物館(2006)、大阪市立自然史博物館(2010)
		ケヤリムシ目	カンザシゴカイ科	カナヤドリカンザシゴカイ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>	不明	船体付着またはバラスト水混入の可能性	生態系	他の付着性生物の排除	1987年	大阪湾沿岸	山西(1988)、山西(1990)、大谷(2002)、岩崎・他(2004)、大阪市立自然史博物館(2010)
			カサネカンザシゴカイ	<i>Hydroides elegans</i>	不明(オーストラリアか)	不明	日100、生態系	他の付着性生物の排除	1960年代	大阪湾沿岸		大谷(2002)、岩崎・他(2004)
			ナデシコカンザシゴカイ	<i>Hydroides dianthus</i>	西大西洋	船体付着またはバラスト水混入の可能性		他の付着性生物の排除	1997年	大阪湾沿岸		大谷・他(2004)、大谷・山西(2007)、Otani & Yamaniishi(2010)
甲殻綱	背甲目	カブトエビ科	アメリカカブトエビ	<i>Triops longicaudatus</i>	おそらくアメリカ	耐久卵が物資に随伴?		小型水生生物の捕食	1927年	府下の水田		標本記録2、片山(1973)、大阪市立自然史博物館(2006)、大阪市立自然史博物館(2010)
			アジアカブトエビ	<i>Triops granarius</i>	不明	耐久卵が物資に随伴?		小型水生生物の捕食	1956年	府下の水田		片山(1973)、大阪市立自然史博物館(2006)、大阪市立自然史博物館(2010)
		無柄目	フジツボ科	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>	不明	不明	生態系	他の付着性生物の排除、取水施設の機能阻害	1940~50年代(大阪湾)	大阪湾の汽水域	標本記録5、山西(1979a)、山西(1979b)、大阪湾海岸生物研究会(1981)、大谷(1982)、山西(1988)、山西(1990)、大谷(2002)、大谷・他(2004)、岩崎・他(2004)、大阪市立自然史博物館(2010)
			アメリカフジツボ	<i>Amphibalanus eburneus</i>	西大西洋	船体付着またはバラスト水混入の可能性	生態系	他の付着性生物の排除	1970年代以前	大阪湾の汽水域		標本記録6、大谷(1982)、山西(1988)、山西(1990)、大谷(2002)、大谷・他(2004)、岩崎・他(2004)、大阪市立自然史博物館(2006)、大阪市立自然史博物館(2010)
			ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>	北大西洋	船体付着またはバラスト水混入の可能性	生態系	他の付着性生物の排除	1962年(大阪湾内は神戸で1961年)	大阪湾沿岸		標本記録4、Kawahara(1963)、内海(1966)、大阪湾海岸生物研究会(1981)、大谷(1982)、山西(1988)、山西(1990)、大谷(2002)、大谷・他(2004)、岩崎・他(2004)、大阪市立自然史博物館(2006)、大阪市立自然史博物館(2010)
			ココボーマアカフジツボ	<i>Megabalanus coccopoma</i>	中米沿岸	船体付着の可能性		他の付着性生物の排除	2009年	灯浮標に付着		山口(2014)
等脚目	コツブムシ科	ツノオウミセミ	<i>Paracerceis sculpta</i>	東太平洋	船体付着またはバラスト水混入の可能性			不明	1998年	阪南2区		Ariyama & Otani(2004)
		ワラジムシ科	ワラジムシ	<i>Porcellio scaber</i>	ヨーロッパ	栽培土に混入して移動・拡散?		在来土壌動物との競合	不明	府下平野部全域		山西(2000)
			クマワラジムシ	<i>Porcellio laevis</i>	地中海沿岸	栽培土に混入して移動・拡散?		園芸植物・農作物への被害、在来土壌動物との競合	不明	府下平野部全域		山西(2000)
			ホソワラジムシ	<i>Porcellionides pruinosus</i>	ヨーロッパ	栽培土に混入して移動・拡散?		在来土壌動物との競合	不明	府下平野部全域		山西(2000)、大阪市立自然史博物館(2014)
		オカダンゴムシ科	オカダンゴムシ	<i>Armadillidium vulgare</i>	ヨーロッパ	栽培土に混入して移動・拡散?		園芸植物・農作物への被害、在来土壌動物との競合	不明(神戸では遅くとも1920年代)	府下平野部全域		日浦(1974)、岡野(1975)、山西(2000)、大阪市立自然史博物館(2014)
端脚目	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	<i>Cratogeomys floridanus</i>	北アメリカ	輸入観賞用水草に随伴?		生態系	在来底生動物との競合	2000年代	河川、水路、ため池		金田・他(2007)
十脚目	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	北アメリカ	初期経路は意図的輸入		日100、生態系	在来水草、水生昆虫などを捕食	1940年代以前	河川、水路、ため池		標本記録3、三宅(1957)、N.Y.(1981)、大阪市立自然史博物館(2006)

綱	目	科	和名	学名	移入元(原産地)	移入経路	法律・機関等での指定状況(2021年11月現在)	推定される影響	大阪府での最初の確認年	大阪府での生息状況	備考	文献
		ヌマエビ科	カワリヌマエビ属	<i>Neocaridina</i> sp.	中国、韓国	釣り用の生き餌やベットとして輸入されたものが逸出		在来ヌマエビ類との競合、および交雑の可能性	不明	河川、水路、ため池などに生息する可能性	大阪府下で移入を確認した文献や標本記録はないが、近隣県での記録や流通状況から本リストに含めた。	Mitsugi et al. (2017)
		クモガニ科	イッカククモガニ	<i>Pyromaia tuberculata</i>	東太平洋	船体付着またはバラスト水混入の可能性		不明	1984年以前	大阪湾		標本記録: 鳳呂田・古瀬(1988), 大谷(2004), 大谷・他(2004), 岩崎・他(2004)
		ワタリガニ科	チチュウカイミドリガニ	<i>Callinectes aestuarii</i>	地中海、黒海	船体付着またはバラスト水混入の可能性	日100、生態系	不明	1996年	大阪湾		鍋島・他(1997), 渡邊(1997), 大谷(2004)
			アオガニ	<i>Callinectes sapidus</i>	西大西洋、カリブ海	船体付着またはバラスト水混入の可能性		不明	1984年	大阪湾		岩崎・他(2004), 大谷(2004)
			モンツキイシガニ	<i>Charybdis lucifera</i>	インド・西太平洋の暖温帯～熱帯	バラスト水混入の可能性		不明	1998年	大阪湾	黒潮による自然北上の可能性もある	鍋島・福井(1999)
		Panopeidae	ミナトオウギガニ	<i>Rhithropanopeus harrisi</i>	西大西洋	船体付着またはバラスト水混入の可能性		不明	2006年	大阪湾の汽水域		大谷・山西(2007)
ホヤ綱	マボヤ目	シロボヤ科	クロマメイタボヤ	<i>Polyandrocarpa zorrizensis</i>	不明	船体付着の可能性		他の付着性生物の排除	1999年	大阪湾沿岸		大谷(2002), 西川(2002b), 岩崎・他(2004)
		フクロボヤ科	マンハッタンボヤ	<i>Molgula manhattensis</i>	北大西洋	船体付着またはバラスト水混入の可能性		他の付着性生物の排除	1976年	大阪湾沿岸		大谷(2002), 西川(2002a), 大谷・他(2004), 岩崎・他(2004)

V. 維管束植物

長谷川匡弘（大阪市立自然史博物館）・植村修二（近畿植物同好会）

ここに示す大阪府下の外来植物のリストは、長谷川が太刀掛（2007）、桑島（1990）、大阪府（2000）より大阪府で記録のある外来植物をリストアップしたものに、植村・長谷川で近年分布が知られるようになった外来植物や、大阪での分布状況等を追記、もしくは大阪での分布が不明確な種を削除し、修正を重ねて作成したものである（表 9）。基本的には明治時代以降に日本に入ってきて、人の管理下を離れ定着した種をリストアップしているが、侵入・導入年代がある程度判明しているものについては、それ以前であってもリストに加えた。外来植物の侵入経路としては、港湾、空港、輸入原料を扱う工場等多岐にわたり、本来農作物や園芸植物として導入されたものが、管理が徹底していないために野生状態になり分布を拡大した例も多い。このような侵入経路についても判明している限り記載した。農作物や園芸植物が本来栽培されている場所以外の場所で確認された場合、それを外来生物として記録するかどうかはかなり判断が難しい。本リストでは、農作物や園芸植物であっても、明らかに人の管理下を離れた栽培場所ではないところで確認され、それが複数年にわたり生存し、増加している場合はリストに含めた。また、種子ではなく、球根等で栄養的に繁殖している植物も、人の管理下から離れたものであるか判断が難しい場合がある。このような植物でも、土砂などの移動により一緒に運ばれて、明らかに栽培地ではない場所で確認され、増加していることがある。このような状況が確認されている種についてはこのリストに含めた。

本リストは文献記録や標本記録に基づいていない種も多く掲載されている。特に近年確認された外来種では、SNS 等を利用して報告されることも多く、また、報告はされていないものの、明らかに人の管理下を離れ増加している種も見られる。このような場合、証拠標本が伴っていないことがほとんどではあるが、写真のみで明らかに同定可能な種については掲載することとした。これらの種については、今後雑誌等に報告するとともに、証拠標本を蓄積していく必要がある。また逆に、外来種かどうかの検証が不十分なために今回のリストには掲載しなかった種もある。このような種の中には、DNA 解析や標本の精査等新たな調査が必要なものも少なくない。文献等の調査も不十分であり、今後の調査・研究の進展とともに、本リストも改訂していく必要がある。

【文献】※網羅的に精査したものではなく、主要なもののみを掲載した。

藤井俊夫 2008. 大和川下流部の植物相. 自然史研究 3(9): 137-142.

橋本皓 2003. ハマデラソウの生活史. 近畿植物同好会会報 89: 9.

橋本皓・大場幾太・白川俊江・平野弘二 1996. 堺市の丘陵林内の逸出樹木について. 近畿植物同好会会誌 19: 3-8.

平野弘二・山住一郎 2000. 大阪府植物目録補遺(8). 近畿植物同好会会誌 23: 22-25.

平野弘二・山住一郎 2001. 大阪府植物目録補遺(9). 近畿植物同好会会誌 24: 35-36.

平野弘二・山住一郎 2002. 大阪府植物目録補遺(10).

近畿植物同好会会誌 25: 29-30.
平野弘二・山住一郎 2003. 大阪府植物目録補遺(11). 近畿植物同好会会誌 26: 29-30.
平野弘二・山住一郎 2004. 大阪府植物目録補遺(12). 近畿植物同好会会誌 27: 30-32.
平野弘二・山住一郎 2005. 大阪府植物目録補遺(13). 近畿植物同好会会誌 28: 31-32.
平野弘二・山住一郎 2006. 大阪府植物目録補遺(14). 近畿植物同好会会誌 29: 8-10.
平野弘二・山住一郎 2007. 大阪府植物目録補遺(15). 近畿植物同好会会誌 30: 30-31.
久内清孝 1950. 帰化植物. 科学図書出版社, 東京, pp.
堀勝・桑島正二・児玉務 1950. 大阪府植物誌補遺(3). 近畿植物同好会会誌 1: 49-58.
堀勝 1964. 大阪府植物誌 増補改訂版. 六月社, 大阪府, 436pp.
北河内自然愛好会(編) 2004. 北河内植物目録. 北河内自然愛好会, 大阪, 150pp.
近田文弘・清水建美・濱崎恭美(編著) 2006. 帰化植物を楽しむ. トンボ出版, 大阪, 240pp.
小山栄・藤井伸二 2004. ウチワゼニクサが能勢町で野生化. 近畿植物同好会会報 93: 12-14.
桑島正二 1970. 金剛山の植物の移り変わり. 近畿植物同好会会誌 2: 10-11.
桑島正二 1980. 大阪府の新出植物短報(2). 近畿植物同好会会誌 8: 32-33.
桑島正二 1981. 大阪府の新出植物短報(3). 近畿植物同好会会誌 9: 7.
桑島正二 1983. 大阪府の新出植物短報(4). 近畿植物同好会会誌 10: 36-37.
桑島正二 1985. 大阪府の新出植物短報(5). 近畿植物同好会会誌 11: 3, 23, 26, 33.
桑島正二 1987. 大阪府の新出植物短報(6). 近畿植物同好会会誌 12: 7-11.
桑島正二 1990. 大阪府植物目録. 近畿植物同好会, 大阪府, 197pp.
桑島正二 1991. 大阪府植物目録補遺(1). 近畿植物同好会会誌 14: 3-4.
桑島正二・平野弘二 1993. 大阪府植物目録補遺(2). 近畿植物同好会会誌 16: 10-13.
桑島正二・平野弘二 1994. 大阪府植物目録補遺(3). 近畿植物同好会会誌 17: 28-33.
桑島正二・平野弘二 1995. 大阪府植物目録補遺(4). 近畿植物同好会会誌 18: 69-71.
桑島正二・平野弘二 1996. 大阪府植物目録補遺(5). 近畿植物同好会会誌 19: 31-34.
桑島正二・平野弘二 1997. 大阪府植物目録補遺(6). 近畿植物同好会会誌 20: 40-41.
桑島正二・平野弘二 1998. 大阪府植物目録補遺(7). 近畿植物同好会会誌 21: 27-29.
水野寿彦 1950. 大阪北部地区に於ける二三の帰化植物侵入経路に就いて(千里山丘陵の生態学的研究 VIII). 近畿植物同好会会誌 1: 36-38.
水田光雄 2001. 関西空港島の帰化植物一本邦未記録種セリバオオバコを採集. 近畿植物同好会会報 84:

- 9-13.
- 村田源 1999. ホウキギクとヒロハホウキギク. 近畿植物同好会誌 22: 40.
- 村田源 2004. 近畿地方植物誌. 大阪自然史センター, 大阪府, 257pp.
- 中西定雄 1973. 泉南地方の帰化植物. 近畿植物同好会誌 3: 24-30.
- 日本生態学会(編) 2002. 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京, 390pp.
- 西川一郎 2005. 高槻市北部植物目録. 近畿植物同好会, 大阪, 101pp.
- 岡島一允 2014. 大阪・能勢町のため池の水草と食虫植物. 近畿植物同好会誌 37: 35-37.
- 岡島一允 2015. 豊能町のため池と水草. 近畿植物同好会誌 38: 23-26.
- 岡島一允 2017. 高槻市のため池と水草. 近畿植物同好会誌 40: 23-25.
- 大阪博物学会 1929. 大阪府植物便覧. 積善館, 大阪, 58pp.
- 大阪府(編) 2000. 大阪府生物目録. 大阪府, 大阪, 352pp.
- 長田武正 1971. 原色日本帰化植物図鑑. 保育社, 大阪, pp.
- 長田武正 1972. 日本帰化植物図鑑. 北隆館, 東京, pp.
- 堺植物同好会(編) 1998. 堺市植物目録. 堺植物同好会, 大阪府, 145pp.
- 志賀 隆・大阪市立自然史博物館大和川水系調査グループ水生植物班 2008. 大和川水系におけるカワヂシャと外来植物オオカワヂシャおよび雑種の分布. 大阪市立自然史博物館研究報告 62: 65-74.
- 清水建美(編) 2003. 日本の帰化植物. 平凡社, 東京, 337pp.
- 清水矩宏・広田 伸七・森田弘彦 2001. 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会, 東京, 555pp.
- 太刀掛優・中村慎吾(編) 2007. 改訂増補 帰化植物便覧. 比婆化学教育振興会, 広島, 676pp.
- 田中光彦 2016. オトメフウロを大東市野崎で採集. 近畿植物同好会誌 122: 20-21.
- 田中光彦 2016. アレチネガヤを大阪市で採集. 近畿植物同好会誌 122: 20.
- 田中光彦 2019. 大阪府でセンダンキササゲを見る. 近畿植物同好会誌 128: 20-21.
- 田中光彦 2019. 大阪府下でコバノショウジョウソウを確認する. 近畿植物同好会誌 128: 19-20.
- 田中光彦 2021. 大阪府でオオハタガヤを記録する. 近畿植物同好会誌 44: 40-41.
- 豊原稔 2012. 大阪府下に帰化したヤサカフウロ *Geranium purpureum* Villars. 近畿植物同好会誌 35: 11-13.
- 植村修二 1984. 大阪府の帰化植物ノート(1). レポート日本の植物 22: 13.
- 植村修二 1993. 帰化植物ノート(1) 淀川河川敷に帰化したキクザキリュウキンカ. 近畿植物同好会誌 60: 10-11.
- 植村修二 1989. 大阪府に帰化したヤワゲフウロ. 近畿植物同好会誌 13: 21-24.
- 植村修二 1992. 大阪府に帰化したヤクナガイヌムギ. 近畿植物同好会誌 15: 27-31.
- 植村修二 1993. 日本に帰化したアレチハナガサ群について. 近畿植物同好会誌 16: 3-10.
- 植村修二 1994. 走査電顕による帰化フウロソウ属2種の分果及び種子の観察. 近畿植物同好会誌 17: 5-8.
- 植村修二 1994. 帰化植物ノート(3) 堺市中心に広がりつつある外来キク科の1種. 近畿植物同好会誌 62: 25-27.
- 植村修二 1995. 能勢に帰化した切れ葉型ヒメオドリコソウ. 近畿植物同好会誌 18: 3-7.
- 植村修二 1995. 帰化植物ノート(4) 秋まで咲いているハハコグサ. 近畿植物同好会誌 64: 10-12.
- 植村修二 1998. 身近にある外来雑草アメリカカタカサブロウ. 近畿植物同好会誌 21: 21-26.
- 植村修二 1998. 帰化植物ノート(9) 公園に集合した帰化植物たち. 近畿植物同好会誌 74: 27-32.
- 植村修二 2000. 日本に帰化したミナトマツヨイグサについて. 近畿植物同好会誌 23: 1-7.
- 植村修二 2000. 帰化植物ノート(13) グリーンハウスウィンドー熱帯植物の鉢物と一緒に運ばれる植物たち. 近畿植物同好会誌 80: 7-11.
- 植村修二 2001. 日本に帰化したセンナリホオズギについて. 近畿植物同好会誌 24: 6-10.
- 植村修二 2007. 日本に帰化したタカサゴユリ類について. 近畿植物同好会誌 30: 41-46.
- 植村修二 2008. 帰化植物ノート(14) 公園に招かざる客、メリケントキンソウが現われる. 近畿植物同好会誌 102: 10-11.
- 植村修二・長谷川匡弘 2020. 大阪湾の人工島、夢洲で見つけた小葉型のナンキンハゼ. 近畿植物同好会誌 43: 13-16.
- 植村修二・片橋久夫 1976. ナガミヒナゲシの帰化地. 大阪府南部の海岸植物. 植物採集ニュース 88: 48-49.
- 植村修二・片橋久夫 1981. 大阪府堺市に帰化したキクザサガオとイボウキクサ. レポート日本の植物 10: 95.
- 植村修二・勝山 輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原 直樹 2015. 増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻. 全国農村教育協会, 東京, 595pp.
- 上久保文貴 2007. 貝塚市にエフクレタヌキモ. 近畿植物同好会誌 100: 38.
- 山住一郎・平野弘二 2008. 大阪府植物目録補遺(16). 近畿植物同好会誌 31: 49.
- 山住一郎・平野弘二 2009. 大阪府植物目録補遺(17). 近畿植物同好会誌 32: 80-81.
- 山住一郎・平野弘二 2010. 大阪府植物目録補遺(18). 近畿植物同好会誌 33: 48.
- 山住一郎・平野弘二 2011. 大阪府植物目録補遺(19). 近畿植物同好会誌 34: 24.
- 安木五夫 1980. ハマデラソウの新産地について. 近畿植物同好会誌 8: 20.
- 横川昌史・高田みちよ・長谷川匡弘 2020. 大阪府における特定外来生物 オオバナミズキンバイ(広義)(アカバナ科)の現状. 大阪市立自然史博物館研究報告 74: 75-82.

表9 大阪府外来植物目録

科	学名	和名	原産地	移入経路	法律・機関等での指定状況 (2021年11月現在)	大阪府での生育状況
コケ植物						
1	センボンゴケ科 <i>Tortula pagorum</i>	コモテネジレゴケ	オーストラリア			雄株のみが近年分布拡大している。
2	ミカヅキゼニゴケ科 <i>Lamularia cruciata</i>	ミカヅキゼニゴケ	地中海沿岸			調査不足の地域はあるが、大阪府内に広く分布していると考えられる。
3	センボンゴケ科 <i>Chenia rhizophylla</i>	ナガバヒョウタンゴケ	ヨーロッパ・南北アメリカ			堺市で最近記録された。
シダ植物 (小葉類・大葉類)						
4	イワヒバ科 <i>Selaginella uncinata</i>	コンテリクラマゴケ	中国南部	園芸植物として導入	生態系	山地に見られるが少ない。
5	<i>Selaginella moellendorffii</i>	イヌカタヒバ		園芸植物として導入		市街地～山地に見られる。大阪府産は国内外来種と考えられる。
6	トクサ科 <i>Equisetum hyemale</i> var. <i>affine</i>	キョダイトクサ	北アメリカ	園芸植物として導入		淀川周辺、埋立地で見られるが少ない。
7	マツバラ科 <i>Ptilotum nudum</i>	マツバラ		園芸植物に付随して非意図的に導入?		大阪市街域で近年増加しているものは国内外来種と考えられる。
8	サンショウモ科 <i>Salvinia molesta</i>	オオサンショウモ	熱帯アメリカ	園芸植物として導入	生態系	府内で時々見られるが、越冬はしないとされる。
9	<i>Azolla caroliniana</i>	アメリカオオアカウキクサ	北アメリカ～南アメリカ		生態系	
10	<i>Azolla cristata</i> × <i>A. filiculoides</i>	アイオオアカウキクサ			生態系	
11	<i>Azolla filiculoides</i>	ニンノオオアカウキクサ	アメリカ・アジア・オーストラリア		生態系	
12	イノモトソウ科 <i>Adiantum capillus-veneris</i>	ホウライシダ	温帯～熱帯	園芸植物として導入		駅構内等に多い。
13	<i>Adiantum rackhamum</i>	カラウサホウライシダ	ブラジル	園芸植物として導入		大阪市内で確認されているが稀。
14	<i>Pteris nipponica</i>	マツザシダ		園芸植物として導入		斑入りのものが逸出、一部で定着している。
15	ヒメシダ科 <i>Thelypteris dentata</i>	イヌケホシダ		園芸植物に付随して非意図的に導入		市街地を中心にごく普通に見られる。
16	ツルクジノオ科 <i>Nephrolepis cordifolia</i>	タマシダ		園芸植物として導入		フェニックス等の樹幹でよく見られる。
17	ウラボシ科 <i>Davallia tyermannii</i>	トキワシノブ	中国	園芸植物として導入		堺市内で確認されているが、逸出はほとんどない。
種子植物						
18	ハゴロモモ科 <i>Cabomba caroliniana</i>	ハゴロモモ	北アメリカ東南部	観賞用水草として導入		大阪府ではほとんど見られない。
19	スイレン科 <i>Nymphaea 'smilacacea'</i>	スイレン		観賞用水草として導入		溜池等で確認されている。意図的な植栽も多い。
20	コショウ科 <i>Peperomia pellucida</i>	ウスバサナゴショウ	南アメリカ原産	園芸植物に付随して非意図的に導入		豊中市で記録されている。
21	クスノキ科 <i>Cinnamomum sieboldii</i>	ニッケイ		栽培作物からの逸出		河内長野市で稀に記録されている。
22	<i>Litsea cubeba</i>	アオモジ		園芸植物として導入		大阪南部、生駒山系に多い。増加が著しい。
23	サトイモ科 <i>Colocasia esculenta</i>	サトイモ	熱帯アジア	栽培作物、薬草からの逸出		栽培地周辺で逸出することがある。長期には定着せず少ない。
24	<i>Landsolia punctata</i>	ヒメウキクサ	熱帯アジア			堺市などで確認されている。
25	<i>Lennea gibba</i>	イボウキクサ	ヨーロッパ			堺市などで確認されている。
26	<i>Lennea minuta</i>	ヒナウキクサ	南北アメリカ			
27	<i>Pistia stratiotes</i>	ボタンウキクサ	熱帯～亜熱帯	観賞用水草として導入	特定、日100、生態系	淀川水系で多かったが、近年は減少した。
28	<i>Wolffia globosa</i>	ミジンコウキクサ	東南アジア～インド、熱帯アフリカ			大阪市、堺市などで確認されている。
29	オモダカ科 <i>Sagittaria platyphylla</i>	ヒロハオモダカ	北アメリカ	観賞用水草として導入	生態系	淀川周辺で見られる。
30	<i>Sagittaria weatheriana</i>	ナガバオモダカ	北アメリカ	観賞用水草として導入	生態系	大阪市内で稀に見られる。
31	<i>Sagittaria trifolia</i>	クワイ	中国	栽培作物、薬草からの逸出		栽培地周辺に逸出が知られているが、広がってはいない。
32	トチカガミ科 <i>Egeria densa</i>	オオカナダモ	南アメリカ	観賞用水草として導入	日100、生態系	府内の水域に広く見られる。
33	<i>Elodea nuttallii</i>	コカナダモ	北アメリカ	観賞用水草として導入	日100、生態系	府内の水域に広く見られる。多い。
34	<i>Limnobium laevigatum</i>	アマゾントチカガミ	熱帯アメリカ	園芸植物として導入	生態系	現在のところ多くはない。
35	<i>Vallisneria 'psendorosulata'</i>	コウガイセイキョウモ		観賞用水草として導入		大阪市や大阪東部で確認されている。河川に生育。
36	ヤマノイモ科 <i>Dioscorea bulbifera</i>	ニガカシュウ	朝鮮・中国・台湾・ヒマラヤ・マレーシア・フィリピン			大阪南部で確認されている。古い記録のみ。
37	<i>Dioscorea polystachya</i>	ナガイモ	中国	栽培作物、薬草からの逸出		淀川で確認されている。
38	ユリズイセン科 <i>Alstroemeria</i> cvs.	アルストロメリア	南アメリカ	園芸植物として導入		植栽地からの逸出。山地でも植栽が確認されることがある。
39	ユリ科 <i>Lilium formosanum</i>	タカサゴユリ	台湾	園芸植物として導入		各地で急増している。
40	<i>Lilium x formolongo</i>	シンテップウユリ		園芸植物として導入		各地で急増している。
41	<i>Tricyrtis formosana</i> x <i>T. hirta</i>	ニワホトトギス		園芸植物として導入		堺市で確認されている。
42	アヤメ科 <i>Crocotmia x crocosmiflora</i>	ヒメヒオウギズイセン	南アフリカ	園芸植物として導入	生態系	山地で普通に見られる。
43	<i>Freesia laxa</i>	ヒメヒオウギ	南アフリカ	園芸植物として導入		堺市など、時々逸出しているのを見かける。
44	<i>Gladiolus tristis</i>	ニオイハヤザキグラジオラス (仮称)	南アフリカ	園芸植物として導入		豊中市、淀川河川敷で確認されている。
45	<i>Iris japonica</i>	シャガ	中国			山地で普通に見られる。
46	<i>Iris pseudacorus</i>	キショウブ	ユーラシア	園芸植物として導入	日100、生態系	府内各地の水域で見られる。
47	<i>Romulea rosea</i>	アフリカヒメアヤメ	南アフリカ			稀に見られる程度。
48	<i>Sisyrinchium exile</i>	キバナニワゼキショウ	北アメリカ			港湾地に見られる。
49	<i>Sisyrinchium micranthum</i>	オオニワゼキショウ	南アメリカ			府内各地に普通。
50	<i>Sisyrinchium rosulatum</i>	ニワゼキショウ	北アメリカ			府内各地に普通。
51	<i>Sisyrinchium</i> sp.	セッカニワゼキショウ				河川敷、港湾地などに見られる。
52	<i>Tritonia crocata</i>	アカバナヒメアヤメ	南アフリカ	園芸植物として導入		大阪市内で逸出が確認されている。
53	ワスレグサ科 <i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>kwanso</i>	ヤブカンゾウ	中国			府内各地に見られる。
54	ツルボラン科 <i>Aloe arborescens</i>	キダチアロエ	南アフリカ	園芸植物として導入		所々に見られる。植栽か?
55	<i>Aloe saponaria</i>	シャボンロカイ	南アフリカ	園芸植物として導入		所々に見られる。植栽か?
56	ヒガンバナ科 <i>Allium tuberosum</i>	ニラ	東アジア	栽培作物からの逸出		各地で栽培地で逸出。
57	<i>Habenanthus anderssonii</i>	イヌスイセン	南アメリカ	園芸植物として導入		大阪市内で稀に見られる。

科	学名	和名	原産地	移入経路	法律・機関等 での指定状況 (2021年11月 現在)	大阪府での生育状況
58	<i>Habranthus robustus</i>	モモイロイススイセン (仮称)	南アメリカ	園芸植物として導入		大阪市内の線路内、堺市の一部に群生。種子繁殖する。
59	<i>Iphoeia uniflorum</i>	ハナニラ	中央アメリカ・南アメリカ	園芸植物として導入		栽培場所からの逸出。各地で見られる。
60	<i>Leucosium aestivum</i>	スズランズイセン	ヨーロッパ・地中海沿岸	園芸植物として導入		河川敷などで稀に見られる。植栽か?
61	<i>Lycoris radiata</i>	ヒガンバナ	中国	園芸植物として導入		各地で普通に見られる。
62	<i>Narcissus papyraceus</i>	シロバナズイセン	地中海沿岸	園芸植物として導入		少ない。種子はできないので土と共に移動?
63	<i>Narcissus tazetta</i> var. <i>chinensis</i>	スイセン	地中海沿岸	園芸植物として導入		府内各地に見られる。種子はできないので土と共に移動?
64	<i>Nothoscordum gracile</i>	ハタケニラ	北アメリカ～熱帯アメリカ			府内で急増しており、各地でよく見られる。
65	<i>Zephyranthes candida</i>	タマダレ	南アメリカ	園芸植物として導入		時々確認される程度。
66	<i>Zephyranthes carinata</i>	サフランモドキ	中央アメリカ	園芸植物として導入		時々確認される程度。
67	<i>Zephyranthes citrina</i>	キバナサフランモドキ	南アメリカ	園芸植物として導入		堺市美原区、池田市内などで確認される。路面間隙などに見られる。
68	クサシギカズラ科 <i>Agave americana</i>	アオノリュウゼツラン	メキシコ	園芸植物として導入		種子繁殖は確認されていないが、捨てた株や流れ着いた株が定着。
69	<i>Asparagus officinalis</i>	オランダギキョウ	ヨーロッパ	園芸植物として導入		時々逸出が見られる。
70	<i>Asparagus virgatus</i>	ネズミボウキ	南アフリカ	園芸植物として導入		池田市などで栽培からの逸出が見られる。
71	<i>Chlorophytum comosum</i>	オリヅラン	南アフリカ	斑入り品種が園芸植物として導入		栽培からの逸出が時々見られる。
72	<i>Hyacinthoides hispanica</i>	ツリガネズイセン	南ヨーロッパ	園芸植物として導入		栽培地からの逸出。淀川などで確認されている。
73	<i>Muscari botryoides</i>	ルリムスカリ	南ヨーロッパ	園芸植物として導入		府内各地で見られる。栽培地からの逸出。
74	<i>Ornithogalum umbellatum</i>	オオアマナ	地中海沿岸	園芸植物として導入		淀川河川敷で確認されている。
75	<i>Scilla peruviana</i>	オオツルボ	ポルトガル・アルジェリア・チュニジア	園芸植物として導入		種子繁殖は確認されていないが、捨てた球根が定着。
76	<i>Yucca gloriosa</i> var. <i>gloriosa</i>	アツバキミガヨラン	北アメリカ	園芸植物として導入		種子繁殖は確認されていないが、捨てた株や流れ着いた株が定着。
77	ヤシ科 <i>Phoenix canariensis</i>	カナリヤヤシ	カナリヤ諸島	園芸植物として導入		良く植栽されるが、逸出は少ない。港湾部で時々確認される。
78	<i>Trachycarpus fortunei</i>	シュロ	九州南部～琉球	園芸植物として導入	生態系	府内各地に見られる。
79	<i>Washingtonia filifera</i>	ワシントンヤシ	北アメリカ	園芸植物として導入		堺市、大阪市、港湾部で実生が見られる。
80	ツルクサ科 <i>Commelina benghalensis</i>	マルバツルクサ	熱帯アジア・アフリカ	ココビートに混入		府内各地に見られる。
81	<i>Commelina caroliniana</i>	カロライナツルクサ	南アジア			大和川で確認されたことがある。
82	<i>Commelina diffusa</i>	シマツルクサ	九州南部～琉球			淀川、大和川で確認されたことがある。
83	<i>Commelina erecta</i>	シュクコンツルクサ	北アメリカ			大阪市内で確認されている。
84	<i>Gibasis pellicida</i>	カラクサツルクサ	ジャマイカ	園芸植物として導入		府内各地で逸出。
85	<i>Murdannia nudiflora</i>	アレチボウキ	熱帯アジア			港湾部などで確認されているが稀。
86	<i>Tradescantia albiflora</i>	オオトキワツルクサ	南アメリカ	斑入り品種が園芸植物として導入		堺市などに逸出しているが稀。
87	<i>Tradescantia fluminensis</i>	ノハカタカラクサ	南アメリカ	斑入り品種が園芸植物として導入	生態系	府内各地に見られる。
88	<i>Tradescantia fluminensis</i> 'Lime' オウゴンハカタカラクサ (仮称)			園芸植物として導入		箕面市で確認されている。
89	<i>Tradescantia fluminensis</i> 'Varidis' ミドリハカタカラクサ			斑入り品種が園芸植物として導入		府内各地に見られる。多い。
90	<i>Tradescantia pallida</i>	ムラサキオオツルクサ	メキシコ	園芸植物として導入		大阪市内で確認されたことがあるが稀。
91	<i>Tradescantia sillamontana</i>	シラゲツルクサ	メキシコ	園芸植物として導入		堺市などに逸出しているが稀。
92	<i>Tradescantia virginiana</i>	オオムラサキツルクサ	北アメリカ	園芸植物として導入		時々逸出する。
93	ミズアオイ科 <i>Eichhornia crassipes</i>	ホテイアオイ	熱帯アメリカ	観賞用水草として導入	世100、日100、生態系	府内各地に見られる。淀川ではかなり減少した。
94	<i>Heteranthera limosa</i>	アメリカコナギ	北アメリカ～南アメリカ			最近府内で確認された。
95	<i>Pontederia cordata</i> var. <i>lanatifolia</i>	ホソナガバミズアオイ	北アメリカ	観賞用水草として導入		放棄されたものの定着が稀に見られる。
96	カンナ科 <i>Canna</i> × <i>generalis</i>	ハナカンナ		園芸植物として導入		府内では時々逸出が確認される程度
97	クズウコン科 <i>Thalia dealbata</i>	ミズカンナ	北アメリカ・中央アメリカ	観賞用水草として導入		栽培からの逸出が稀に見られる。
98	ショウガ科 <i>Zingiber mioga</i>	ミョウガ	熱帯アジア	栽培作物、薬草からの逸出		
99	イグサ科 <i>Juncus aridicola</i>	フトモドキ (仮称)	オーストラリア			溜池、河川敷で稀に見つかる。
100	<i>Juncus articulatus</i> subsp. <i>articulatus</i>	コバナノハイゼキショウ	ユーラシア大陸・北アメリカ			大阪市、枚方市で確認されているが稀。
101	<i>Juncus interior</i>	セイタカクサイ	北アメリカ			
102	<i>Juncus polyanthemus</i>	コゴメイ	オーストラリア		生態系	府内の河川敷などに普通に見られる。
103	<i>Juncus tenuis</i>	クサイ	北アメリカ・南アメリカ			
104	<i>Juncus tenuis</i> var. <i>antheratus</i>	オオタクサイ	北アメリカ	緑化用植物の輸入種子に混入		チャボウシノシツペイ (芝生用種子) に混入していることがある。
105	<i>Juncus validus</i>	オニコウガイゼキショウ	北アメリカ			淀川河川敷で見られるが稀。
106	カヤツリグサ科 <i>Bulbostylis puberula</i>	オオハタガヤ	熱帯	ココビートに混入		大阪市内で2020年に確認された。
107	<i>Cyperus aggregatus</i>	アレチクグ	北アメリカ南部～南アメリカ			大阪市、豊中市で確認されている。
108	<i>Cyperus alternifolius</i>	シュロガヤツリ	マダガスカル	園芸植物として導入	生態系	箕面市などで確認されている。
109	<i>Cyperus congestus</i>	ユメノシマガヤツリ	オーストラリア・南アフリカ			大阪市夢洲のみで確認されている。
110	<i>Cyperus distans</i>	ホウキガヤツリ	熱帯～亜熱帯	ココビートに混入		豊中市で確認されている。
111	<i>Cyperus engelmannii</i>	ホソミキンガヤツリ	北アメリカ			淀川水系、港湾部で確認されている。
112	<i>Cyperus eragrostis</i>	メリケンガヤツリ	熱帯アメリカ		生態系	府内各地に多く見られる。
113	<i>Cyperus esculentus</i>	シヨクヨウガヤツリ	温帯～熱帯			箕面市などで確認されているが少ない。
114	<i>Cyperus ferruginescens</i>	ヒメムツオレガヤツリ	北アメリカ			大阪市内で確認されている。
115	<i>Cyperus odoratus</i>	ムツオレガヤツリ	熱帯			
116	<i>Cyperus sphaecelatus</i>	ゴマフガヤツリ	熱帯アフリカ	ココビートに混入		
117	<i>Cyperus strigosus</i>	コガネガヤツリ	北アメリカ			枚方市内で確認されている。

科	学名	和名	原産地	移入経路	法律・機関等での指定状況 (2021年11月現在)	大阪府での生育状況
118	<i>Agrostis avenacea</i>	ナンカイヌスカボ	オセアニア			港湾地域、河川敷に見られる。
119	<i>Agrostis canina</i>	ヒメヌカボ	ヨーロッパ			豊中市で確認されたことがあるが稀。
120	<i>Agrostis gigantea</i>	コヌカグサ	北半球温帯	緑化用植物・牧草からの逸出	生態系	府内に広く見られる。
121	<i>Agrostis stolonifera</i>	ハイコヌカグサ	北半球温帯	緑化用植物・牧草からの逸出		府内に広く見られる。
122	<i>Aira caryophyllaea</i>	ヌカススキ	ヨーロッパ、北アフリカ、西アジア			箕面市で確認されているが少ない。
123	<i>Aira elegantissima</i>	ハナヌカススキ	ヨーロッパ			府内に広く見られる。
124	<i>Aira elegantissima</i> subsp. <i>ambigua</i>	ヒメヌカススキ	ヨーロッパ			府内では稀。
125	<i>Alopecurus pratensis</i>	オオスズメノテッポウ	ヨーロッパ~西アジア			金剛山で確認されている。
126	<i>Andropogon glomeratus</i>	フトボメリケンカルカヤ	北アメリカ			港湾部によく見られる。
127	<i>Andropogon virginicus</i>	メリケンカルカヤ	北アメリカ		生態系	府内に普通に見られる。
128	<i>Andropogon virginicus</i> x <i>A. glomeratus</i>	アイメリケンカルカヤ (仮称)				港湾部で確認されるが少ない。
129	<i>Anthoxanthum odoratum</i>	ハルガヤ	ユーラシア		生態系	郊外に多い。
130	<i>Apera interrupta</i>	ホソセイヨウヌカボ	ヨーロッパ中部~西アジア			堺市で確認されたことがある。
131	<i>Apera spica-venti</i>	セイヨウヌカボ	ヨーロッパ			
132	<i>Arrhenatherum elatius</i>	オオカニツリ	ヨーロッパ			
133	<i>Avena fatua</i>	カラスムギ	ヨーロッパ、北アフリカ、西アジア			府内に広く見られる。最近減少傾向?
134	<i>Avena sativa</i>	マカラスムギ	ヨーロッパ	栽培作物、葉草からの逸出		一時的に逸出することがある。
135	<i>Avena sterilis</i> subsp. <i>ludoviciana</i>	オニカラスムギ	ヨーロッパ~西アジア			堺市で確認されたことがある。
136	<i>Axonopus compressus</i>	ツルメヒシバ	熱帯アメリカ	ココビートに混入		大阪市、池田市で確認されたことがある。
137	<i>Briza maxima</i>	コパンソウ	地中海沿岸			広く見られるがそれほど多くはない。
138	<i>Briza minor</i>	ヒメコパンソウ	地中海沿岸			府内に広く見られる。
139	<i>Bromus catharticus</i>	イヌムギ	南アメリカ			府内に広く見られる。
140	<i>Bromus commutatus</i>	ムクゲチャヒキ	ヨーロッパ			
141	<i>Bromus diandrus</i>	ヒゲナガスズメノチャヒキ	ヨーロッパ			堺市、港湾部などで見られる。
142	<i>Bromus hordeaceus</i>	ハマチャヒキ	ユーラシア			港湾部で確認されたが稀。
143	<i>Bromus secalinus</i>	カラスノチャヒキ	ユーラシア			
144	<i>Bromus tectorum</i>	ウマノチャヒキ	ヨーロッパ			堺市などで確認されている。
145	<i>Cenchrus brownii</i>	クリノイガ	熱帯アメリカ			堺市で採集されたことがある。
146	<i>Cenchrus echinatus</i>	シンクリノイガ	熱帯アメリカ			大阪南部で確認されたことがある。
147	<i>Chloris barbata</i>	シマヒゲシバ	熱帯アメリカ			一時的に出現することがある。
148	<i>Chloris gayana</i>	アフリカヒゲシバ	南アフリカ	緑化用植物・牧草からの逸出		牧草から逸出するが長期間定着しない。
149	<i>Chloris radiata</i>	コウセンガヤ	熱帯アメリカ			稀くす肥料で一時的に出現したのみ。
150	<i>Chloris virgata</i>	オヒゲシバ	北アメリカ			港湾部で普通に見られる。
151	<i>Coix lacryma-jobi</i>	ジュズダマ	熱帯アジア			府内で広く確認され、農耕地水路筋などに見られる。
152	<i>Cynodon dactylon</i> x <i>C. transvalensis</i>	ティフトン		緑化用植物・牧草からの逸出		各地で見られる。
153	<i>Dactyloctenium aegyptium</i>	カタボウシノケグサ	アフリカ	緑化用植物・牧草からの逸出	日100、生態系	各地で見られる。
154	<i>Dactyloctenium aegyptium</i>	タツノツメガヤ	アフリカ	ココビートに混入 (大阪市)		田原町、大阪市などで見られるが少ない。
155	<i>Desmazeria rigida</i>	カタボウシノケグサ	ヨーロッパ、北アフリカ、西アジア			堺市、港湾部などで見られる。
156	<i>Dinebra retroflexa</i>	ハキダメガヤ	アフリカ東部~インド西部			泉大津市、堺市で確認されたことがあるが稀。
157	<i>Echinochloa colona</i>	コヒメビエ	熱帯~亜熱帯			堺市で標本が採集されている。
158	<i>Eragrostis ciliaris</i>	アメリカカゼクサ	熱帯~亜熱帯			堺市に古い記録がある。一時的な発生と思われる。
159	<i>Eragrostis curvula</i>	シナダレスズメガヤ	南アフリカ	緑化用植物・牧草からの逸出	日100、生態系	府内全域に普通に見られる。
160	<i>Eragrostis minor</i>	コスズメガヤ	ユーラシア			府内全域に普通に見られる。
161	<i>Eragrostis minor</i>	シロカゼクサ	北アメリカ			枚方市で確認されたことがあるが稀。
162	<i>Eragrostis sp.</i>	キノガワニワホコリ (仮称)				淀川、箕面市、港湾部などに見られる。
163	<i>Eremochloa ophiuroides</i>	チャボウシノシツペイ	東南アジア~中国南部	緑化用植物・牧草からの逸出		
164	<i>Eremochloa ophiuroides</i>	シラゲガヤ	ヨーロッパ			時々確認されているが少ない。
165	<i>Holcus mollis</i>	ニセシラゲガヤ	ヨーロッパ			金剛山で確認されている。
166	<i>Hordeum murinum</i>	ムギクサ	ヨーロッパ			富田林市、池田市などの記録はあるが少ない。
167	<i>Lagurus ovatus</i>	ウサギノオ	地中海沿岸	園芸植物として導入		和泉市 (信太山) などで確認されているが少ない。
168	<i>Leptochloa fusca</i>	ハマガヤ	熱帯			
169	<i>Leptochloa fusca</i> subsp. <i>uninervis</i>	ニセアゼガヤ	北アメリカ、南アメリカ西部			港湾部の塩湿地に見られる。
170	<i>Lolium multiflorum</i>	ネズミムギ	ヨーロッパ~北西アフリカ	緑化用植物・牧草からの逸出	生態系	ほとんどがネズミホムムギまたはボウムギとの雑種と考えられる。
171	<i>Lolium perenne</i>	ホソムギ	ヨーロッパ、温帯アジア、北アフリカ、西南アジア	緑化用植物・牧草からの逸出	生態系	稀。
172	<i>Lolium remotum</i>	アマドクムギ	ヨーロッパ~小アジア			豊中市で確認されたことがある。稀。
173	<i>Lolium rigidum</i>	ボウムギ	地中海沿岸		生態系	港湾部に見られる。
174	<i>Lolium temulentum</i>	ドクムギ	ヨーロッパ		生態系	
175	<i>Lolium x hybridum</i>	ネズミホソムギ			生態系	府内に広く見られる。
176	<i>Moorochloa eruciformis</i>	ヒメスズメノヒエ	インド~地中海沿岸・北アフリカ			堺市で確認されたことがある。
177	<i>Panicum capillare</i>	ハナクサキビ	北アメリカ			池田市などで確認されているが少ない。
178	<i>Panicum dichotomiflorum</i>	オオクサキビ	北アメリカ		生態系	府内各地で確認されている。
179	<i>Panicum dichotomiflorum</i> subsp. <i>puritanorum</i>	ホソバオオクサキビ (仮称)	北アメリカ			府内各地で確認されている。
180	<i>Panicum maximum</i>	ギネアキビ	アフリカ	緑化用植物・牧草からの逸出		栽培地からの逸出が確認されるが長期間の定着はしない。

科	学名	和名	原産地	移入経路	法律・機関等での指定状況 (2021年11月現在)	大阪府での生育状況
182	<i>Panicum miliaceum</i>	キビ	インド	鳥の顔からの逸出またはそれに混入		
183	<i>Panicum scoparium</i>	ホウキヌカキビ	北アメリカ			確認例は少ない。
184	<i>Parapholis incurva</i>	スズメノナギナタ	ヨーロッパ			港湾部に見られる。
185	<i>Paspalum dilatatum</i>	シマスズメノヒエ	南アメリカ		生態系	府内に広く見られる。
186	<i>Paspalum distichum</i>	キシウスズメノヒエ	不明		生態系	府内の湿地でよく確認される。
187	<i>Paspalum distichum</i> var. <i>indutum</i>	チクゴスズメノヒエ	北アメリカ南部		生態系	府内のため池でよく確認される。
188	<i>Paspalum longifolium</i>	ナガバズメノヒエ	インド～東南アジア、オーストラリア			豊中市などで確認されている。
189	<i>Paspalum notatum</i>	アメリカスズメノヒエ	熱帯アメリカ	緑化用植物・牧草からの逸出	生態系	府内各地で確認される。
190	<i>Paspalum urvillei</i>	タチスズメノヒエ	南アメリカ		生態系	府内各地で確認され多い。
191	<i>Pennisetum setaceum</i>	フキアゲチカラシバ (仮称)	アフリカ	園芸植物として導入		大阪市などで確認されている。
192	<i>Phalaris canariensis</i>	カナリークサヨシ	ヨーロッパ	鳥の顔からの逸出またはそれに混入		大阪市などで確認されている。
193	<i>Phleum pratense</i>	オオアワガエリ	ユーラシア	緑化用植物・牧草からの逸出	生態系	
194	<i>Phyllostachys edulis</i>	モウソウチク	中国	栽培作物、葉草からの逸出	生態系	府内各地に見られる。多い。最近広がっている。
195	<i>Piptatherum miliaceum</i>	アレチイネガヤ	地中海沿岸			港湾部、高架下、中央分離帯によく見られる。
196	<i>Poa annua</i> subsp. <i>annua</i>	アオスズメノカタビラ	ヨーロッパ			都市部中心に多い。
197	<i>Poa compressa</i>	コイチゴツナギ	ヨーロッパ			
198	<i>Poa pratensis</i>	ナガハグサ	ユーラシア	緑化用植物・牧草からの逸出		府内各地に見られる。
199	<i>Poa pratensis</i> subsp. <i>angustifolia</i> var. <i>angustifolia</i>	ホソバノナガハグサ	ユーラシア			府内各地に見られるが、少ない。
200	<i>Poa trivialis</i>	オオスズメノカタビラ	ヨーロッパ～西南アジア、北アフリカ			府内各地に見られ多い。
201	<i>Poa trivialis</i> subsp. <i>sylvicola</i>	タマオオスズメノカタビラ	地中海沿岸～中央アジア			府内各地に見られるが、少ない。
202	<i>Rostraria cristata</i>	ミノボロモドキ	地中海沿岸～イラン			港湾部に見られるが、少ない。
203	<i>Saccharum arundinaceum</i>	ヨシヌスキ	インド	緑化用植物・牧草からの逸出	生態系	東大阪市で確認されている。
204	<i>Festuca phoenix</i>	オニウシノケガサ	ヨーロッパ～西アジア	緑化用植物・牧草からの逸出	日100、生態系	府内に広く見られ、多い。
205	<i>Festuca pratensis</i>	ヒロハノウシノケガサ	ヨーロッパ	緑化用植物・牧草からの逸出		府内各地に見られるが、多くはない。
206	x <i>Festulolium braunii</i>	ネズミウシノケガサ				大阪府下では時々確認される程度。
207	<i>Setaria pycnocoma</i>	オオエノコロ				大阪市内などで時々確認される。
208	<i>Setaria italica</i>	アワ	中国	鳥の顔からの逸出またはそれに混入		大阪市内などで時々確認される。
209	<i>Setaria parviflora</i>	フシネキンエノコロ	旧世界の暖帯			堺市などで確認されている。
210	<i>Setaria verticillata</i>	ザラツキエノコロガサ	南ヨーロッパ			堺市で確認されている。稀。
211	<i>Sorghum bicolor</i>	モロコシ	アフリカ東北部	鳥の顔からの逸出またはそれに混入		大阪市内などで時々確認される。
212	<i>Sorghum bicolor</i> 'Hoki'	ホウキモロコシ	アフリカ	栽培作物、葉草からの逸出		南港で確認されたことがある。
213	<i>Sorghum halepense</i>	セイバンモロコシ	地中海沿岸		生態系	府内各地に普通。河川敷に多い。ヒメモロコシタイプも見られる。
214	<i>Vulpia bromoides</i>	イヌナギナタガヤ	ヨーロッパ～西アジア、北アフリカ			
215	<i>Vulpia myuros</i>	ナギナタガヤ	ヨーロッパ～西アジア		生態系	府内各地に普通。
216	<i>Vulpia octoflora</i>	ムラサキナギナタガヤ	北アメリカ			箕面市、吹田市で確認されたことがあるが稀。
217 ケシ科	<i>Echscholzia californica</i>	ハナビシソウ	北アメリカ	園芸植物として導入		大和川の河川敷など。稀。
218	<i>Fumaria capreolata</i>	ニセカラクサケマン	ヨーロッパ			淀川、大和川の河川敷で見られる。増加傾向にある。
219	<i>Papaver argemone</i>	トゲナガミゲシ	ヨーロッパ			堺市で確認されているが極めて稀。
220	<i>Papaver dubium</i>	ナガミヒナゲシ	地中海沿岸			1976年頃大阪府南部で初めて確認。その後分布拡大した。現在では普通に見られる。
221	<i>Papaver hybridum</i>	トゲミゲシ	ヨーロッパ			池田市で確認されているが稀。
222	<i>Papaver pinnatifidum</i>	ホソミヒナゲシ	地中海沿岸			豊中市の公園で確認。ナガミヒナゲシとよく似ているため混同している可能性がある。
223	<i>Papaver rhoeas</i>	ヒナゲシ	ヨーロッパ	園芸植物として導入		稀に逸出する。定着はしない。
224	<i>Papaver somniferum</i> subsp. <i>setigerum</i>	アツミゲシ	地中海沿岸		生態系	大阪府南部で見られる。法的規制がある植物。
225 メギ科	<i>Berberis japonica</i>	ヒラギナンテン	中国～ヒマラヤ	園芸植物として導入	生態系	府内で点々と見られる。
226	<i>Nandina domestica</i>	ナンテン	日本、中国、東南アジア	園芸植物として導入		府内で点々と見られる。
227 キンボウゲ科	<i>Anemone ×hybrida</i>	アイノコシユウメイギク		園芸植物として導入		植栽からその周辺に広がっている場所が確認されている。
228	<i>Anemone hepchensis</i>	シュウメイギク	中国西南部	園芸植物として導入		金剛山での記録がある。
229	<i>Ficaria verna</i>	クワザキリュウキンカ	北アメリカ原産	園芸植物として導入		近年大阪府下で急増中で要注意。意図的な植栽からの逸出が多い。
230	<i>Nigella damascena</i>	クロタネソウ	地中海沿岸	園芸植物として導入		逸出。堺市、箕面市で確認されているが少ない。
231	<i>Ranunculus arvensis</i>	イトキツネノボタン	ヨーロッパ原産			府下ではほとんど見られない。
232	<i>Ranunculus muricatus</i>	トゲミノキツネノボタン	ヨーロッパ、西アジア			耕作地、畜産関係の場所に多い。
233	<i>Ranunculus sardous</i>	イボミキンボウゲ	ヨーロッパ			府内ではほとんど見られない。
234 ハス科	<i>Nelumbo nucifera</i>	ハス	インド	栽培作物、葉草からの逸出		明らかに逸出と判断できるものは少ない。
235 ベンケイソウ科	<i>Crassula peduncularis</i>	ナガエズマツメクサ	オーストラリア・ニュージーランド・南アメリカ			淀川河川敷に見られる。
236	<i>Graptopetalum paraguayense</i>	オボロツキ	メキシコ	園芸植物として導入		時々見かける。栽培が逸出か不明な場所も多い。
237	<i>Kalanchoe delagoensis</i>	キンチョウ	マダガスカル	園芸植物として導入		大阪府で逸出を確認している。
238	<i>Kalanchoe cretata</i> × <i>daigremontiana</i>	フシチョウ (不死鳥)		園芸植物として導入		堺市で逸出を確認。
239	<i>Sedum dasyphyllum</i>	ヒメホシビジン	ヨーロッパ南部、北アフリカ	園芸植物として導入		堺市で確認されている。
240	<i>Sedum japonicum</i> subsp. <i>oryzifolium</i> var. <i>pumilum</i>	オカタイトゴメ	原産地不明	園芸植物として導入		府内では広く見られる。

科	学名	和名	原産地	移入経路	法律・機関等での指定状況 (2021年11月現在)	大阪府での生育状況
	<i>Sedum lineare</i>	オノマンネングサ	原産地不明	園芸植物として導入		市街地などに逸出
	<i>Sedum mexicanum</i>	メキシコマネングサ	原産地不明			府内では多い。
	<i>Sedum pallidum</i> var. <i>bithynicum</i>	シンジュボシマンネングサ	ヨーロッパ	園芸植物として導入		府内では少ない。
	<i>Sedum sarmentosum</i>	ツルマンネングサ	朝鮮半島~中国東北部	園芸植物として導入		河川護岸などに見られる。
	<i>Sedum</i> sp.	モリムランネングサ		園芸植物として導入		府内ではよく見かける。学名不詳。
	<i>Sedum</i> sp.	ヨコハママンネングサ				豊中市周辺で確認されている。
247 アリノトウグサ科	<i>Myriophyllum aquaticum</i>	オオフサモ	南アメリカ	観賞用水草として導入	特定、日100、生態系	近年減少した？ 河川下流域などに分布。
248 マメ科	<i>Amorpha fruticosa</i>	イタチハギ	北アメリカ	緑化用植物・牧草からの逸出	日100、生態系	吹田市、箕面市などで見られる。道路法面等で確認される。
249	<i>Cullen cinereum</i>	クマツヅラハギ	オーストラリア			
250	<i>Cytisus scoparius</i>	エニシダ	ヨーロッパ南部	緑化用植物・牧草からの逸出	生態系	府内では時々逸出が確認される程度。
251	<i>Cytisus striatus</i>	ケブカエニシダ	ヨーロッパ	緑化用植物・牧草からの逸出		金剛山で確認されている。
252	<i>Desmanthus illinoensis</i>	ハイクサネム	北アメリカ			岸和田市、大阪市で確認されている。
253	<i>Desmodium dillenii</i>	ケアレチスズビトハギ	北アメリカ			葉に毛が多い。府内では普通に見られる。
254	<i>Desmodium paniculatum</i>	アレチスズビトハギ	北アメリカ東南部		生態系	府内では非常に多い。
255	<i>Indigofera pseudotinctoria</i>	キダチコマツナギ	中国	緑化用植物・牧草からの逸出		道路法面周辺に多い。
256	<i>Lathyrus latifolius</i>	ヒロハレンリソウ	ヨーロッパ南部	園芸植物として導入		稀に逸出するのみ。
257	<i>Lotus corniculatus</i> var. <i>corniculatus</i>	セイヨウミヤコグサ	ユーラシア、アフリカ原産	緑化用植物・牧草からの逸出		府内には広く見られる。
258	<i>Lotus tenuis</i>	ワタリミヤコグサ	ヨーロッパ、アフリカ、西アジア			富田林市で確認されたが、最近ほとんど見ない。
259	<i>Medicago arabica</i>	モンツクウマゴヤシ	ヨーロッパ、アフリカ、西アジア			富田林市の果樹園の下など。大阪東部で確認されている。
260	<i>Medicago lupulina</i>	コメツブウマゴヤシ	ヨーロッパ			稀に見られる。
261	<i>Medicago lupulina</i> var. <i>cupanina</i>	オニコメツブウマゴヤシ	ヨーロッパ			稀に見られる。
262	<i>Medicago lupulina</i> var. <i>glandulosa</i>	ネバリコメツブウマゴヤシ	ヨーロッパ			1970年代から広がりはだした。府内では広く見られる。
263	<i>Medicago minima</i>	コウマゴヤシ	ヨーロッパ、アフリカ、西アジア			堺市、高槻市などで記録がある。
264	<i>Medicago polymorpha</i>	ウマゴヤシ	ヨーロッパ南部、地中海沿岸			府内では時々みかける。
265	<i>Medicago praecox</i>	カキハバリウマゴヤシ	地中海沿岸			箕面市で一時的に発生したのみ。
266	<i>Medicago sativa</i>	ムラサキウマゴヤシ	地中海沿岸~西アジア	緑化用植物・牧草からの逸出		府内では時々見かける。
267	<i>Melilotus indicus</i>	コシナガワハギ	ヨーロッパ			埋立地など裸地に近いところは群生する。
268	<i>Melilotus officinalis</i> subsp. <i>sauevicens</i>	シナガワハギ	ユーラシア			埋立地、市街地等で見られる。
269	<i>Melilotus officinalis</i> subsp. <i>altus</i>	シロバナシナガワハギ	アフリカ、西~中央アジア			大阪湾岸、吹田市、箕面市などで確認されている。
270	<i>Robinia pseudoacacia</i>	ハリエンジュ	アメリカ	緑化用植物・牧草からの逸出	日100、生態系	明らかに逸出と考えられるものは少ないが、河川で見られる。
271	<i>Senna obtusifolia</i>	エビスグサ	熱帯アメリカ	栽培作物・薬草からの逸出		時々逸出するが、一時的。
272	<i>Sesbania exaltata</i>	アメリカカツノクサネム	アメリカ南部~メキシコ原産			稀に逸出が見られる程度。一時的なもの？
273	<i>Trifolium arvense</i>	シャグマハギ	ヨーロッパ、アフリカ、西アジア	園芸植物として導入		
274	<i>Trifolium campestre</i>	クスダマツメクサ	ヨーロッパ、アフリカ、西アジア			大阪北部でよく見られる。
275	<i>Trifolium dubium</i>	コメツブツメクサ	ヨーロッパ~西アジア			全域に多い。
276	<i>Trifolium glomeratum</i>	ダンゴツメクサ	ヨーロッパ、アフリカ、西アジア			大阪市、淀川などで確認されているが少ない。
277	<i>Trifolium hybridum</i>	タチオランダゲンゲ	ヨーロッパ、アフリカ、西アジア	緑化用植物・牧草からの逸出		箕面市で確認されているが、今はほとんど見ない。
278	<i>Trifolium hirtum</i>	ピロードアカツメクサ	ヨーロッパ南部、北アフリカ			極めて稀。
279	<i>Trifolium incarnatum</i>	ベニバナツメクサ	ヨーロッパ、アフリカ、西アジア	緑化用植物・牧草からの逸出		大阪北部などで時々逸出したものが見られる。長期定着は確認できていない。
280	<i>Trifolium pratense</i>	ムラサキツメクサ	ヨーロッパ、アフリカ、西アジア	緑化用植物・牧草からの逸出		府内全域に見られる。
281	<i>Trifolium repens</i>	シロツメクサ	ヨーロッパ、アフリカ、西アジア	緑化用植物・牧草からの逸出		府内全域に普通に見られる。
282	<i>Trifolium vesupinatum</i>	ヒナツメクサ	ヨーロッパ、アフリカ、西アジア			
283	<i>Ulex europaeus</i>	ハリエニシダ	ヨーロッパ			富田林市で確認されているがほとんど見られない。
284	<i>Vicia villosa</i> subsp. <i>villosa</i>	ビロードクサフジ	ヨーロッパ~西アジア	緑化用植物・牧草からの逸出	生態系	府内では、ほとんどがナヨクサフジで本亜種は少ない。
285	<i>Vicia villosa</i> subsp. <i>varia</i>	ナヨクサフジ	ヨーロッパ~西アジア	緑化用植物・牧草からの逸出	生態系	府内ではブドウ園のカパークロップとして導入されて逸出、河川敷、果樹園周りにとくに多い。
286	<i>Vigna umbellata</i>	ツルアズキ	インド~東南アジア	栽培作物・薬草からの逸出		輸入された種子からこぼれたものが時々逸出している。
287 バラ科	<i>Alchemilla arvensis</i>	イワムシロ	ヨーロッパ~中央アジア			能勢町で確認されている。
288	<i>Cerasus speciosa</i>	オオシマザクラ	日本(伊豆七島、伊豆半島、三浦半島、房総半島)	園芸植物として導入		湾岸沿いで植栽からの逸出が確認されている。
289	<i>Potentilla argentea</i>	ウラジロロウゲ	ユーラシア・北アメリカ			堺市で確認されている。
290	<i>Potentilla norvegica</i>	エゾノミツモトソウ	ヨーロッパ~北アメリカ			稀。
291	<i>Potentilla recta</i>	オオヘビイチゴ	南ヨーロッパ			稀。
292	<i>Potentilla supina</i> subsp. <i>paradoxa</i>	オキジムシロ	ヨーロッパ			大阪湾岸沿いのやや湿った所に多い。
293	<i>Pyracantha angustifolia</i>	タチバナモドキ	中国	園芸植物として導入	生態系	海岸近くの埋立地などに多い。
294	<i>Pyracantha coccinea</i>	トキワサンザシ	ヨーロッパ	園芸植物として導入	生態系	公園などで実生がよく見られる。

科	学名	和名	原産地	移入経路	法律・機関等での指定状況 (2021年11月現在)	大阪府での生育状況
295	<i>Rubus armeniacus</i>	セイヨウヤブイチゴ	アルメニア	園芸植物として導入		池田市、大阪市などで確認されている。
296	<i>Rubus laciniatus</i>	キレハクロミイチゴ	南ヨーロッパ	園芸植物として導入		堺市で逸出しているのが確認されている。
297	<i>Spiraea thunbergii</i>	ユキヤナギ	中国	園芸植物として導入		公園での植栽からの逸出がよく確認される。
298	アサ科 <i>Cannabis sativa</i>	アサ	南アジア～中央アジア	栽培作物、薬草からの逸出		空地、河川敷に時々見られる。法的に規制されている。
299	クワ科 <i>Maclura tricuspidata</i>	ハリグワ	中国、朝鮮半島原産	栽培作物、薬草からの逸出		高槻市の標本があるが、現在は見られない。
300	<i>Morus alba</i>	マゴフ	中国	栽培作物、薬草からの逸出		河川敷に多い。
301	イラクサ科 <i>Boehmeria nivea</i> var. <i>nivea</i>	ナンバンカラムシ	アジア大陸原産	栽培作物、薬草からの逸出		河川敷で時々見られるが少ない。
302	<i>Parietaria judaica</i>	カベイラクサ	ヨーロッパ原産			大阪府では藤井寺市の1か所確認されたのみ。
303	<i>Parietaria pensylvanica</i>	オオヘカゲミズ	北アメリカ			都市部を中心に見られる。最近急に分布拡大している。大阪市大正区では非常に多い。
304	<i>Pilea microphylla</i>	コゴメミズ	南アメリカ原産	園芸植物に付随して非意図的に導入?	生態系	大阪府では越冬が難しいのか、一時的な発生に終わることが多い。
305	<i>Urtica urens</i>	ヒメイラクサ	ヨーロッパ			畑地で見られた。大阪市内で1か所確認されたが他では見えない。
306	クルミ科 <i>Pterocarya stenoptera</i>	シナサワグルミ	中国	庭園樹木・街路樹として導入		河川敷、埋立地等で実生が見られる。1960年代服飾緑地天竺川付近での確認が逸出の最初?
307	カバノキ科 <i>Alnus pendula</i>	ヒメヤシャブシ		緑化用植物・牧草からの逸出		山地などに緑化目的で植栽されたものから逸出。
308	<i>Alnus stebolidiana</i>	オオハヤシャブシ		緑化用植物・牧草からの逸出		山地などに緑化目的で植栽されたものから逸出。
309	ウリ科 <i>Sicyos angulatus</i>	アレチウリ	北アメリカ		特定、日100、生態系	河川敷などに広く見られる。
310	シュウカイドウ科 <i>Begonia grandis</i>	シュウカイドウ	中国原産	園芸植物として導入		山麓の林床で見られる。意図的に植栽もされており、注意が必要。
311	<i>Begonia semperflorans</i> group	シキザキベゴニア		園芸植物として導入		
312	カタバミ科 <i>Biophytum sensitivum</i>	オサバカタバミ	東南アジア	園芸植物として導入		交野市で確認されている。
313	<i>Oxalis articulata</i>	イモカタバミ	南アメリカ	園芸植物として導入		
314	<i>Oxalis bowiciana</i>	ハナカタバミ	南アフリカ	園芸植物として導入		
315	<i>Oxalis brasiliensis</i>	ベニカタバミ	南アメリカ	園芸植物として導入		大阪南部で稀に見られる程度
316	<i>Oxalis debilis</i> subsp. <i>corymbosa</i>	ムラサキカタバミ	南アメリカ	園芸植物として導入		府内に広く見られ、普通。
317	<i>Oxalis dillenii</i>	オウタチカタバミ	北アメリカ			府内に広く見られ、普通。
318	<i>Oxalis pes-caprae</i>	オオキバナカタバミ	南アフリカ	園芸植物として導入	生態系	特に最近急激に増加した。
319	<i>Oxalis triangularis</i>	サンカクカタバミ	南アメリカ	園芸植物として導入		栽培地からの逸出がよく見られる。
320	トウダイグサ科 <i>Chamaesyce maculata</i>	コニシキソウ	北アメリカ～中央アメリカ			府内全域に普通
321	<i>Chamaesyce makinoi</i>	コバノニシキソウ	台湾・中国南部・フィリピン			大阪市、吹田市、岸和田市の港湾地域の裸地で見られるが、少ない。
322	<i>Chamaesyce nutans</i>	オオニシキソウ	北アメリカ～中央アメリカ			郊外でよく見られる。
323	<i>Chamaesyce ophthalmica</i>	ニセシマニシキソウ	熱帯アメリカ			岬町で確認されている。
324	<i>Chamaesyce prostrata</i>	ハイニシキソウ	アメリカ～アルゼンチン			大阪市などで見られるが少ない。
325	<i>Chamaesyce</i> sp. aff. <i>prostrata</i>	アレチニシキソウ	不明			コニシキソウほどではないが広く見られる。
326	<i>Euphorbia cyathophora</i>	ショウジョウソウ	アメリカ	園芸植物として導入		時々逸出しているが、長期的には定着しない。
327	<i>Euphorbia dentata</i>	コバノショウジョウソウ	北アメリカ・南アメリカ			最近府内で点々と採集されている。少ない。
328	<i>Euphorbia heterophylla</i>	ショウジョウソウモドキ	熱帯アメリカ	ココビートに混入		稀。
329	<i>Euphorbia hirta</i> var. <i>hirta</i>	シマニシキソウ	熱帯アメリカ	ココビートに混入		堺市で確認されたことがあるが、現在は見られない。
330	<i>Euphorbia lathyris</i>	ホルトソウ	中央アジア、中国南部、ベトナム北部			大阪市内で確認されたことがある。
331	<i>Euphorbia marginata</i>	ハツユキソウ	北アメリカ	園芸植物として導入		箕面市などで確認されているが、少ない。
332	<i>Mercurialis annua</i>	アレチヤマアイ (仮称)	ヨーロッパ・北アメリカ			堺市で雄1株を確認。
333	<i>Ricinus communis</i>	トウゴマ	熱帯アフリカ	栽培作物、薬草からの逸出		最近ではほとんど見かけない。
334	<i>Triadica sebifera</i>	ナンキンハゼ	中国	庭園樹木・街路樹として導入	生態系	府内全域に普通。
335	ミカンソウ科 <i>Phyllanthus tenellus</i>	ナガエコミカンソウ	アフリカ	園芸植物に付随して非意図的に導入		府内全域、道路開削に普通。
336	トケイソウ科 <i>Passiflora caerulea</i>	トケイソウ	ブラジル	園芸植物として導入		大阪市、豊中市、吹田市などで確認されている。
337	ヤナギ科 <i>Populus angulata</i>	カロリナポプラ	北アメリカ	庭園樹木・街路樹として導入		所々逸出しているが、少ない。
338	<i>Salix babylonica</i> var. <i>babylonica</i>	シダレヤナギ	中国	庭園樹木・街路樹として導入		淀川などに逸出。
339	<i>Salix babylonica</i> var. <i>babylonica</i> × <i>S. pierottii</i>	シダレヤナギ × オオタテヤナギ				淀川で見られる。
340	<i>Salix eriocarpa</i>	ジャヤナギ	中国			淀川などの河川敷で見られる。
341	スミレ科 <i>Viola cheerophylloides</i> var. <i>sieboldiana</i>	ヒゴスミレ		園芸植物として導入		市街地の路面開削で見られることがある。
342	<i>Viola inconspicua</i> subsp. <i>Nagasakiensis</i>	ヒメスミレ				市街地の路面開削で見られることがある。
343	<i>Viola odorata</i>	ニオイスミレ	地中海沿岸	園芸植物として導入		公園等で逸出が確認される。
344	<i>Viola palmata</i>	クワガタスミレ	北アメリカ	園芸植物として導入		池田市などで見られた
345	<i>Viola prionantha</i> var. <i>sylvatica</i>	ケイジョウスミレ	朝鮮半島、中国東北部、北部	園芸植物として導入		
346	<i>Viola sororia</i>	アメリカスミレサイシン	北アメリカ	園芸植物として導入		大阪市などで時々確認される。
347	<i>Viola tricolor</i>	サンシキスミレ	ヨーロッパ原産	園芸植物として導入		時々逸出するが、長期的には定着しない。
348	<i>Viola yedoensis</i> var. <i>pseudojaponica</i>	リュウキュウコスミレ				路面開削などに見られる。
349	アマ科 <i>Limn. medium</i>	キバナノマツバニンジン	北アメリカ			池田市、豊中市などで見られたが少ない。
350	<i>Limn. ustulissimum</i>	アマ	中央アジア	鳥の糞からの逸出またはそれに混入		時々逸出が見られた。一時的で定着はしない。
351	オトギリソウ科 <i>Hypericum ascyron</i> var. <i>longistylum</i>	オオトモエソウ				高槻市で確認されたことがある。
352	<i>Hypericum mutilum</i>	トミサトオトギリ	北アメリカ			府内ではほとんど見られない。
353	<i>Hypericum patulum</i>	キンシバイ	中国	園芸植物として導入		逸出は稀。
354	<i>Hypericum perforatum</i>	セイヨウトドリソウ	ヨーロッパ			道路法面等で時々見られる。
355	フウロソウ科 <i>Erodium cicutarium</i>	オランダフウロ	ユーラシア			府内で確認されているが少ない。定着せず一時的なものが多い。
356	<i>Erodium cicutarium</i>	ミツバオランダフウロ	オーストラリア			泉佐野市で1株確認されたのみ。
357	<i>Geranium carolinianum</i>	アメリカフウロ	北アメリカ			府内に広く見られ多い。
358	<i>Geranium dissectum</i>	オトメフウロ	ヨーロッパ			
359	<i>Geranium molle</i>	ヤワゲフウロ	ヨーロッパ			大阪南部で特に果樹園に見られる。

科	学名	和名	原産地	移入経路	法律・機関等 での指定状況 (2021年11月 現在)	大阪府での生育状況
	<i>Geranium purpureum</i>	ヤサカフウロ	ヨーロッパ			
	<i>Geranium pusillum</i>	チゴフウロ	ヨーロッパ			大阪市、池田市で確認されているが、極めて少ない。
	<i>Geranium robertianum</i>	ヒメフウロ		園芸植物として導入		
	<i>Geranium sanguineum</i>	アケボノフウロ	欧州～コーカサス	園芸植物として導入		
ミソハギ科	<i>Ammannia coccinea</i>	ホンバヒメミソハギ	北アメリカ			府内の水田に普通に見られる。
	<i>Lagerstroemia indica</i>	サルズベリ	中国南部	園芸植物として導入		良く補栽され、時々逸出している。
	<i>Heimia myrtifolia</i>	キバナミソハギ	ブラジル	園芸植物として導入		堺市で逸出が確認されたことがある。
	<i>Rotala ramosior</i>	アメリカカキシグサ	北アメリカ南部～熱帯アメリカ			
アカバナ科	<i>Epilobium hirsutum</i>	ウスゲオオアカバナ	ユーラシア			
	<i>Ludwigia decurrens</i>	ヒレタゴボウ	北アメリカ			府内の水田でよく見られる。
	<i>Ludwigia glandulosa</i>	ミソハギダマシ	北アメリカ	観賞用水草として導入		箕面市で確認されたことがある。
	<i>Ludwigia grandiflora</i> subsp. <i>hexapetala</i>	ウスゲオオバナミズキンバイ	南アメリカ	観賞用水草として導入	特定、生態系	大阪府内でも点々と確認されている。
	<i>Oenothera ×fallax</i>	オオメマツヨイグサ				箕面市で確認されたことがあるが少ない。
	<i>Oenothera biennis</i>	メマツヨイグサ	北アメリカ			府内で広く普通に見られる。
	<i>Oenothera drummondii</i>	ハイマツヨイグサ (仮称)	北アメリカ南部、メキシコ			豊中市の路面開削で確認されたことがある。
	<i>Oenothera gaura</i>	エダウチヤマモモソウ	北アメリカ			堺市で確認されている。
	<i>Oenothera glazioviana</i>	オオマツヨイグサ	北アメリカ			最近少なくなった。
	<i>Oenothera indecora</i>	ミナトマツヨイグサ	南アメリカ中東部			吹田市、大阪市などで確認される。
	<i>Oenothera indecora</i> × <i>O. stricta</i>	アラゲマツヨイグサ				豊中市、吹田市、箕面市などで確認される。
	<i>Oenothera jamesii</i>	オニマツヨイグサ	北アメリカ			荒地、港湾地などで見られる。
	<i>Oenothera laciniata</i> agg.	コマツヨイグサ類	北アメリカ東部		生態系	府内で広く普通に見られる。近年急激に増加している。
	<i>Oenothera lindheimeri</i>	ヤマモモソウ	北アメリカ	園芸植物として導入		
	<i>Oenothera macrocarpa</i>	ミズーリマツヨイグサ	アメリカ中央部			舞洲で確認されたことがあるが、現在は見られない。
	<i>Oenothera parviflora</i>	アレチマツヨイグサ	北アメリカ東部			メマツヨイグサはよく見るが、本種は少ない。
	<i>Oenothera rosea</i>	ユウゲショウ	北アメリカ南部～南アメリカ			府内で広く普通に見られる。近年急激に増加している。
	<i>Oenothera speciosa</i> var. <i>childsii</i>	モモイロヒルザキツキミソウ	北アメリカ	園芸植物として導入		時々逸出している。
	<i>Oenothera stricta</i>	マツヨイグサ	南アメリカ			少なくなった。現在でも時々路面開削などに見られる。
ムウロジ科	<i>Acer buergerianum</i>	トウカエデ	中国	庭園樹木・街路樹として導入		河川敷、埋立地などで逸出しているものが時々確認されている。
	<i>Cardiospermum halicacabum</i>	フウセンカズラ	熱帯アメリカ	園芸植物として導入		時々見かけるが一時的な逸出に限られる。
ミカン科	<i>Tetradium raticarpum</i>	ゴシュユ	中国	栽培作物、薬草からの逸出		堺市で確認されたことがある。
ニガキ科	<i>Ailanthus altissima</i>	ニワウルシ	中国	庭園樹木・街路樹として導入	生態系	府内全域に普通。
アオイ科	<i>Abutilon theophrasti</i>	イチビ	インド		日100	埋立地、荒地に見られる。
	<i>Althaea ficifolia</i>	シチゴサンアオイ	シベリア南部	園芸植物として導入		逸出が稀に確認されている。
	<i>Althaea rosea</i>	タチアオイ	小アジア	園芸植物として導入		時々逸出しているものが確認されている。
	<i>Anoda cristata</i>	ニシキアオイ	北アメリカ中南部～南アメリカ北部			池田市で確認されたが、極めて稀。
	<i>Corchorus trilocularis</i>	アフリカツナソ (仮称)	熱帯アフリカ・熱帯アジア			堺市で確認されたが、極めて稀。
	<i>Hibiscus coccineus</i>	モミジアオイ	北アメリカ	園芸植物として導入		現在のところ稀に確認されるのみ。
	<i>Hibiscus mutabilis</i>	フヨウ	中国	園芸植物として導入	生態系	所々で逸出している。
	<i>Hibiscus syriacus</i>	ムクゲ	中国	園芸植物として導入		補栽されているところの周りで逸出が確認されることがある。
	<i>Malva mauritiana</i>	ゼニアオイ	地中海沿岸	園芸植物として導入		時々逸出しているのが確認される。
	<i>Malva neglecta</i>	ゼニバアオイ	ユーラシア			大阪市、池田市などで見られるが、少ない。
	<i>Malva parviflora</i>	ウサギアオイ	ヨーロッパ			府内の畑地周辺などで広く見られる。
	<i>Malva pusilla</i>	ナガエアオイ	ヨーロッパ			府内ではほとんどがウサギアオイ。記録はあるが稀。
	<i>Malva verticillata</i>	フユアオイ	東アジア			大和川沿いでの記録がある。
	<i>Melochia corchorifolia</i>	ノジアオイ	亜熱帯～熱帯	ココビートに混入		大阪市内で稀に見られる。
	<i>Pavonia hastata</i>	ヤノネボンテンカ	南アメリカ	園芸植物として導入		湾岸、河川敷などによく見られる。
	<i>Sida acuta</i>	ホンバキンゴジカ	中央アメリカ			池田市で確認されたことがあるが、稀。
	<i>Sida rhombifolia</i>	キンゴジカ	熱帯アジア			路面開削等に見られる。増加傾向？
	<i>Sida rhombifolia</i> subsp. <i>insularis</i>	ハイキンゴジカ	熱帯アジア			港湾地区で1例確認された。
	<i>Sida spinosa</i>	アメリカキンゴジカ	熱帯アメリカ			稀に見られる。
	<i>Sida subspicata</i>	ホザキンゴジカ	オーストラリア			
	<i>Arivela viscosa</i>	ヒメフウチョウソウ	熱帯アジア			箕面市、堺市、大阪市で確認されているが、極めて少ない。
	<i>Cleome ruitosperma</i>	アフリカフウチョウソウ	アフリカ	ココビートに混入		各地で見られるが、少ない。
	<i>Tarenaya hassleriana</i>	セイヨウフウチョウソウ	熱帯アメリカ	園芸植物として導入		時々逸出するが、長期間定着しない。
アブラナ科	<i>Arabisopsis thaliana</i>	シロイヌナズナ	ユーラシア、北アメリカ			最近、急増している。
	<i>Barbarea intermedia?</i>					堺市、箕面市、枚方市で標本が採集されているが稀。
	<i>Barbarea vulgaris</i>	ハルザキヤマガラシ	ヨーロッパ		日100、生態系	山地で見られるが大坂府内では少ない。
	<i>Brassica hirta</i>	シロガラシ	地中海沿岸	栽培作物、薬草からの逸出		記録はあるが稀。
	<i>Brassica juncea</i>	セイヨウカラシナ	ユーラシア		生態系	河川敷に多い。路傍でも時々見られる。
	<i>Brassica juncea</i> var. <i>juncea</i> × var. <i>integrifolia</i>	ムラサキセイヨウカラシナ (仮称)				西除川で見られたが、現在は少ない。
	<i>Brassica napus</i>	セイヨウアブラナ	ユーラシア	栽培作物、薬草からの逸出		河川敷に見られるが、多くはない。
	<i>Brassica nigra</i>	クロガラシ	ヨーロッパ～西アジア	栽培作物、薬草からの逸出		堺市で確認されているが、極めて稀。
	<i>Brassica rapa</i> var. <i>oleifera</i>	アブラナ	中国	栽培作物、薬草からの逸出		栽培からの逸出だが、極めて稀。
	<i>Brassica tornefortii</i>	ハリゲナタネ	地中海沿岸			埋立地で見られるが、少ない。
	<i>Camelina microcarpa</i>	ヒメアマナズナ	ヨーロッパ			
	<i>Cardamine hirsuta</i>	ミチタネツクバナ	ヨーロッパ?			公園、市街地などに多く見られ、近年急激に増加。山地にも移入。
	<i>Chorispora tenella</i>	ツノミナズナ	西アジア			

科	学名	和名	原産地	移入経路	法律・機関等での指定状況 (2021年11月現在)	大阪府での生育状況	
427	<i>Cochlearia acutis</i>	ヒメムラサキハナナ	ヨーロッパ	園芸植物として導入		堺市などで逸出が知られている。	
428	<i>Conringia orientalis</i>	ナタネハタザオ	ユーラシア			和泉市(備太山)のみ?	
429	<i>Descurainia pinnata</i>	ヒメウジラグサ	北アメリカ			柏原市で確認されているが、稀。	
430	<i>Descurainia sophia</i>	ウジラグサ	ヨーロッパ、北アフリカ、西アジア				
431	<i>Draba verna</i>	ヒメナスナ	地中海沿岸			天王寺公園で見られたが、稀。	
432	<i>Eruca vesicaria</i> subsp. <i>sativa</i>	キバナズズロ	地中海沿岸	園芸植物として導入		箕面市、堺市での逸出が知られている。	
433	<i>Hirschfeldia incana</i>	ダイコンモドキ	地中海沿岸				
434	<i>Lepidium bonariense</i>	キレハメグンバイナズナ	南アメリカ			埋立地を中心に見られる。	
435	<i>Lepidium campestre</i>	ウロコナズナ	ヨーロッパ			池田市(五月山公園)で確認されている。	
436	<i>Lepidium densiflorum</i>	コマメグンバイナズナ	北アメリカ			淀川で最近確認された。	
437	<i>Lepidium didymum</i>	カラクサガラシ	ヨーロッパ?			普通に見られる。	
438	<i>Lepidium draba</i>	アコウグンバイ	ユーラシア			古い記録のみ。	
439	<i>Lepidium latifolium</i>	ペンケイナズナ	ヨーロッパ、西アジア、北アフリカ				
440	<i>Lepidium perfoliatum</i>	コシミノナズナ	ヨーロッパ~西アジア			古い記録のみ。	
441	<i>Lepidium virginicum</i>	マメグンバイナズナ	北アメリカ			府内どこでも多い。	
442	<i>Lobularia maritima</i>	ニワナズナ	地中海沿岸	園芸植物として導入		路面間隙で確認されることがあるが、少ない。	
443	<i>Lunaria annua</i>	ゴウダソウ	ヨーロッパ	園芸植物として導入			
444	<i>Nasturtium ^ssterile</i>	ムラサキオランダガラシ		園芸植物として導入		府内ではこの種類のタイプがほとんど。	
445	<i>Nasturtium microphyllum</i>	コバノオランダガラシ	ヨーロッパ	園芸植物として導入?		大和川で確認された。	
446	<i>Nasturtium officinale</i>	オランダガラシ	ヨーロッパ、中央アジア	園芸植物として導入	生態系	河川敷などで見られる。	
447	<i>Neslia paniculata</i>	タマガラシ	ヨーロッパ				
448	<i>Orychophragmus violaceus</i>	シヨカツサイ	中国	園芸植物として導入		府内で時々見られるが、意図的な導入がほとんど。	
449	<i>Raphanus raphanistrum</i>	セイヨウノダイコン	ヨーロッパ、北アフリカ			大阪港で確認されているが、稀。	
450	<i>Rorippa sylvestris</i>	キレハイヌガラシ	ユーラシア			豊中市で確認されている。	
451	<i>Sisymbrium altissimum</i>	ハタザオガラシ	ヨーロッパ			古い記録がある。	
452	<i>Sisymbrium erysimoides</i>	イヌホソエガラシ	ヨーロッパ			大阪市で確認されているが、稀。	
453	<i>Sisymbrium irio</i>	ホソエガラシ	ヨーロッパ南部			高速道路の高架下によく見られる。	
454	<i>Sisymbrium officinale</i>	カキネガラシ	ヨーロッパ			市街地で稀に見られる程度。	
455	<i>Sisymbrium orientale</i>	イヌカキネガラシ	地中海沿岸			府内では道路沿いでよく見かける。	
456	<i>Thlaspi arvense</i>	グンバイナズナ	ヨーロッパ原産			極めて稀。	
457	タデ科	<i>Fagopyrum dibotrys</i>	シャクチリソバ	ヒマラヤ、中国南西部原産	栽培作物、薬草からの逸出	生態系	河川敷に多い。
458	<i>Fagopyrum esculentum</i>	ソバ	中国	栽培作物、薬草からの逸出		時々見られるが、長期定着はしていない	
459	<i>Fallopia convolvulus</i>	ソバカズラ	ヨーロッパから西アジア原産	島の餌からの逸出またはそれに混入		市街地で見られるが、少ない。	
460	<i>Fallopia multiflora</i>	ツルクダミ	中国	栽培作物、薬草からの逸出	生態系	池田市、堺市等で確認されている。	
461	<i>Muehlenbeckia axillaris</i>	チャボハリガネツソバ	ニュージーランド	園芸植物として導入		意図的な植栽?定着している所は限られるが、河川敷等では広がる可能性がある。	
462	<i>Persicaria capitata</i>	ヒメツルソバ	中国南部~ヒマラヤ原産	園芸植物として導入	生態系	石垣、路面間隙に多い。近年増加している。	
463	<i>Persicaria chinensis</i>	ツルソバ	中国、東南アジア				
464	<i>Persicaria orientalis</i>	オオケタデ	インド、マレーシア、中国南部原産	園芸植物として導入		河川敷で見られるが、少ない。	
465	<i>Persicaria viscosa</i>	ニオイタデ	東アジア~東ヒマラヤ			大阪市に見られ、極めて少ない。	
466	<i>Polygonum aviculare</i> subsp. <i>depressum</i>	ハイミチヤナギ	ユーラシア大陸			極めて少ない。	
467	<i>Rumex ^xchalepensis</i>	ギンギシモドキ				市街地で稀に見られる程度。	
468	<i>Rumex ^xpratensis</i>	ノハラダイオウ				淀川河川敷の一部で確認例がある。	
469	<i>Rumex acetosella</i>	ヒメスイバ	ユーラシア		生態系	都市近郊の造成地で見られるが、少なくなった。	
470	<i>Rumex conglomeratus</i>	アレチギンギシ	ヨーロッパ			府内では普通に見られる。	
471	<i>Rumex crispus</i>	ナガバギンギシ	ユーラシア		生態系	堤防などで近年急増している。雑種形成が問題。要注意。	
472	<i>Rumex crispus ^x R. japonicus</i>	アイノコギンギシ				府内の一部で見られる。	
473	<i>Rumex obtusifolius</i>	エゾノギンギシ	ヨーロッパ		生態系	普通に見られる。河川敷に多い。	
474	モウセンゴケ科	<i>Drosera intermedia</i>	ナガエモウセンゴケ	北アメリカ北部~ヨーロッパ	園芸植物として導入	植栽からの逸出が稀に見られる。	
475	ナデシコ科	<i>Cerastium glomeratum</i>	オランダミミナグサ	ヨーロッパ		府内ではごく普通。	
476	<i>Dianthus armeria</i>	ノハラナデシコ	ヨーロッパ			道路法面などで見られる。	
477	<i>Gypsophila elegans</i> var. <i>carminea</i>	アカバナカスミソウ	コーカサス地方	園芸植物として導入		府内ではほとんど見られない。	
478	<i>Gypsophila muralis</i>	ヌカイトナデシコ	ヨーロッパ	園芸植物として導入		府内ではほとんど見られない。	
479	<i>Petrorhagia dubia</i>	イヌコモチナデシコ	ヨーロッパ西部			普通に見られるところが増加。	
480	<i>Petrorhagia nanteuilii</i>	ミチバタナデシコ	ヨーロッパ			府内では最も多いと考えられる。近年増加している。	
481	<i>Polycarpon tetraphyllum</i>	ヨツバハコベ	ヨーロッパ			路面間隙に見られる。少ない。	
482	<i>Sagina apetala</i>	イトツメクサ	ヨーロッパ、西アジア、北アフリカ			堺市など。生育地は限られる。	
483	<i>Sagina decumbens</i>	キヌイトツメクサ	北アメリカ			堺市、大阪市、箕面市で多い。	
484	<i>Sagina procumbens</i>	アライトツメクサ	ヨーロッパ	園芸植物に付随して非意図的に導入?		豊中市、堺市で植木鉢内、路面間隙に見られる。	
485	<i>Saponaria officinalis</i>	サボンソウ	ヨーロッパ	園芸植物として導入			
486	<i>Scleranthus annuus</i>	シバツメクサ	ヨーロッパ			淀川周辺での記録がある。	
487	<i>Silene armeria</i>	ムシトリナデシコ	ヨーロッパ	園芸植物として導入	生態系	河川敷、市街地で見られるが、少ない。	
488	<i>Silene conica</i>	ヒメシラタマソウ	ヨーロッパ			池田市のみで確認されている。	

科	学名	和名	原産地	移入経路	法律・機関等での指定状況 (2021年11月現在)	大阪府での生育状況
	<i>Serissa japonica</i>	ハクチョウゲ	中国			路面間隙に逸出することがある。
	<i>Sherardia arvensis</i>	ハナヤエムグラ	ヨーロッパ			公園、緑地などで時々見かける。
565 リンドウ科	<i>Centaurea erythraea</i>	ベニバナセンブリ	ヨーロッパ			箕面市で確認されたことがある。稀。
566	<i>Centaurea tenuiflorum</i>	ハナハマセンブリ	地中海沿岸			河川敷、港湾地域に広く見られる。
567 キョウチクトウ科	<i>Asclepias curassavica</i>	トウワタ	熱帯アメリカ	園芸植物として導入		時々逸出している。
568	<i>Catharanthus roseus</i>	ニチニチソウ	マダガスカル	園芸植物として導入		堺市などで時々逸出している。
569	<i>Gomphocarpus fruticosus</i>	フウセントウワタ	南アフリカ	園芸植物として導入		市街地で時々見られる。
560	<i>Nerium oleander</i> var. <i>indicum</i>	キョウチクトウ	インド	園芸植物として導入		時々逸出している。
561	<i>Vinca major</i>	ツルニチニチソウ	ヨーロッパ	園芸植物として導入	生態系	府内の公園、山麓などによく見られる。
562 ムラサキ科	<i>Amsinckia lycopsoides</i>	ワルタビラコ (キバナムラサキ、アラゲムラサキ)	北アメリカ			現在はほとんど見られない。1950年代の標本はある。
563	<i>Asperugo procumbens</i>	トゲムラサキ	ヨーロッパ			
564	<i>Heliotropium curassavicum</i>	アレチムラサキ	北アメリカ			塩沼地に多い。
565	<i>Lithospermum arvense</i>	イヌムラサキ	北半球の温帯			
566	<i>Myosotis arvensis</i>	ノハラムラサキ	ユーラシア			箕面市など。少ない。
567	<i>Myosotis discolor</i>	ハマワスレナグサ	ヨーロッパ~西アジア			堺市で確認されている。稀。
568	<i>Symphytum ×uplandicum</i>	ロシアマラサキ		園芸植物として導入		時々逸出するが、広がらない。
569 ヒルガオ科	<i>Convolvulus arvensis</i>	セイヨウヒルガオ	ヨーロッパ			栗樹園、港湾地域などで確認されるが、少ない。
570	<i>Cuscuta campestris</i>	アメリカネシカズラ	北アメリカ		生態系	大阪府では1960年代から見られるようになった。河川敷等に普通に見られる。
571	<i>Dichondra micrantha</i>	アオイゴケ	日本 (本州西南部、四国、九州、沖縄)、亜熱帯~熱帯	緑化用植物・牧草からの逸出		都市緑地などに見られる。
572	<i>Ipomoea biflora</i>	ネコアサガオ	熱帯アジア			堺市 (大阪府大付農圃場) で確認されたことがある。
573	<i>Ipomoea coccinea</i>	マルバルコウ	熱帯アメリカ			郊外、河川敷に多い。
574	<i>Ipomoea hederacea</i>	アメリカアサガオ	熱帯アメリカ			箕面市に定着しているが、少ない。
575	<i>Ipomoea hederacea</i> var. <i>integriscula</i>	マルバアメリカアサガオ	北アメリカ		生態系	府内に広く見られる。
576	<i>Ipomoea indica</i>	ノアサガオ	日本 (伊豆諸島、和歌山県、四国南部、九州南部、沖縄)、東南アジア~オーストラリア	園芸植物として導入		種子ができない外来系統 (オーシャンブルー) が広がっている。
577	<i>Ipomoea lacunosa</i>	マメアサガオ	北アメリカ			府内の河川敷に多い。
578	<i>Ipomoea nil</i>	アサガオ	熱帯アメリカ	園芸植物として導入		逸出している。白花、淡青色花が多い。
579	<i>Ipomoea pes-tigridi</i>	キウザアサガオ	熱帯アジア			堺市 (大阪府大付農圃場) で確認されたことがある。
580	<i>Ipomoea purpurea</i>	マルバアサガオ	熱帯アメリカ?	園芸植物として導入		箕面市では、園芸品種ミルキーウェイが逃げだしている。
581	<i>Ipomoea quamoclit</i>	ルコウソウ	熱帯アメリカ	園芸植物として導入		箕面市など。逸出するが一時的である。
582	<i>Ipomoea triloba</i>	ホシアサガオ	南アメリカ		生態系	府内河川敷に多い。
583	<i>Merrimia hederacea</i>	ツタノヒルガオ	東南アジア			大阪市、堺市に記録はあるが、越冬できず一時的発生。
584 ナス科	<i>Datura stramonium</i> f. <i>tatura</i>	ヨウシュテウセンアサガオ	熱帯アメリカ		生態系	時々逸出する程度。
585	<i>Datura wrightii</i>	ケテウセンアサガオ	北アメリカ		生態系	時々逸出する程度。
586	<i>Nicotiana glauca</i>	キダチタバコ	ボリビア・アルゼンチン			池田市で確認されている。稀。
587	<i>Nicotiana langsdorffii</i>	ヒメハナタバコ	ブラジル	園芸植物として導入		稀に逸出が確認される。
588	<i>Petunia ×hybrida</i>	ツクバネアサガオ		園芸植物として導入		裸地、河川敷などに時々逸出。
589	<i>Petunia parviflora</i>	ヒメツクバネアサガオ	北アメリカ西南部~南アメリカ			稀。港湾地域で確認された。
590	<i>Physalis acutifolia</i>	フウリンホオズキ	北アメリカ			古い時代に採集されたことがある。
591	<i>Physalis alkekengi</i> var. <i>franchetii</i>	ホオズキ	東アジア	園芸植物として導入		植栽からの逸出が時々認められる程度。
592	<i>Physalis angulata</i> var. <i>angulata</i>	ヒロハフウリンホオズキ	北アメリカ			畑地、港湾地域などによく見られる。
593	<i>Physalis grisea</i>	シヨクヨウホオズキ	北アメリカ	園芸植物として導入		稀。ほとんど見られない。
594	<i>Physalis peruviana</i>	ブドウホオズキ	熱帯アメリカ	園芸植物として導入		稀。ほとんど見られない。
595	<i>Salpiglossa origanifolia</i>	ハコベホオズキ	南アメリカ			
596	<i>Solanum americanum</i>	テリミノイヌホオズキ	北アメリカ			大阪南部に見られる。
597	<i>Solanum carolinense</i>	ワルナスビ	北アメリカ			大阪府内に広く見られる。
598	<i>Solanum glaucophyllum</i>	ルリヤナギ	南アメリカ			
599	<i>Solanum integrifolium</i>	ヒラナス	アフリカ	園芸植物 (ナスの台木) として導入		
600	<i>Solanum lycopersicum</i> var. <i>cerasiforme</i>	マメトマト	南アメリカ	園芸植物として導入		荒地などで時々見られる。
601	<i>Solanum nigrescens</i>	オオイヌホオズキ	南アメリカ			河川敷で時々見られる。
602	<i>Solanum pseudocapsicum</i>	タマサンゴ	南アメリカ	園芸植物として導入		路面間隙などに見られる。
603	<i>Solanum ptychanthum</i>	アメリカイヌホオズキ	北アメリカ			大阪府内に広く見られる。
604	<i>Solanum rostratum</i>	トマトダマシ	北アメリカ西部~メキシコ			稀。港湾地域で確認されたことがある。
605	<i>Solanum sarracoides</i>	ケイヌホオズキ	南アメリカ			堺市 (大阪府大付農圃場) で確認されたことがある。
606	<i>Solanum sisymbriifolium</i>	ハリナスビ	南アメリカ			大阪市内で見られたが少ない。
607	<i>Solanum</i> sp.	カンザシイヌホオズキ	南アメリカ			大阪市内で確認されたことがある。
608 モクセイ科	<i>Ligustrum lucidum</i>	トウネズミモチ	中国	庭園樹木・街路樹として導入	生態系	府内に広く普通に見られる。
609 オオバコ科	<i>Bacopa caroliniana</i>	ミズイロウキアゼナ (飯勃)	北アメリカ南部	観賞用水草として導入		堺市、富田林市で確認されている。
610	<i>Bacopa rotundifolia</i>	ウキアゼナ	北アメリカ			箕面市、豊中市の水田で確認されている。
611	<i>Callitriche terrestris</i>	アメリカアワゴケ	北アメリカ			豊中市などで確認されている。

科	学名	和名	原産地	移入経路	法律・機関等 での指定状況 (2021年11月 現在)	大阪府での生育状況
612	<i>Chaenorhinum minus</i>	ヒナウンラン	ヨーロッパ			埋立地、河川敷で稀に見られる。2019年に確認された。
613	<i>Cymbalaria muralis</i>	ツタバウンラン	ヨーロッパ	園芸植物として導入		石垣などに逸出している。
614	<i>Linaria bipartita</i>	ヒメキンギョソウ	南ヨーロッパ・北アフリカ	園芸植物として導入		花壇からの逸出。長期間の定着は確認されていない。
615	<i>Linaria vulgaris</i>	ホソバウンラン	ユーラシア			大阪市の港湾地でよく見られる。
616	<i>Misopates orontium</i>	アレチキンギョソウ	ヨーロッパ			
617	<i>Nuttallanthus canadensis</i>	マツバウンラン	北アメリカ			府内全域の乾燥地、裸地に多い。
618	<i>Nuttallanthus texanus</i>	オオマツバウンラン	北アメリカ			全種に比べ少ない。
619	<i>Plantago coronopus</i>	セリバオオバコ	ヨーロッパ			関西空港内で確認されている。
620	<i>Plantago heterophylla</i>	ニチオンオオバコ	北アメリカ			1987年頃に大阪に侵入?堺市、淀川河川敷で確認されている。
621	<i>Plantago lanceolata</i>	ヘラオオバコ (オオヘラオオバコ色)	ヨーロッパ			河川敷、路面間隙、埋立地などに普通に見られる。
622	<i>Plantago major</i>	セイヨウオオバコ	ヨーロッパ			時々見られるが少ない。
623	<i>Plantago virginica</i>	ツボミオオバコ	北アメリカ			府内に広く見られる。
624	<i>Russelia equisetiformis</i>	ハナチョウジ	メキシコ	園芸植物として導入		堺市で確認されている。
625	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>	オオカワヂヤ	ユーラシア		特定、生態系	1960年代ごろから侵入していると思われる。河川敷や湿った環境に多い。
626	<i>Veronica arvensis</i>	タチイヌノフグリ	ユーラシア			府内全域に普通に見られる。堺市、箕面市にはピンク花系統がある。
627	<i>Veronica cymbalaria</i>	コゴメイヌノフグリ	ヨーロッパ南部			
628	<i>Veronica hederifolia</i>	フラサハソウ	ユーラシア			府内に広く見られる。関西では花の色が薄い。関東では濃い青色の花が多い。吹田市阪大構内(本部前)には青花がある。
629	<i>Veronica persica</i>	オオイヌノフグリ	ユーラシア			府内全域に見られ、各地に普通。
630	<i>Veronica x myriantha</i>	ホナガカワヂヤ				結果はしない。淀川周辺や池田市、箕面市で確認されている。
631	ゴマノハグサ科 <i>Buddleja davidii</i>	フサフジツツギ	中国西部	園芸植物として導入	生態系	埋立地などに多い。
632	<i>Verbascum blattaria</i>	モウズイカ	ヨーロッパ			
633	<i>Verbascum blattaria</i> f. <i>erubescens</i>	シロバナモウズイカ	ヨーロッパ			
634	<i>Verbascum thapsus</i>	ビロードモウズイカ	ヨーロッパ			裸地的な環境によく見られる。
635	<i>Verbascum virgatum</i>	アレチモウズイカ	ヨーロッパ			港湾地で確認されたことがある。
636	アゼナ科 <i>Lindernia anagallidea</i>	ヒメアメリカアゼナ	北アメリカ			堺市などの水田に見られる。
637	<i>Lindernia dubia</i>	アメリカアゼナ (タケトアゼナ舎)	北アメリカ			府内の水田に普通に見られる。
638	シソ科 <i>Ajuga reptans</i>	セイヨウジュウニヒトエ	ヨーロッパ北部	園芸植物として導入		時々逸出する。
639	<i>Clerodendrum bungei</i>	ボタンクサギ	中国南部	園芸植物として導入		
640	<i>Lamium dissectum</i>	モミジバヒメオドリコソウ	ヨーロッパ			能勢町などに見られるが、少ない。
641	<i>Lamium purpureum</i>	ヒメオドリコソウ	ヨーロッパ			府内全域に見られる。
642	<i>Marrubium vulgare</i>	ニガハッカ	ヨーロッパ			大阪市の記録がある。
643	<i>Melissa officinalis</i>	コウスイハッカ	ヨーロッパ・北アフリカ・西アジア	園芸植物として導入		路面間隙で時々見られる。
644	<i>Mentha pulegium</i>	メグサハッカ	ヨーロッパ	園芸植物として導入		
645	<i>Mentha spicata</i> var. <i>crispa</i>	オランダハッカ	ヨーロッパ			池田市、豊中市での確認例がある。
646	<i>Mentha suaveolens</i>	マルバハッカ	ヨーロッパ	園芸植物として導入		時々逸出する。
647	<i>Mentha x gentilis</i>	アメリカハッカ				池田市で確認されたことがある。
648	<i>Mentha x piperita</i>	コショウハッカ	ヨーロッパ	園芸植物として導入		
649	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>crispa</i> f. <i>viridis</i>	シソ	中国〜ヒマラヤ	園芸植物として導入		畑地周りで時々逸出する。
650	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>frutescens</i>	エゴマ	東南アジア	園芸植物として導入		畑地周りで時々逸出する。
651	<i>Rosmarinus officinalis</i>	マンネンロー	地中海沿岸	園芸植物として導入		路面間隙で実生が見られる場所があるが、稀。
652	<i>Salvia coccinea</i>	ペニバナサルビア	熱帯アメリカ	園芸植物として導入		よく逸出する。
653	<i>Salvia verbenaca</i>	ミナトタムラソウ	ヨーロッパ			大阪市の港湾地でピンク色花が確認された。
654	<i>Stachys arvensis</i>	ヤブチョロギ	ヨーロッパ			大阪南部でよく見られる。
655	キリ科 <i>Paulownia tomentosa</i>	キリ	中国			路傍で実生・幼木が見られる。府内に広く見られる。
656	ハマウツボ科 <i>Bellardia trixago</i>	ヒサウチソウ	地中海沿岸			淀川河川敷などで確認されているが少ない。
657	<i>Parentucellia viscosa</i>	セイヨウヒキヨモギ	地中海沿岸			最近増加傾向にある。河川敷、公園、埋立地などに見られる。
658	ゴマノハグサ科 <i>Agalinis heterophylla</i>	アメリカウンランモドキ	北アメリカ南部			大阪市の埋立地のやや湿った場所に群生。
659	<i>Chaenostoma cordatum</i>	シラユキハコベ (仮称)	南アフリカ	園芸植物として導入		堺市で確認されたことがある。
660	タヌキモ科 <i>Utricularia cf. platensis</i>	エフクレタヌキモ	北アフリカ	園芸植物として導入	特定、生態系	大阪南部の溜池に見られる。
661	キツネノマゴ科 <i>Pseuderanthemum variable</i>	ゴシュウハグロソウ (仮称)	オーストラリア北部・オーストラリア東部	熱帯植物に付随して移入		温室植物とともに持ち込まれ、その周辺で時々逸出が確認されている。
662	<i>Ruellia simplex</i>	ヤナギバルイラソウ	メキシコ	園芸植物として導入	生態系	市街地で広く見られる。路面間隙に多い。
663	ノウゼンカズラ科 <i>Bigonia capreolata</i>	ツリガネカズラ	北アメリカ南部	園芸植物として導入		植栽地から一部逸出が見られる。
664	<i>Campsis x tagliabuana</i>	アイノコノウゼンカズラ		園芸植物として導入		
665	<i>Campsis grandiflora</i>	ノウゼンカズラ	中国	園芸植物として導入		植栽地から一部逸出が見られる。
666	<i>Campsis radicans</i>	アメリカノウゼンカズラ	北アメリカ	園芸植物として導入		植栽地から一部逸出が見られる。箕面市で確認されているが、逸出は少ない。
667	<i>Catalpa ovata</i>	キササゲ	中国	薬用植物として導入		山地で稀に逸出。
668	<i>Radermachera sinica</i>	センダンキササゲ	インド	園芸植物として導入		淀川河川敷で確認されている。
669	クマツヅラ科 <i>Glandularia tenera</i>	ヒメビジョウソウ	南アメリカ	園芸植物として導入		時々逸出するが交配種も多い。長期定着しない。
670	<i>Lantana camara</i>	シテヘンゲ	北アメリカ南部〜熱帯アメリカ	園芸植物として導入	世100、生態系	逸出しているのは園芸品種 'confetti' の実生がほとんど。
671	<i>Phyla canescens</i>	ヒメイワダレソウ	ベルー	緑化用植物・牧草からの逸出		大阪市内などに植栽からの逸出。
672	<i>Phyla canescens</i> x <i>modiflora</i>	アイノコイワダレソウ		緑化用植物・牧草からの逸出		箕面市で交配種からの逸出が見られた。
673	<i>Verbena bonariensis</i>	ヤナギバナガサ	南アメリカ	園芸植物として導入	生態系	逸出するが、少ない。
674	<i>Verbena brasiliensis</i>	アレチバナガサ	南アメリカ	園芸植物として導入	生態系	港湾地域などによく見られる。

科	学名	和名	原産地	移入経路	法律・機関等での指定状況 (2021年11月現在)	大阪府での生育状況
	<i>Verbena litoralis</i>	ヒメクマツヅラ	南アメリカ		生態系	大阪南部に多い。
	<i>Verbena officinalis</i>	クマツヅラ	ユーラシア	園芸植物として導入		ハーブとして栽培され、逸出して路面間隙に見られるが、少ない。
	<i>Verbena x incompta</i>	ダキバアレチハナガサ	南アメリカ		生態系	河川敷などによく見られる。
キキョウ科	<i>Isotoma axillaris</i>	ムラサキホシアザミ (仮称)	オーストラリア	園芸植物として導入		池田市、箕面市、大阪市、堺市で逸出が見られるが、少ない。
	<i>Lobelia inflata</i>	ロベリアソウ	北アメリカ			古い記録があるが、最近確認されていない。
	<i>Triodanis biflora</i>	ヒナキキョウソウ	北アメリカ			府内で普通に見られる。北摂は阪神大震災以降急速に広まった。
	<i>Triodanis perfoliata</i>	キキョウソウ	北アメリカ			府内全域に見られる。
キク科	<i>Achillea millefolium</i>	セイヨウノコギリソウ	ヨーロッパ～ヒマラヤ			最近少ない。緑化用牧草とともに侵入した時期がある。
	<i>Ambrosia artemisiifolia</i>	ブタクサ	北アメリカ			帰化昆虫ブタクサハムシの被害により近年急速に減少した。
	<i>Ambrosia trifida</i>	オオブタクサ	北アメリカ		日100、生態系	河川敷に普通に見られる。
	<i>Anthemis arvensis</i>	キゾメカミツレ	地中海沿岸～西アジア			堺市で確認されている。一時的。
	<i>Anthemis cotula</i>	カミツレモドキ	ヨーロッパ～西アジア			各地で確認されるが、多くはない。
	<i>Arctium lappa</i>	ノゴボウ	ユーラシア	園芸植物として導入		堺市で確認されている。白花。
	<i>Arctotheca prostrata</i>	ワタゲツルハナグルマ	南アフリカ	園芸植物として導入	生態系	播磨からの逸出が稀に見られる。
	<i>Artemisia rubripes</i>	ヤブヨモギ	ユーラシア			緑化用輸入ヨモギ種子に混入して生育。深北緑地(大東市～寝屋川市)で確認されている。
	<i>Artemisia annua</i>	クソニンジン	ヨーロッパ南東部			大阪市内の空地でよく見られる。
	<i>Artemisia carvifolia</i>	カワラニンジン	中国			淀川河川敷で確認されているが少ない。
	<i>Artemisia gmelinii</i>	イワヨモギ	ユーラシア			緑化用輸入ヨモギ種子に混入して生育。豊中市、深北緑地(大東市～寝屋川市)で確認されている。
	<i>Artemisia japonica f. lucinifolia</i>	キレハオトコヨモギ				緑化用輸入ヨモギ種子に混入して生育。高槻市で確認されている。
	<i>Artemisia lancea</i>	ヒメヨモギ				緑化用輸入ヨモギ種子に混入して生育。深北緑地(大東市～寝屋川市)で確認されている。
	<i>Artemisia princeps</i>	オオニシヨモギ	中国			緑化用輸入ヨモギ種子に混入して生育。深北緑地(大東市～寝屋川市)で確認されている。
	<i>Artemisia roxburghiana</i>	キレハヨモギ	中国			緑化用輸入ヨモギ種子に混入して生育。深北緑地(大東市～寝屋川市)で確認されている。
	<i>Artemisia sieversiana</i>	ハイロヨモギ	ユーラシア			緑化用輸入ヨモギ種子に混入して生育。深北緑地で確認されている。
	<i>Artemisia stechmanniana</i>	ウラジロヒメイワヨモギ	中国			緑化用輸入ヨモギ種子に混入して生育。深北緑地(大東市～寝屋川市)で確認されている。
	<i>Bidens aurea</i>	キンバイタウコギ	中央アメリカ			港湾地で稀に見られる。
	<i>Bidens bipinnata</i>	コバノセンダングサ	不明			最近増加傾向?箕面市、摂津市、大阪府北部で確認されている。
	<i>Bidens frondosa</i>	アメリカセンダングサ	北アメリカ		生態系	かつてはどこでも広く見られたが、現在は水田等湿った場所に生育が限られる。
	<i>Bidens pilosa var. minor</i>	コシロノセンダングサ	熱帯～暖帯			府内では多くないが、時々見かける。
	<i>Bidens pilosa var. pilosa</i>	コセンダングサ	熱帯アメリカ			府内全域に見られる。
	<i>Bidens pilosa var. radiata</i>	タチアワユキセンダングサ	不明		日100、生態系	淀川河川敷などで見られる。
	<i>Bidens subalternans</i>	オワリセンダングサ	南アメリカ			淀川河川敷などで確認されているが、稀。
	<i>Blainvillea acmella</i>	ザラツキコメギク (仮称)	東南アジア、オーストラリア北部(熱帯)			吹田市、大阪府で確認されているが、稀。
	<i>Boltonia asteroides</i>	アメリカガク	北アメリカ			
	<i>Calendula arvensis</i>	ヒメキンセンカ	地中海沿岸	園芸植物として導入		時々逸出している。吹田市、堺市など。
	<i>Carduus crispus</i>	ヒレアザミ	ユーラシア			府内では少なくなつた。最近確認されていない。
	<i>Carduus pycnocephalus</i>	ヒメヒレアザミ	ヨーロッパ			堺市、高槻市、和泉市で確認されている。
	<i>Carthamus lanatus</i>	アレチベニバナ	地中海沿岸			高石市、大阪市平野区で確認されているが、稀。
	<i>Carthamus tinctorius</i>	ベニバナ	地中海沿岸	栽培作物、薬草からの逸出		古い記録のみ。
	<i>Centaurea cyamus</i>	ヤグルマギク	ヨーロッパ	園芸植物として導入		各地で確認されるが多くはない。花壇からの逸出。
	<i>Centaurea melitensis</i>	ヒレハリギク	ヨーロッパ南部			古い記録のみ。
	<i>Centaurea solstitialis</i>	イガヤグルマギク	ヨーロッパ南部			古い記録のみ。
	<i>Chrysanthemum seticospe f. boreale</i>	ククタニギク				緑化用輸入ヨモギ種子に混入して生育。高槻市に記録がある。
	<i>Cirsium vulgare</i>	アメリカオニアザミ	ヨーロッパ		生態系	府内で広く見られる。
	<i>Conyza bonariensis</i>	アレチノギク	南アメリカ			府内で広く見られる。1970年代に減少したが最近増加している。
	<i>Conyza canadensis</i>	ヒメムカシヨモギ	北アメリカ			府内全域に見られる。普通。
	<i>Conyza parva</i>	ケナシヒメムカシヨモギ	北アメリカ		生態系	
	<i>Conyza sumatrensis</i>	オオアレチノギク	南アメリカ		日100	府内で広く見られる。アワダチソウグンバイにより減少したが、最近再び増加。
	<i>Coreopsis lanceolata</i>	オオキンケイギク	北アメリカ	園芸植物として導入	特定、日100、生態系	府内で広く見られる。あまり広がっていない。
	<i>Coreopsis tinctoria</i>	ハルシャギク	北アメリカ西部	園芸植物として導入	生態系	河川敷に見られる。
	<i>Cosmos bipinnatus</i>	コスモス	メキシコ	園芸植物として導入		ほとんど逸出しないが、稀に逸出・定着しているものが確認される。
	<i>Cosmos sulphureus</i>	キバナコスモス	メキシコ	園芸植物として導入		花壇等からの逸出。
	<i>Cotula australis</i>	マメカミツレ	オーストラリア			府内全域に見られる。
	<i>Crassocephalum crepidioides</i>	ベニバナボロギク	熱帯アフリカ			山地に見られる。シカに好まれないため山地では増加している。
	<i>Crepis setosa</i>	アレチニガナ	南・中央ヨーロッパ			
	<i>Crepis tectorum</i>	ヤネタビラコ	ヨーロッパ			1970年代に緑化用牧草種子に混じってきたが、現在は見られない。
	<i>Eclipta alba</i>	アメリカカタカサブロウ	熱帯アメリカ			府内各地に普通に見られる。
	<i>Eleutheranthera ruderalis</i>	オオハキダメギク	熱帯アメリカ	ココビートに混入		大阪市内で確認されている。
	<i>Erechtites hieracifolius</i>	ダンドボロギク	北アメリカ			山地に見られる。シカが食べず山地では増加している。

科	学名	和名	原産地	移入経路	法律・機関等での指定状況 (2021年11月現在)	大阪府での生育状況
	<i>Erigeron annuus</i>	ヒメジョオン	北アメリカ		日100、生態系	府内全域に普通に見られる。様々なタイプがある。
	<i>Erigeron karvinkianus</i>	ペラペラヨメナ	中央アメリカ	園芸植物として導入	生態系	石垣などに逸出。府内各地で見られる。
	<i>Erigeron philadelphicus</i>	ハルジオン	北アメリカ	園芸植物として導入	日100	府内各地に見られる。
	<i>Erigeron pseudoannuus</i>	ヤナギバヒメジョオン				府内各地に見られる。
	<i>Erigeron strigosus</i>	ヘラバヒメジョオン	北アメリカ			吹田市で確認されているが少ない。似たタイプの雑種が多いと考えられる。
	<i>Facelis retusa</i>	キヌゲチコグサ	南アメリカ			堺市、大阪市などに多い。
	<i>Flaveria campestris</i>	カツマタギク	北アメリカ			
	<i>Galinsoya parviflora</i>	コゴメギク	熱帯アメリカ			高槻市などで確認されているが、少ない。
	<i>Galinsoya quadriradiata</i>	ハキダメギク	熱帯アメリカ			府内全域に見られる。
	<i>Gamochaeta argyrinea</i>	ホソバウラジロチコグサ (仮称)	北アメリカ			和泉市(楕太山)、大阪市(夢洲)、堺市で確認されているが稀。
	<i>Gamochaeta calviceps</i>	タチチコグサ	北アメリカ			府内に広く見られるが少ない。
	<i>Gamochaeta chionesthes</i>	キタウラジロチコグサ	北アメリカ			ミナミウラジロチコグサと混同されている可能性があり、標本調査等の必要がある。
	<i>Gamochaeta coarctata</i>	ミナミウラジロチコグサ	南アメリカ			府内で広く見られる。1980年代に急速に広がった。
	<i>Gamochaeta pensylvanica</i>	チチコグサモドキ	北アメリカ			府内全域に普通に見られる。
	<i>Gamochaeta purpurea</i>	ウスベニチコグサ	北アメリカ			吹田市など郊外の草地で見られる。
	<i>Gnaphalium</i> aff. sp. <i>Affine</i>	アイセイタカハハコグサ	不明			セイタカハハコグサが侵入する前から府下で確認されている。市街地に多い。
	<i>Gnaphalium luteoalbum</i>	セイタカハハコグサ	ヨーロッパ原産			府内全域に普通。急速に増加している。
	<i>Guzotia abyssinica</i>	キバナタカサブロウ	熱帯アフリカ	鳥の餌からの逸出またはそれに混入		稀に見られる。
	<i>Gymnocoronis spilanthoides</i>	ミズヒマワリ	中央～南アメリカ		特定、生態系	淀川水系で確認されている。多くはない。
	<i>Helianthemum tenuifolium</i>	マツバハルシャギク		園芸植物として導入		栽培場所からの逸出が稀に見られる。
	<i>Helianthus tuberosus</i>	クワイモ	北アメリカ	栽培作物、家畜からの逸出		時々逸出している。イヌクワイモのタイプが多い。
	<i>Hypochaeris glabra</i>	ヒメブタナ	地中海沿岸			大阪府南部に普通に見られる。北部では少ない。
	<i>Hypochaeris radicata</i>	ブタナ	ヨーロッパ			府内全域に見られるが、郊外に多い。
	<i>Lactuca indica</i> var. <i>dracoglossa</i>	リュウゼツサイ	台湾	園芸植物として導入		少ない。
	<i>Lactuca serriola</i>	トゲチヤ	ヨーロッパ			路面間隙などでよく見られる。
	<i>Leucanthemum vulgare</i>	フランスギク	ヨーロッパ	園芸植物として導入	生態系	府内各地に見られるが少ない。
	<i>Leucoglossum paludosum</i>	ノースポールギク	ポルトガル・スペイン	園芸植物として導入		栽培場所からの逸出で各地で見られる。
	<i>Matricaria chamomilla</i>	カミツレ	ヨーロッパ～西アジア	園芸植物として導入		各地で逸出したものが確認されている。
	<i>Matricaria matricarioides</i>	コンカギク	アジア東北部	園芸植物として導入		柏原市で確認されたことがある。
	<i>Melampodium paludosum</i>	ホシハマグルマ (仮称)	熱帯アメリカ	園芸植物として導入		栽培場所から時々逸出。
	<i>Rudbeckia hirta</i>	アラゲハンゴンソウ	北アメリカ			1970年代に確認されているが、現在ではほとんど見られない。
	<i>Rudbeckia laciniata</i> 'Hortensis'	ハナガサギク	北アメリカ	園芸植物として導入		池田市で確認されたことがあるが、現在は見られない。
	<i>Schuhria pinnata</i> var. <i>abrotanoides</i>	イトバギク	メキシコ			港湾地で稀に見られる。
	<i>Senecio madagascariensis</i>	ナルトサワギク	マダガスカル		特定、生態系	府内で普通に見られる。大阪府南部、海岸付近の裸地、道路法面などに多く多い。
	<i>Senecio vulgaris</i>	ノボロギク	ヨーロッパ			府内全域に見られる。1970年代に減少したことがあるが、最近では増加している。
	<i>Silybum marianum</i>	オオアザミ	地中海沿岸	園芸植物として導入		池田市で確認されたことがあるが、稀。
	<i>Solidago altissima</i>	セイタカアワダチソウ	北アメリカ		日100、生態系	府内全域に多い。
	<i>Solidago gigantea</i>	オオアワダチソウ	北アメリカ		日100、生態系	少ない。箕面市で確認されたことがあるが現在は少ない。
	<i>Salvia anthemifolia</i>	イガトキンソウ	南アメリカ			和泉市で確認されたことがある。
	<i>Salvia sesalilis</i>	メリケントキンソウ	南アメリカ			府内の公園、河川敷等にも多い。最近急増。
	<i>Salvia stolonifera</i>	コケトキンソウ	南アメリカ			堺市に多い。
	<i>Sanchus asper</i>	オニノゲシ	ヨーロッパ			府内で普通に見られるが、ノゲシとの区別が困難な株も少なくない。
	<i>Sanchus wightianus</i>	タイワンハチジョウナ	ヨーロッパ			港湾地に多かったが、最近分布が広がっている。
	<i>Spilanthes brachyglossa</i>	ヤリセンニチモドキ	熱帯アメリカ			府内ではほとんど見られない。
	<i>Symphotrichum pilosum</i>	キダチコンギク	北アメリカ			箕面市などで確認されているが、帰化昆虫アワダチソウグンバイの被害を受け、箕面市では見られなくなった。
	<i>Symphotrichum subulatum</i> var. <i>squamatum</i>	ヒロハホウキギク	北アメリカ			府内全域に見られる。
	<i>Symphotrichum subulatum</i> var. <i>subulatum</i>	ホウキギク	北アメリカ			港湾地に多い。豊中市では稀に路面間隙で見られる。
	<i>Tagetes minuta</i>	シオザキソウ	熱帯アメリカ			港湾部で確認されたことがあるが、現在は見られない。
	<i>Taraxacum laevigatum</i>	アカミタンポポ	ヨーロッパ		日100、生態系	都市部を中心に生育。
	<i>Taraxacum officinale</i>	セイヨウタンポポ	ヨーロッパ		日100、生態系	府内に広く生育。
	<i>Thymophylla tenuiloba</i>	カラクサシユンギク	北アメリカ南部～メキシコ	園芸植物として導入		栽培場所からの逸出が稀に見られる。
	<i>Tragopogon dubius</i>	フトエバラモンギク	ヨーロッパ			稀に見られる。
	<i>Tragopogon porrifolius</i>	バラモンジン	ヨーロッパ	園芸植物として導入		栽培場所からの逸出が稀に見られる。
	<i>Triplarispermum maritimum</i>	イヌカミツレ	ヨーロッパ			堺市で一時的に確認されたことがあるのみ。
	<i>Xanthium occidentale</i>	オオオナモミ	メキシコ		日100、生態系	府内で普通に見られる。河川敷、海岸によく見られる。
	<i>Xanthium spinosum</i>	トゲオナモミ	ヨーロッパ			大阪市、堺市など。古い記録のみ。
	<i>Xanthium strumarium</i> subsp. <i>italicum</i>	イガオナモミ	ヨーロッパ			河川敷、港湾部で見られるが多くはない。
790 スイカズラ科	<i>Dipsacus fullonum</i>	オニナベナ	地中海沿岸	園芸植物として導入		
	<i>Valerianella locusta</i>	ノヂンヤ	ヨーロッパ			河川敷に普通に見られる。
792 ウコギ科	<i>Hedera algeriensis</i>	カナリーキツタ	アルジェリア、チュニジア北部	園芸植物として導入		植栽かどうか不明な場合が多い。
	<i>Hedera helix</i>	セイヨウキツタ	地中海沿岸～西アジア	園芸植物として導入		植栽かどうか不明な場合が多い。
	<i>Hydrocotyle verticillata</i> var. <i>tridactyla</i>	ウチワゼニクサ	北アメリカ南部	観賞用水草として導入		豊能町で確認されたことがある。
	<i>Tetrapanax papyrifer</i>	カミヤツデ	中国原産	園芸植物として導入	生態系	茨木市などに逸出。
796 セリ科	<i>Ammi majus</i>	ドクゼリモドキ	南ヨーロッパ			堺市で確認されたことがある。

科	学名	和名	原産地	移入経路	法律・機関等 での指定状況 (2021年11月 現在)	大阪府での生育状況
797	<i>Anthriscus scandiaca</i>	ノハラジャク	ヨーロッパ原産			大阪埠頭、堺市などで確認されたことがある。
798	<i>Bowlesia incana</i>	ホシケチドメグサ	南アメリカ～北アメリカ南西部			大阪市に記録がある。
799	<i>Coriandrum sativum</i>	コエンドロ	地中海沿岸原産	園芸植物として導入		逸出が時々確認される。
800	<i>Cyclospermum leptophyllum</i>	マツバゼリ	熱帯アメリカ			府内全域に普通に見られる。
801	<i>Daucus carota</i> subsp. <i>carota</i>	ノラニンジン	ヨーロッパ			湾岸地域などで多く見られる場所がある。
802	<i>Foeniculum vulgare</i>	ウイキョウ	地中海沿岸～西アジア	園芸植物として導入		時々逸出しているのが確認される。
803	<i>Orelaya grandiflora</i>	ハナカザリゼリ	ヨーロッパ	園芸植物として導入		枚方市で確認されている。

Osaka Museum of Natural History, Nagai Park 1-23, Higashi-Sumiyoshi, Osaka, 546-0034 JAPAN

大阪市立自然史博物館・大阪市東住吉区長居公園 1 番 23 号 (〒546-0034)

印刷所:タカダ印刷株式会社

正誤表

自然史研究 Vol. 4 (5)「大阪府外来生物目録」に以下の誤りがありました。謹んでお詫び申し上げます。

●表6 大阪府産外来昆虫類のチョウ目について以下の表に訂正します。

目	科	和名	学名	原産地	移入経路	法律・機関等での指定状況	推定される影響	大阪府での初記録年	大阪府での生息状況	備考	
160	チョウ目	アゲハチョウ科	ホソオチョウ	<i>Sericinus montela</i>	中国大陸	人為的放虫	要注意	在来種との競合？	1994年	府内各地の河川敷で記録あり	大阪昆虫同好会(2005)
161		タテハチョウ科	アカボシゴマダラ	<i>Hestina assimilis</i>	中国大陸	人為的放虫	特定、要注意	在来種との競合？	2007年	吹田市、八尾市、東大阪市で記録あり	長田(2021)
162		ヒロズコガ科	イガ	<i>Tinea translucens</i>	台湾	不明		屋内害虫	1930年代		戸沢(1932)
163			コイガ	<i>Tinea bissellinella</i>	ヨーロッパ？	不明		屋内害虫	1930年代		戸沢(1932)
164			コクガ	<i>Nemapogon granella</i>	ヨーロッパ？	不明		屋内害虫	1930年代		戸沢(1932)
165			ジュウタンガ	<i>Trichophaga tapetzella</i>	ヨーロッパ？	不明		屋内害虫	1930年代	現在は見られない	戸沢(1932)
166		マルハキバガ科	コクマルハキバガ	<i>Martyringa xeraula</i>	中国大陸	不明		屋内害虫	1982年		山崎(1986)
167		キバガ科	バクガ	<i>Sitotroga cerealella</i>	ヨーロッパ？	不明		屋内害虫	1930年代		戸沢(1932)
168		マダラガ科	タケノホソクロバ	<i>Fuscartona martini</i>	中国大陸	不明		衛生害虫、園芸害虫	1930年代		戸沢(1932)
169		イラガ科	ヒロヘリアオイラガ	<i>Parasa lepida</i>	中国大陸	樹木の移入？	日100	街路樹の食害、刺傷被害	1980年頃	都市部全域	山崎(2001)
170		メイガ科	ツツリガ	<i>Paralipsa gularis</i>	中国大陸	不明		屋内害虫	1930年代		戸沢(1932)
171			コメシマメイガ	<i>Aglossa dimidiata</i>	中国大陸？	不明		屋内害虫	1930年代		戸沢(1932)
172			カシノシマメイガ	<i>Pyralis farinalis</i>	ヨーロッパ？	不明		屋内害虫	1930年代		戸沢(1932)
173			ノシメマダラメイガ	<i>Plodia interpunctella</i>	ヨーロッパ？	不明		屋内害虫	1984年		山崎(1986)
174			スジマダラメイガ	<i>Cadra cautella</i>	ヨーロッパ？	不明		屋内害虫	1985年		山崎(1986)
175			スジコナマダラメイガ	<i>Ephesia kuehniella</i>	ヨーロッパ？	不明		屋内害虫	1930年代		戸沢(1932)
176		ツトガ科	アメリカカビクノメイガ	<i>Pyrausta inornatalis</i>	アメリカ	不明		園芸害虫	2020年	大阪市や堺市で発生	長田ほか(2021)
177			シバツトガ	<i>Parapediasia teterella</i>	アメリカ	芝の移入？		芝の食害	1990年代	都市部全域	山本(1996)
178		カレハガ科	ムラクモカレハ	<i>Lebeda nobilis</i>	東~東南アジア	不明		林業害虫、衛生害虫	2003年	和泉市、堺市	岩崎・黒子(2006)
179		ヒトリガ科	アメリカシロヒトリ	<i>Hyphantria cunea</i>	アメリカ	貨物に紛れて？	日100	広葉樹の食害	1981年		山崎(1986)
180		ヤガ科	ニセタマナヤガ	<i>Peridroma saucia</i>	不明	不明		農業害虫	1988年		山本(1996)
181			ガンマキンウワバ	<i>Autographa gamma</i>	ヨーロッパ？	不明		農業害虫	1987年		越野・宇根崎(1992)
182			ツマジロクサヨトウ	<i>Spodoptera frugiperda</i>	中南米	不明		農業害虫	2019年	2019年に府内で被害	大阪府環境農林水産部(2019)